

科目名	保育原理	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
担当教員	山上 裕子			
開講期	I			
授業概要	本科目は、保育を学ぶための入門にあたる。生涯にわたる人格形成の基礎を培う保育は、どのような基本を踏まえて活動を行うのか。保育の思想や歴史を踏まえ、保育の必要性、国の施策にみる保育の基本、保育の目標や方法などについて取りあげる。授業では、随時、グループ・ワークによる学びを取り入れる。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ ☒ 位置づけ・水準 CE2101			
達成目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育の本質理解」「豊かな人間性と規範意識」に対応している。☒ ①保育の意義を、7割以上理解できたか。☒ ②「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の法的位置づけや保育の基本を、7割以上理解できたか。☒ ③保育の思想と歴史について、7割以上理解できたか。			
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得希望者	成績評価 方法	授業参加度（30点）、レポート（30点）	授業内試験（40点）
教科書	・西村望編『教育原理』みらい社、2018年。			
参考書	・「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示 文部科学省）☒ ・「保育所保育指針」（平成29年3月告示 厚生労働省）☒ ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示 内閣府）			
学生への要望	授業用のノートを用意し、疑問に思ったこと、感じたことなどメモをすること。☒ 欠席、遅刻はしないようにすること。			
オフィスタイム	木曜日：14：30～16：00☒ 金曜日：14：30～16：00 ☒ 833研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育のイメージをする。 ☒	シラバスを確認し、自身の乳幼児期のことを、家族から聴いたり思い出したりする。	30
2	保育の必要性	未熟な状態で生まれるヒトであることをふまえ、文化的環境の中で、人間として成長していくことを、野生児の事例から学ぶ。 ☒	ヒト以外の動物の生誕について調べる。	60
3	保育の意義	ヒトから人間への成長において、未熟ではあるが、子どもには独自の世界があるという子ども観を知り、保育の意義を考える。	前回の授業内容を振り返る。本時の授業から保育の意義を整理する。	60
4	保育とは何か	「保」「育」の言葉を手がかりにして、日本語の語源や西洋で保育にあたる言葉を知り、「育む」ことの意味を考える。これまでの授業で感じたこと、考えたことをまとめる。	「保」「育」の言葉について、その意味を調べる。	30
5	養護と教育	養護と教育の関係を中心にして、環境をととした保育、発達の視点などについて、「保育所保育指針」をととして学ぶ。また、子ども・子育て支援制度を知り、保育施設と家庭との関係を学ぶ。	「保育所保育指針」を手に取り、記載内容を概観する。	60
6	「幼稚園教育要領」における保育の基本	「幼稚園教育要領」の法的位置づけや、ねらい及び内容を、「保育所保育指針」と比較しながら学ぶ。	「幼稚園教育要領」の記載内容を概観する。	60
7	「保育所保育指針」における保育の基本	社会からの要請を受けて改訂された「保育所保育指針」の法的位置づけや、ねらい及び内容について学ぶ。	「保育所保育指針」を通読する。	60
8	保育の目標	小学校就学までに何を育んだらよいのか。10のねらいを知り、保育活動の留意点や計画を立てていくための基本を学ぶ	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」における10のねらいの位置づけを確認する。	60
9	西洋と日本の子ども観	中世から近代にかけての西洋の子ども観の変遷をたどるとともに、日本では子どもを善とみる見方があったことを知る。	世界史の年表で時代を確認する。また、授業で取りあげられた事項の時代の様相を確認する。	60
10	日本の保育思想と歴史	江戸時代から明治期にかけて各地に設立された、保育所や子守学校について学ぶ。	日本史の年表で時代を確認する。また、授業で取りあげられた事項の時代の様相を確認する。	60
11	日本で初めての幼稚園	東京女子師範学校附属幼稚園のはじまりについて学ぶ。	明治時代の社会変動について確認する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	倉橋惣三の保育論	東京女子師範学校附属幼稚園の改革をし、今日の日本の保育を切り開いた倉橋について、彼の保育への情熱や誘導保育論などを学ぶ。	倉橋惣三について調べる。	60
13	倉橋惣三の保育思想	『育ての心』や『幼稚園雑草』を読み、感想を出し合い、保育のあるべき姿を考えまとめる。	配布資料を通読する。これまで学んだことの整理をする。	90
14	外国の保育の現状と課題	アメリカでの就学前の政策について知り、ヘッドスタート政策以降、過剰な教育への見直しが進められていることを学ぶ。	アメリカ社会について、イメージがもてるように情報を獲得する。これまで学んだことの整理をする。	90
15	まとめ	これまで学んできたことの理解度を、授業内試験をとおし確認し、解説を受ける。	試験に備えて準備を進め、理解が不足しているものは解説を受けて補う。	60

科目名	保育原理Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員	山上 裕子			
開講期	Ⅳ			
授業概要	本科目は、保育活動についてより専門性を深めるための科目です。内容は、子どもを理解するための観察の方法を取りあげます。子どもの発話の記録やエピソード記録、蜘蛛の巣型記録などです。これまでの実習日誌をもとに、更に子どもを観察する観点を議論し、改めて子どもを観察し、観察力を磨いていきます。フィードバックは、その都度行います。☒ 位置づけ・水準 CE2202			
達成目標	本科目の教職ディプロマ・ポリシーとの対応項目は、次のとおりである。「保育の本質の理解」「豊かな人間性と規範意識」。子どもを理解するための観察方法について、7割以上理解できる。			
受講資格	保育について関心のある者		成績評価 方法	平常点30％・レポート70％
教科書	特に指定はしない			
参考書	適宜、紹介する			
学生への要望	観察記録を整えていく作業をいとわないこと。			
オフィスタイム	木曜日：14：30～16：00 833研究室☒ 金曜日：12：50～14：20 833研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業内容について説明を受け、到達目標を確認する。これまでの実習日誌を振り返り、子どもを観察することについて議論をする。	シラバスを確認し、これまでの実習日誌に記載した観察記録を振り返る。	30
2	多様な観察方法	子どもの活動を観察する方法には、様々なものがあることを学ぶ。	配布資料を読み、ポイントを整理する。	60
3	発話の記録①	子どもの発話と保育者の発話を記録する方法を、資料をもとに学ぶ。	配布資料を読み、ポイントを整理する。	60
4	発話の記録②	発話の点から実習日誌を振り返り、発話を記載することの意味を学ぶ。	実習日誌を振り返り、発話を取り出す。	60
5	エピソード記録①	エピソード記録とは何か。改めて学ぶ。	授業で行った内容を、整理する。	60
6	エピソード記録②	エピソード記録の事例を読み、議論し、エピソード記録の意味を学ぶ。これまでの授業の内容をレポートにまとめる。	レポートを作成する。	60
7	エマージェントカリキュラム①	子どもの遊びから、カリキュラムが生まれるというエマージェントカリキュラムの考え方を学ぶ。	配布使用を読み、ポイントを整理する。	60
8	エマージェントカリキュラム②	エマージェントカリキュラムの考えを活かした、観察記録の方法について学ぶ。	配布資料を読み、ポイントを整理する。	60
9	蜘蛛の巣型記録の実際①	実習日誌から、蜘蛛の巣型記録の作成を試みる。	配布資料を読み、ポイントを整理する。	60
10	蜘蛛の巣型記録の実際②	実際に子どもの活動を、観察し記録する。	蜘蛛の巣型記録を作成する。	60
11	蜘蛛の巣型記録の実際③	実際に子どもの活動の記録を、蜘蛛の巣型に整理する。	蜘蛛の巣型記録を作成する。	60
12	蜘蛛の巣型記録の実際④	受講生同士で作成した記録から、子どもの理解を深める。保育者にインタビューを行い、蜘蛛の巣型記録の意義を検討する。	蜘蛛の巣型記録の意義をまとめる。	60
13	保育マップ型の観察記録①	保育環境図に子どもの活動の様子を書き込んでいくマップ型の記録方法について学ぶ。	配布使用を読み、ポイントを整理する。	60
14	保育マップ型の観察記録②	これまでの記録を、マップ型に直してみることをとおして、その意義を学ぶ。	学んだことを整理する。	90
15	まとめ	これまでの学びをレポートにして、確かめ、指導を受ける。	学んだことを整理する。	30

科目名	教育原理	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	山上 裕子		
開講期	Ⅱ		
授業概要	教育とはどのような行為をいうのか。人が成長していくために、教育は何ができるのか。本科目は、教え、学ぶ行為を考えていくための基礎を学ぶ科目である。授業では、近代学校教育制度の始まりとその時代背景、さまざまな教育実践、思想を時代の経過をたどりつつ講義する。また、安全な場である教育現場において、事故が発生している実態やその対策についてリスクの考え方を取りあげる。講義は、実物投影機や教材を使用した活動を適宜取り入れる。また、読書レポートを課し、教育を深く考える機会を設ける。☒ 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準 CE2103		
達成目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育の本質理解」「豊かな人間性と規範意識」に対応している。☒ ①近代学校教育制度の成立について、その社会的背景を捉えて、7割以上理解できたか。☒ ②代表的な教育思想と実践について、7割以上理解できたか。☒ ③保育事故を踏まえ、安全教育の重要性について7割以上理解できたか。		
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種免許、保育士資格取得希望者。	成績評価 方法	授業内試験（４０％）、レポート（３０％）、授業参加度（３０％）
教科書	・西村望編『教育原理』みらい社、２０１８年。		
参考書	・「幼稚園教育要領」（平成２９年３月告示 文部科学省）☒ ・「保育所保育指針」（平成２９年３月告示 厚生労働省）☒ ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成２９年３月告示 内閣府）		
学生への要望	講義用ノートを用意し、疑問点をメモすること。☒ 欠席、遅刻をしないよう注意すること。		
オフィスタイム	木曜日：１４：３０～１６：００☒ 金曜日：１２：５０～１４：２０ ☒ ８３３研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。真の知識とは何か。生涯学習社会において求められる乳幼児期の学びを考える。	シラバスを読み、保育原理の授業で学んだことを振り返る。	30
2	教育の目的と意義	人類の歴史とともにある教育的行為の諸要素を知り、「日本国憲法」や「教育基本法」などをとおして教育の目的について考える。また、人間観や子ども観、教える内容、社会的状況との関連にあることを学ぶ。	教科書の26～37頁を通読する。保育に関すると思う書籍を探す。	60
3	近代学校教育制度の始まり	今日の学校教育制度は、近代と呼ばれる時代に誕生した。イギリス産業革命期において、児童労働が問題となり、子どもを保護するために政府によって制定された「工場法」により初等教育の法制化が始まったことを学ぶ。また、工場経営者オウエンによる性格形成学院の実践から環境をとおした教育という考え方を学ぶ。	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代を確認する。保育に関すると思う書籍を探す。	60
4	一斉授業と個別指導	大量の児童を教えるために効率のよい一斉授業が考案された。モニトリアル・システムについて、その長所と短所を考え、グループで意見をまとめる。一方で、自ら思考することをとおして知識を獲得する教育の考えがあったことを学ぶ。	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代を確認する。保育に関すると思う書籍を探す。	60
5	教科書の登場	英語圏で使用された教科書「ホーン・ブック」やコメニウスの『世界図絵』を知り、教科書の役割を考える。また、コメニウスはなぜ『世界図絵』を作成したのか、その理由を探り、母国語で学ぶことの意味、家庭教育の意義を学ぶ。	西洋史の年表を手に取り、学ぶ事項の時代を確認する。保育に関すると思う書籍を探す。	60
6	子どもの発見者	子どもから始まる新教育の源流である、ルソーの思想について学ぶ。生まれた時は善であるが、社会によって子どもがゆがめられていくという考えを知り、実際に『エミール』の一節を読んでみる。	教科書の該当箇所を読む。配布資料を読む。	60
7	子どもからの教育	現在の理性を働かせて現在の自己を乗り越えていく啓蒙思想を学び、ルソーの消極的教育の思想を理解する。読書をとおした深い学びの方法を知る。	教科書の該当箇所を読む。読書レポートを進める。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	貧民の救済と直観教育	貧民の子どもを救済するために、すべてを教育に捧げたベスタロッチの思想を学ぶ。家庭の居間の雰囲気や道徳教育や直観教育などの実践を、実際に体験することをとおして理解する。	教科書の該当箇所を読む。読書レポートを進める。	60
9	教育機関としての幼稚園	単に子どもを預かるだけでなく、発達を促す場として幼稚園を創設したフレーベルについて、恩物の体験をとおして学ぶ。	教科書の該当箇所を読む。読書レポートを進める。	120
10	教材の開発	知的障害者の教育のために考案された教具を使用した、モンテッソーリ・メソッドについて学ぶ。教具の目的、教具を使用することによる自己活動の効果を学ぶとともに、実際に教具を経験して理解を深める。現在も、行われている実践であることを学ぶ、	教科書の該当箇所を読む。これまで学んできたことを整理する。	60
11	経験主義教育	アメリカプラグマティストのデューイの教育思想を学ぶ。経験をとおした学び、生の素材を使用した実践など、幼児期を含むラボラトリー・スクールの実践をとおして、総合的な学びの内容を考える。	これまで経験してきた問題解決学習について思い出す。	30
12	問題解決学習	問題解決学習として現在盛んに取り組まれている論理を学ぶ。これまで自身が経験してきた総合的学習の時間を振り返り、問題解決学習について理解を深める。	これまで経験してきた問題解決学習からデューイの理論を確認する。	60
13	保育事故の現状	一向に減少しない保育事故の実態を、内閣府で公開しているデータベースを読むことをとおして知る。教育機関の安全管理の重要性について学ぶ。	実習時に、ヒヤリとしたことを思い出し、何に気をつければよいのかを確認する。	60
14	安全教育	リスクという言葉の意味を知り、チャレンジ精神を損なうことのない安全教育について学ぶ。子ども自身でリスク・マネジメントができ、そのために問題解決学習が取り入れられていることを知る。現在、行われている実践を知る。	学んできたことを整理し、説明できるように準備する。	90
15	まとめ	これまで学んできたことの理解度を、ノートに整理したことをもとに、授業内試験を受ける。解説を聞き理解を確かめる。	ノートを整理する。	60

科目名	子ども家庭福祉	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
担当教員	宮内 俊一			
開講期	Ⅱ			
授業概要	子どもの育ちを現代社会の特徴を踏まえながら、社会的に支える仕組みや制度について基礎的な知識を習得する。			
達成目標	子どもの育ちを現代社会の特徴を踏まえながら、社会的に支える仕組みや制度について基礎的な知識を習得する。			
受講資格	特になし		成績評価 方法	出席を含む授業態度（４０％）、授業内レポート（３０％）、試験（３０％）により評価する。
教科書	授業の中で、随時紹介する。			
参考書	授業の中で、随時紹介する。			
学生への要望	身近な事がらを取り上げ、イメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を望む。			
オフィスタイム	授業開始前、授業終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法についての説明を行う。☑		0
2	現代社会の特徴と子ども家庭福祉	・現代社会の諸問題を社会福祉の観点から捉える。☑ ・子ども家庭福祉の意義について理解を深める。		0
3	子ども家庭福祉の基本的枠組み	・子ども家庭福祉の援助観・理念を学ぶ。☑ ・子どもの人権について理解を深める。		0
4	子ども家庭福祉の歴史	・社会福祉の成り立ちを学ぶ。☑ ・欧米での児童家庭福祉および日本の子ども家庭福祉の歴史を学ぶ。		0
5	子ども家庭福祉の援助	・社会福祉の援助の基本的視点を学ぶ。☑ ・子ども家庭福祉分野の特性、援助目標について学ぶ。		0
6	子ども家庭福祉の法律と制度	・子ども家庭福祉の基礎的法体系を理解する。☑ ・子ども家庭福祉実施の財源について学ぶ。		0
7	子ども家庭福祉の実施体制	・子ども家庭福祉を推進していくための機構について学ぶ。☑ ・各機構において従事する様々な職員について学ぶとともに専門性について理解する。		0
8	就学前の保育・教育との関連①	・就学前保育・教育の中心となる保育園、幼稚園等について子ども家庭福祉と関連付けて学ぶ。☑		0
9	就学前の保育・教育との関連②	・保育園、幼稚園、認定こども園、地域型保育について具体的な事例とともに特徴を理解する。		0
10	児童虐待と子ども家庭福祉	・児童虐待の防止に関する法律や施策について理解する。☑ ・児童虐待対応の流れと予防策について学ぶ。☑		0
11	社会的養護と子ども家庭福祉	・社会的養護の基本的な理念を学ぶ。☑ ・子どもの権利条約や国際的な児童に対する施策について理解する。		0
12	さまざまな児童に対する家庭福祉①	・ひとり親家庭の現状を理解し、その支援策について学ぶ。☑ ・障がいとは何かを考察し、障がい福祉サービスについて学ぶ。		0
13	さまざまな児童に対する家庭福祉②	・障がい児とその家庭が抱える問題について考察し、その支援策について学ぶ。☑ ・非行問題を理解するとともに、その支援策や予防策について学ぶ。		0
14	子ども家庭福祉のの課題と今後①	・授業を通して学習してきたことから現在の課題を考察する。		0
15	子ども家庭福祉のの課題と今後②	・前回の授業で考察した課題に対して有効な解決方法を考察する。		0

科目名	社会福祉	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
担当教員	宮内 俊一			
開講期	I			
授業概要	社会福祉学とは何かを考え、人権について知り、権利を守るための法律や制度、行政の仕組みを知り、活用できる知識を持つ☒ 適宜レポートや発表を通し,双方向型の授業を行い、考える力をつける。☒ ☒ 最後の授業に課題やレポートなどを全体にフィードバックする☒ 地域包括支援センターでの勤務経験を活かし、事例などを交えながら実践に結び付く授業を行う☒ 実務経験：地域包括支援センター所長（兼務・社会福祉士・主任介護支援専門員）として勤務☒ ☒ 位置づけ・水準 CE2105			
達成目標	①社会福祉の歴史や現状から考え方を学ぶ☒ ②社会福祉の対象者を知る☒ ③社会福祉の法律や制度、行政機関の仕組みを学ぶ☒ 単位認定の最低基準は、：「内容の8割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の本質理解・豊かな人間性と規範意識			
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	試験 7 0 %、課題 3 0 %	
教科書	新基本保育シリーズ4「社会福祉」 中央法規			
参考書	適宜紹介する。			
学生への要望	・社会福祉の授業を通して、人と関わることの意味、意義を考えてほしい。☒ ・社会福祉の制度を活用できるよう意識して学んでほしい。			
オフィスタイム	月曜日Ⅳ時限・金曜日Ⅲ時限 創学館 4 F 研究室No. 6			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 社会福祉の理念と歴史の変遷	・社会福祉の概念 ・社会福祉の歴史の変遷 ・社会福祉の現代的課題	・社会福祉とは何かを理解する	30
2	子ども家庭支援と社会福祉	・社会福祉の専門職としての保育士と保育所、子ども家庭支援について ・地域子育て支援と課題	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
3	社会福祉の制度と法体系	・社会福祉における法体制と制度の種類や内容 ・社会福祉の法制度の活用	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等	・社会福祉の行財政 ・社会福祉施設とは	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
5	社会福祉の専門職	・社会福祉の専門職の資格、職種	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
6	社会保障および関連制度の概要	・社会保障制度とは ・子どもを育てる世帯の現状 ・新しい社会的リスク	・テキストで予習を行う ・課題を行う（社会福祉の制度について）	90
7	相談援助の理論	・相談援助の理論 ・保育所、児童福祉士等における相談	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
8	相談援助の意義と機能	・相談援助の特徴 ・相談援助の原則、意義と機能	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
9	相談援助の対象と過程	・保育における相談援助 ・相談援助に求められる対応	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
10	相談援助の方法と技術	・保育現場における相談援助の方法と技術 ・相談援助活動のこれから	・テキストで予習を行う☑ ・授業内容のポイントをまとめる	30
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ	・権利擁護と苦情解決 ・権利擁護の仕組みや制度	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
12	少子高齢化社会における子育て支援	・少子化の現状と対策 ・少子化対策における保育所の役割や期待	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
13	共生社会の実現と障害者施策	・障害者について知り、施策を考える	・テキストで予習を行う ・課題を行う（保育士の倫理について）	90
14	在宅福祉・地域福祉の推進	・地域福祉の概念 ・地域における子育て支援と保育所との関係 ・保育士に求められる役割	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30
15	諸外国の社会福祉の動向 まとめ	・社会福祉と福祉国家（海外の福祉） ・課題やレポートなどを全体にフィードバックする	・テキストで予習を行う ・授業内容のポイントをまとめる	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	子ども家庭支援論	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員	宮内 俊一			
開講期	IV			
授業概要	授業概要は、乳幼児期の子どもを育てる家族の置かれている社会的状況や家族の変化を理解し、子育て支援制度、地域における子育ての重要性を理解すること。毎回各自で調べた結果を書きこむ調査結果シートを作成し指定回に提出する。それに対してコメントをつけフィードバックを行う。位置付け・水準:CE2206			
達成目標	調査結果シートを指定回に提出する。単位認定の最低基準: 内容の8割を理解していること。重点項目は①家族の変化と社会の変化、②さまざまな子育て支援の理解、③海外の事例に学ぶ。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係: 保育の本質理解、豊かな人間性と規範意識			
受講資格	幼児教育学科 2 年生	成績評価 方法	調査結果シート(80点)、授業提出物(20点)	
教科書	レジュメを配布する。			
参考書	『家庭支援論』公益財団法人児童育成協会監修、新保幸男・小林理編、中央法規、2016年☑ 『子育て支援』名須川知子・大方美香監修、伊藤篤編著、ミネルヴァ書房、2018年			
学生への要望	キーワードを3つ探して意味を検索し関連書籍を読むなど、自分から積極的に学ぶ姿勢を高く評価します。			
オフィスタイム	月曜Ⅱ限、木曜Ⅱ限、場所は(芸術館1館)地域創成学科研究室N0.1			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	授業の進め方や授業到達目標、授業概要、成績評価の出し方を説明する。	復習: 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習: 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60
2	家族の変化	単独世帯の増加、家族の小規模化、少子化・晩婚化・非婚化の進行等を各統計資料から理解する。	復習: 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習: 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60
3	社会の変化	共働き世帯の増加、男女雇用機会均等法の施行、労働環境の整備、生活時間の変化、社会経済状態が家庭生活に与える影響、子どもの貧困等について理解する。	復習: 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習: 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60
4	保護者の悩みと様々な方法	家族や社会の変化の中で保護者はどのようなことに悩んでいるのだろうか。それに対する支援はどのようなものがあるのかを知る。	復習: 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習: 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60
5	中間ポイント確認	ここまでの内容を振り返りポイントを確認する。	復習: 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習: 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60
6	保育所が行う子育て支援	子どもの保育と共に保護者や家庭への支援も重要になる。家庭や地域との連携、保護者への支援について考える。	復習: 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習: 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60
7	幼稚園が行う子育て支援	園児の保護者や地域の家庭に対する支援、特に預かり保育の課題や目的、留意点等を理解する。	復習: 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習: 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60
8	認定こども園が行う子育て支援	認定こども園のはじまり、認定こども園の機能と類型、幼保連携型認定こども園教育について理解する。	復習: 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習: 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60
9	地域子育て支援拠点事業	子育て親子の交流の場の提供、子育て等に関する相談援助の実施、地域の子育て関連情報の提供等を理解する。	復習: 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習: 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60
10	海外の事例(フィンランド1)	包括的子育て支援として、フィンランドのネウボラについて学ぶ。	復習: 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習: 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	海外の事例(フィンランド2)	フィンランドのネウボラについて、日本で実施されているネウボラについて学ぶ。	復習： 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習： 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60
12	海外の事例(スウェーデン)	就学前学校の制度と現状、就学前学校の実際、親支援、親向け研修プログラムの実施などを理解する。	復習： 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習： 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60
13	海外の事例(カナダ)	教育施策を州政府が行うカナダを取り上げる。共働き世帯の増加、ファミリーリソースセンター(地域密着型民間組織)における学童保育や親教育の実施等について理解する。	復習： 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習： 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60
14	調査結果シート完成	これまでの授業内容を振り返り、調査結果シートを作成しシステムめばえmocaに提出する。	復習： 興味関心や疑問をもったワードを調べシートに記入する。予習： 次回テーマに関連するキーワード3つを調べシートに記入する。	60
15	まとめ	授業内容のまとめをする。	復習：これまでのまとめ、感想・意見をシートに記入する。	60

科目名	社会的養護Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員	宮内 俊一			
開講期	Ⅲ			
授業概要	社会的養護とは、様々な理由で保護者のない児童を公的責任で社会的に養育するとともに、養育に困難を抱える家庭への支援を行うことです。親がいない子どもの理解、制度の概念と歴史、運用等について理解し、保育士としてどのようなかわりをもつのかについて考えます。この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として実務経験のある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます（CE2207）。			
達成目標	社会的養護の基本理念に基づき以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・社会的養護の仕組みについて理解し、保育士に必要な資質についてわかる。 ・人権擁護の視点から、子どもの現状を理解する。 なおこの科目は、本学科DPの「保育の本質理解」「豊かな人間性と規範意識」に関連しています。			
受講資格	幼児教育学科 2年	成績評価 方法	積極的な授業参加（10％）、授業内課題やレポート（2回：60％）、小テスト（30％）により評価します。	
教科書	新基本保育シリーズ「社会的養護Ⅰ」（中央法規）とレジュメ、資料（随時配布）を併用します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
オフィスタイム	授業開始前・終了後：宇治研究室（836）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 子ども福祉の基本	・授業内容、評価方法について説明する☒ ・子ども福祉の概要を説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
2	親がいない子どもの理解 1	・子ども虐待の歴史と現状について説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
3	親がいない子どもの理解 2	・子どもを虐待環境から守るための支援について説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
4	社会的養護の基本的な考え方	・社会的養護の担い手と基本理念等について説明する	教科書を予習・復習すること	60
5	社会的養護の目指す方向	・社会的養護に関する原理と方向性について説明する	教科書を予習・復習すること	60
6	社会的養護の歴史 1	・海外における社会的養護の紹介	教科書を予習・復習すること	60
7	社会的養護の歴史 2	・日本における社会的養護の紹介 ・施設養護について説明する	教科書を予習・復習すること	60
8	ホスピタリズムと家庭養育の強調から	・施設で育つ子どもたちの心理的問題について説明する	教科書を予習・復習すること	60
9	子どもの権利擁護の視点から 1	・児童憲章、子どもの権利条約の内容を具体例を交えながら説明する	教科書を予習・復習すること	60
10	子どもの権利擁護の視点から 2	・子どもの施設での生活について説明する ・他職種との連携	教科書を予習・復習すること	60
11	子どもの権利擁護の視点から 3	・子どもの人権、個別化、親子関係調整、自立支援の原理について説明する	教科書を予習・復習すること	60
12	施設養護の工夫	・家庭的養護の要素を取り入れる工夫について説明する	教科書を予習・復習すること	60
13	社会的養護の中での子ども	・新しい社会的養育ビジョンについて説明する ・子どものアイデンティティ形成の問題について説明する	教科書を予習・復習すること	60
14	施設実習にむけて	・社会的養護の中での職業倫理について説明する ・福祉現場での子どもの理解についてディベートを行う	教科書を予習・復習すること	60
15	社会的養護体験の理解	・社会的養護体験者の動画を視聴する ・まとめと確認のための小テストを実施	教科書を予習・復習すること	60

科目名	保育者論	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	安部 高太郎		
開講期	I		
授業概要	本科目では、幼稚園教諭や保育士等の「保育者」として求められる役割や倫理について理解し、「保育者」の制度的な位置づけやその専門性及びキャリア形成等について学ぶ。現行の幼稚園教育要領や保育所保育指針等を参照しつつ、幼稚園教諭・保育士等の「保育者」が制度的にどう位置づけられ、専門性を持っているとされているのかを整理する。授業においては、子ども子育て支援新制度以降の保育・幼児教育に関わる現在の状況を踏まえながら、新聞等のメディアで報道される保育・幼児教育等に関わる問題と保育者がどう関わるのかについても言及し、グループディスカッション等のアクティヴ・ラーニングの手法を用いて学生の理解が深まるよう工夫する。☒ ☒ ○本科目の位置づけ・水準 CE2108		
達成目標	本科目においては、次の五つの達成目標を定める。☒ 1. 保育者の役割と倫理について理解できたか。☒ 2. 保育者の制度的な位置づけを理解できたか。☒ 3. 保育者の専門性について考察し、理解できたか。☒ 4. 保育者の連携・協働について理解できたか。☒ 5. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解できたか。☒ ☒ ○単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること。☒ ○ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の本質の理解、豊かな人間性と規範意識。		
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者。	成績評価 方法	①授業参加度(受講態度や提出物の提出状況)：30%☒ ②授業内試験(第15回に予定)：70%☒ ①及び②の合計：100%
教科書	厚生労働省 編 (2018)『保育所保育指針解説(平成30年3月)』フレーベル館。☒ 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館。☒ 文部科学省 (2018)『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館。☒ ※加えて、適宜、必要に応じて授業担当者が資料を配布する。		
参考書	津守眞 (1997)『保育者の地平』ミネルヴァ書房。		
学生への要望	本科目を受講する学生には以下のことを求める。☒ ・欠席、遅刻はしないこと。☒ ・わからないことや疑問に思ったことは積極的に質問すること。☒ ・新聞やTV番組等を通じて、保育に関わる情報や話題を自ら収集すること。		
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限 (14：30～16：00) ・火曜日Ⅴ限 (16：10～17：40) ☒ いずれも、83年館2階の安部研究室 (821研究室) とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部 (k-abe@koriyama-kgc.ac.jp) までメールで連絡を入れること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。自身の経験等から、保育者の仕事をイメージする。	自らが憧れとする保育者（幼稚園教諭・保育士等）はどのような人かを言語化し、そのような保育者となるにはどういう力や技能が必要であるかを考える。	30
2	保育者の役割・職務内容	児童福祉法や学校教育法等に即しながら、保育士・幼稚園教諭等の保育者として求められる役割、職務内容について整理する。	『保育所保育指針解説』・『幼稚園教育要領解説』等の保育者の役割・職務内容に関連する箇所を読んでおく。	60
3	保育者の倫理	全国保育士会倫理綱領や児童福祉法・教育職員免許法等に則しながら、保育者の倫理について学ぶ。	インターネット上で全国保育士会倫理綱領を探し、内容をひとつひとつ読上げ、重要だと思うところに線を引いてくる。	60
4	保育者の制度的位置づけ	保育士の資格取得・欠格事項及び幼稚園教諭の免許状の種類・欠格事項等について、児童福祉法・教育職員免許法等を参照しながら整理する。さらに認定こども園における保育者の位置づけについても学ぶ。	内閣府のHPから子ども・子育て支援新制度に関するリーフレットをダウンロードし、読んでおく。	60
5	保育者の資質・能力	中央教育審議会の「教員の資質能力向上特別部会」による報告書「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」等を参照しながら、保育者としての資質・能力について考える。	保育者として身につけるべきだと思う能力・技能等について自分なりに考えてくる。	60
6	養護及び教育の一体的展開	保育所保育指針・幼稚園教育要領等に即しながら、養護と教育が一体的に展開されることの意味を整理する。	保育所保育指針・幼稚園教育要領等の該当箇所を読んでくる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	家庭との連携・保護者支援	保育所等における子育て支援の意義を、時代状況を踏まえながら整理し、保護者・家庭と連携しながら保育を展開することの重要性について理解する。	男性保育士によるおむつ替えに対して起きた騒動など、昨今の保育をめぐる情報を新聞等から得ておく。	90
8	保育の計画と評価：あるいは、保育におけるリフレクション	保育における計画・評価の意味を確認し、保育においてなされるリフレクションとはどのようなものとなるのかを学ぶ。	指導計画を立てる意味を自分なりに考えてくる。	60
9	保育の質をめぐる議論	保育の「質」として語られるものとしてどういう視点があるのかを学ぶ。	自分にとって理想の保育とはどういう性質のものであるのかをノートに記してくる。	60
10	保育の質を向上させるために：方法論・カリキュラム論の視点から	保育の質を向上させるために、どのような方法がありうるのか、カリキュラムとしてはどのように構想できるのかを考える。	子どもにとっての遊びが学びであることの意味を考えてくる。	60
11	保育における職員間の連携・協働	保育所等における職員間の連携・協働について、学ぶ。	チーム保育や特に乳児の担当制保育のあり方について、参考書等を元にしながら、自分なりに調べておく。	60
12	他の専門機関等との連携・協働	医療機関や小学校との連携・協働について、10の姿などに即しながら学ぶ。	10の姿について保育所保育指針・幼稚園教育要領等で見ておく。	60
13	地域社会の中の保育所・幼稚園等の施設	地域社会との連携や協働について、保育所・幼稚園等の実例をもとに知る。	附属幼稚園等、学生にとって身近な保育の現場における地域連携の実態を調べておく。	60
14	保育者のキャリア形成	キャリアアップ研修等の保育者のキャリアに関わる研修について整理する。	保育者として働く上で大切にしたいことは何か自分なりの考えをノートに記してくる。	60
15	まとめ	ノートや配布資料等を持参したうえで授業内試験を受ける。これまでの理解を確認し、解説を受ける。	ノートを整理し試験に備え、理解できなかったことを復習する。	60

科目名	保育の心理学Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
担当教員	折笠 国康			
開講期	Ⅱ			
授業概要	保育実践にかかわる心理学の基礎知識を学習し、子どもへの理解を深め好ましい対応を見極める力を養うことを目標とする。特に、人間の発達の過程を見据えながらその特徴について学習する。☒ 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準 CE2109			
達成目標	①子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深めることができたか。☒ ②保育実践にかかわる心理学的な基礎理論を理解することができたか。☒ ③子どもの発達を援助する方法を心理学的な観点で理解することができたか。☒ 単位認定の最低基準は、：「内容の7割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：子どもの発達の理解と支援の力			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年	成績評価 方法	内容の「70%」の理解で合格とするが、「80%程度」の理解が望まれる。理解度の評価は小レポート30%、試験70%で行う。	
教科書	特にしてはしない。授業の時に資料を配布することがある。			
参考書	必要に応じて紹介する。			
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。☒ 専用のノートを準備すること。			
オフィスタイム	火曜 2限 835研究室☒ 水曜 4限 835研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 保育の基本 勇気づけ理論	この科目の目標と授業方針を理解する。保育とは何かを心理学的な視点から理解する。☒ ほめる・叱るにかかわるアプローチである“勇気づけ”についての基礎理論を理解する。☒	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
2	保育のための心理学 交流分析	自己についてエゴグラムを用いた交流分析によって理解する。☒ ☒	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
3	保育のための心理学 -発達心理学-	子どもの発達や成長に関して、心理的な知見や関わり方を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
4	保育のための心理学 -保育の目標 ①-	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
5	保育のための心理学 -保育の目標 ②-	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
6	保育のための心理学 -保育者の役割 1-	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重要性を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
7	保育のための心理学 -運動や遊びの本質-	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
8	保育のための心理学 -運動や遊びの本質 2-	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
9	保育のための心理学 -保育者の役割 2-	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重要性を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
10	保育のための心理学 一動機づけの理論-	人間のやる気や意欲にかかわる動機づけの理論の基礎を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
11	保育のための心理学 -保育者の役割 3-	動機づけ理論の基礎を基に、ほめる・叱るといった賞罰についての心理学的知見を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
12	保育のための心理学 -アドラー心理学 1-	子どもの適応を育むための、アドラー心理学の理論を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
13	保育のための心理学 -アドラー心理学 2-	子どもとの良好な関係性を築くため、アドラー心理学の理論を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
14	保育のための心理学 教師のリーダーシップ	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
15	本講義のまとめ	テストを実施し、本講義を振り返り保育に関する心理学的視点を復習する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

科目名	教育心理学	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康		
開講期	I		
授業概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準 CE211 0		
達成目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。☒ ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。☒ ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。☒ 単位認定の最低基準は、：「内容の7割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：子どもの発達の理解と支援の力		
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年	成績評価 方法	授業内容の「80％程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30％、試験70％で行う。
教科書	特に指定はしない。		
参考書	講義の中で、適宜紹介する。		
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。		
オフィスタイム	金曜 2限 8 3 5 研究室☒ 3限 8 3 5 研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	この授業の目的と授業方針を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
2	人間の発達 ー発達心理学ー	人間の発達や成長に関して、心理学的な知見や理論を学び理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
3	自己とは(1) 認知について	認知心理学の基礎を学び、自己に対する認識について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
4	自己とは(2) 認知について	ピアジェの認知の発達に関する理論を学び理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
5	自己とは(3) 自我同一性	自我同一性を中心に心理学的な枠組みで自己とは何かを理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
6	自己とは(4) 自己概念	心理学的な構成概念としての自己概念の理論的枠組みを理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
7	自己とは(5) 自尊感情と自己評価	自尊感情や自己評価に関する心理学的知見を概観し理解する。☑ 「本当の自分」に関して、心理学的視野から理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
8	自己とは(6) 自己受容、防衛機制	C、ロジャースの理論を用いて、自己受容について理解する。☑ A、フロイトによる防衛機制の概念を学び、自己についての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
9	自己とは(7) 交流分析	自己についてエゴグラムを用いて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
10	動機づけの理論	内発的動機、外発的動機づけに関する理論を理解する。☑ E、デシの自己決定理論の基礎を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
11	学級のアセスメント 1	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級のアセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
12	学級のアセスメント 2	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級のアセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
13	教師のリーダーシップ 1	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
14	教師のリーダーシップ 2	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
15	本講義のまとめ	試験を実施し、本講義の振り返りを通して教育の実践に必要な心理学的な知見を復習する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

科目名	子ども家庭支援の心理学	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	宇治 和子		
開講期	IV		
授業概要	昨今の保育現場では、家族構造の変化を背景として、保育者も、子どもの発達や学びの過程、生涯発達、多様な育ちなど、保育や子育て支援に関する内容を包括的に理解することが必要になってきました。子どもと家庭を支援していくために保育者としてどのようなかわりをもてばいいのか、心理学の知見から考えます。この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として支援の実務経験がある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます（CE2211）。		
達成目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・心理学的な考え方にに基づき、人の気持ちを推測できるようになる。 ・発達の観点から、子ども家庭支援を捉えることができるようになる。 なおこの科目は、本学科DPの「子どもの発達の理解と支援の力」に関連しています。		
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	積極的な授業参加（10％）、授業内課題やレポート（3回：90％）により評価します。
教科書	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。		
参考書	授業の中で、随時紹介します。		
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。		
オフィスタイム	授業開始前・終了後：宇治研究室（8 3 6）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 家庭支援について	・授業内容、評価方法について説明する ・家庭支援の概略を説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
2	親子関係・家族関係の理解 1	・親子関係について説明する ・人の気持ちを理解するワーク（私は誰でしょうゲーム）	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
3	親子関係・家族関係の理解 2	・家族関係について説明する ・人の気持ちを理解するワーク（タッピング）	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
4	親子関係・家族関係の理解 3	・夫婦関係について説明する ・人の気持ちを理解するワーク（スキグル・ゲーム）	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
5	非言語コミュニケーション 1	・非言語のコミュニケーションについて説明する ・人の気持ちを理解するワーク（立ち位置のロールプレイ）	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
6	非言語コミュニケーション 2	・非言語のコミュニケーションについて説明する ・人の気持ちを理解するワーク（パーソナルスペースのロールプレイ）	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
7	非言語コミュニケーション 3	・非言語のコミュニケーションについて説明する ・人の気持ちを理解するワーク（子どもの態度のロールプレイ）	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
8	発達の理解 1	・乳児期の発達について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
9	発達の理解 2	・幼児期前期の発達について説明する（愛着理論など）	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
10	発達の理解 3	・幼児期後期の発達について説明する（心の理論など）	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
11	発達の理解 4	・学童期の発達について説明する（自尊感情など） ・青年期の発達について説明する（アイデンティティ形成など）	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
12	発達の理解 5	・成人期・老年期の発達について説明する（認知症など）	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
13	発達の理解 6	・発達障害の理解について説明する（ASDを中心に）	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
14	発達の理解 7	・発達障害の理解について説明する（ADHDを中心に）	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
15	発達の理解 8	・発達障害の理解について説明する（SLDを中心に） ・発達障害の理解のまとめ	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60

科目名	子どもの理解と支援	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員	宇治 和子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	どんなに社会が変わっても、子どもの成長発達というものは基本的なところでは大きく変わりません。まずは定型発達の子どもの育ちを、きちんと心理学的に捉えられることを目指します。そのうえで、保育士としてどのようなかわりをもつのかについて考えます。この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として支援の実務経験がある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます（CE2212）			
達成目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・子どもの成長を発達心理学的に捉えられる。 ・心理学的視点から子どもの現状を理解し、対応を考えることができる。 なおこの科目は、本学科DPの「子どもの発達の理解と支援の力」に関連しています。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	積極的な授業参加（10％）、授業内課題やレポート（3回：90％）により評価します。	
教科書	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
オフィスタイム	授業開始前・終了後：宇治研究室（8 3 6）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 保育の心理学 1	・授業内容、評価方法について説明する ・保育領域の心理学について説明する（乳児期の発達）	このテーマに関連する資料、ネット情報などを探して読み、知見を広げる	60
2	保育の心理学 2	・保育領域の心理学について説明する（乳幼児の発達） ・発達に応じた関わりを考えるワークの実施（原始反射・喃語など）	このテーマに関連する資料、ネット情報などを探して読み、知見を広げる	60
3	保育の心理学 3	・保育領域の心理学について説明する（乳児期の発達） ・発達に応じた関わりを考えるワークの実施（8ヵ月不安・情動調律など）	このテーマに関連する資料、ネット情報などを探して読み、知見を広げる	60
4	保育の心理学 4	・保育領域の心理学について説明する（幼児期の発達）	このテーマに関連する資料、ネット情報などを探して読み、知見を広げる	60
5	保育の心理学 5	・保育領域の心理学について説明する（幼児期の発達） ・発達に応じた関わりを考えるワークの実施（愛着・トイレットトレーニングなど）	このテーマに関連する資料、ネット情報などを探して読み、知見を広げる	60
6	保育の心理学 6	・保育領域の心理学について説明する（幼児期の発達） ・発達に応じた関わりを考えるワークの実施（退行・第1次反抗期など）	このテーマに関連する資料、ネット情報などを探して読み、知見を広げる	60
7	保育の心理学 7	・保育領域の心理学について説明する（児童期の発達） ・発達に応じた関わりを考えるワークの実施（仲間づくり・きょうだいによる性格の違いなど）	このテーマに関連する資料、ネット情報などを探して読み、知見を広げる	60
8	保育の心理学 8	・保育領域の心理学について説明する（思春期の発達） ・発達に応じた関わりを考えるワークの実施（第2次反抗期・アイデンティティ形成など）	このテーマに関連する資料、ネット情報などを探して読み、知見を広げる	60

科目名	子どもの食と栄養	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員	水野 時子,善方 美千子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ 子どもにとって食べることは、健やかな心身の成長・発達の基礎となるものであることから、保育者として子供の発育・発達、健康増進のために必要な望ましい食生活のあり方、食事方法を理解する。さらに保育所における食育の実践について理解する。☑ ☑ 〔授業全体の内容の概要〕☑ 子どもにとっての食生活の意義、食生活をめぐる現状と課題、食生活と栄養に関する基本的知識、発育・発達と食生活、食育の基本と内容、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学ぶ。また食育を行うための計画を立て発表会を行う。☑ ☑ 課題に対するフィードバック（評価の伝達）方法：課題・レポート提出後、フィードバックの時間を設定し連絡する。☑ 担当：A・Bクラス 水野担当 C・D・Eクラス 善方担当☑ 位置づけ・水準CE2214			
達成目標	授業の達成目標は☑ ①子どもの健やかな発育・発達のために食事が重要や役割を果たすことを理解している。☑ ②栄養に関する基本的知識を理解している。☑ ③食育の重要性や内容を理解している。☑ ④特別な配慮を要する子どもへの対応について理解している。☑ ⑤乳児期・幼児期・学童期の食生活の特徴、望ましい食生活について理解している。☑ ☑ 単位認定の最低基準は、内容の8割を理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の内容理解と総合的計画力」、「子どもの発達の理解と支援の力」			
受講資格	特にありません		成績評価 方法	レポートと課題の提出 45点、定期試験 55点☑ 60%以上で合格とする。
教科書	子どもの食と栄養（岡井紀代香・吉井美奈子 編著、ミネルヴァ書房、京都市、2200円（税別））			
参考書	必要に応じて連絡する。			
学生への要望	子どもの食について興味と関心を持ち生活してください。			
オフィスタイム	水野：火曜日12：10～12：50、木曜日12：10～12：50 善方：月曜日12：10～12：50、水曜日12：10～12：50		83年館2階「栄養学研究室」☑ 家政学館2階「解剖学研究室」	

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの健やかな発育・発達のための食事の重要性について、また食事は栄養面だけでなく社会性の発達や食習慣の形成にも深く関わりのあることを学び理解する。	授業の内容を振り返る。	20
2	子どもの食生活をめぐる現状と課題	子どもの生活習慣の現状、朝食の摂食と就寝時間の関係、子どもの体型等について学び、子どもの食生活をめぐる現状と課題について理解する。	授業の内容を振り返る。	20
3	子どもの食生活の理解	子どもの食に関する理解を深めるためにビデオ「3歳児食べるよろこび」を視聴し、食べることを通して親や保護者の係わり方、また子ども自身の成長を理解する☑ ☑ポート：ビデオを通して学んだことについて感想レポートを提出する。 ≪参考ビデオ「3歳児食べるよろこび」≫ ☑画：キッコーマン醤油株式会社、制作：岩波映画作成所	授業の内容を振り返る。 「第1回～第3回授業内容に関する課題」に取り組む。	40
4	栄養に関する基礎知識 1	食べ物に含まれている栄養素の種類とその働き、「日本人の食事摂取基準2020年版」における小児期栄養の留意点を学び理解する。 「第1回～第3回の授業内容に関する課題」を提出する。	授業の内容を振り返る。	20
5	栄養に関する基礎知識 2	栄養の特性を理解し、食事摂取基準をもとにした献立作成と食品構成について学び、どのような組み合わせで食べればよいかを理解する。	授業の内容を振り返る。 「第4回・第5回授業内容に関する課題」に取り組む。	40
6	子どもの発育発達と食生活 1 乳児期	乳児の食べる機能の変化と栄養補給法（乳汁栄養・離乳）について学び、乳児栄養について理解する。また、調乳方法について学び理解する。 「第4回・第5回授業内容に関する課題」を提出する。	授業の内容を振り返る。	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	子どもの発育発達と食生活 2 ☒ ☒ 幼児期	幼児期の食機能の特徴と間食が必要な理由と与え方について学び、幼児期栄養について理解する。また、保育所給食の実際について学び理解する。	授業の内容を振り返る。	20
8	子どもの発育発達と食生活 3 学童期	「食習慣の完成期」である学童期の食行動の実態や動向、また学童期の食生活の特徴と学校給食について学び、学童期栄養について理解する。	授業の内容を振り返る。	40
9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子ども、食物アレルギーのある子ども、障がいのある子ども、それぞれの配慮を要する子どもへの理解と、食事の対応や栄養について学び理解する。	授業の内容を振り返る。 「第6～9回授業内容に関する課題」に取り組む。	40
10	食育の基本と内容（1）	食育とは何か、食育基本法、保育所で食育を行う意義について学び理解する。 「第6～9回授業内容に関する課題」を提出する。	授業の内容を振り返る。	20
11	食育の基本と内容（2）	月・年齢に応じた食育について学び、給食を通してどのような食育ができるのか、地域と連携をとることでのような食育ができるのか、検討を行う。	授業の内容を振り返る。 「第10・11回授業内容に関する課題」に取り組む。	20
12	食育研究発表会について	13回・14回の授業で行う「食育研究の発表会」の内容と進め方を説明する。 「第10・11回授業内容に関する課題」を提出する。	授業の内容を振り返る。	20
13	食育研究の発表会（1）	「食育の研究発表会」を行う。	授業の内容を振り返る。	20
14	食育研究の発表会（2）	「食育の研究発表会」を行う。	授業の内容を振り返る。 「食育研究の発表会」の感想をレポートに取り組む。	40
15	授業のまとめ	「子どもの食と栄養」についてのまとめを行う。 「食育研究の発表会」の感想をレポートを提出する。	「子どもの食と栄養」で学んだ内容の復習を行う。	45

科目名	子どもの保健	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	永瀬 悦子		
開講期	Ⅱ		
授業概要	子どもの健康の保持・増進と精神安定を図るために必要な子どもの保健について学ぶ。子どもの心身の発育発達には個性があることを踏まえ、子どもに多い疾患と体調不良時の症状に対する対処法について学修する。助産師・看護師として医療機関勤務および乳幼児健診等をしてきた経験を活かして講義を行う。現代社会における子どもを取り巻く健康問題と課題について学ぶ。更に、家庭と地域の連携を通した保健活動及びその関係機関との連携についても学ぶ。 【課題に対するフィードバック方法】最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 【授業の目的】☑ 健康の保持・増進と精神の安定を図る保育において、子どもの保健の基礎的な知識・技術内容・子どもにかかわる姿勢（心）を理解する。 【位置づけ・水準】CE2113		
達成目標	1)子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、保育保健を総合的に計画・実践について説明できる 2)子どもの発育発達には個性があることを踏まえその支援内容について説明できる 3)子どもの心身の健康状態とその把握の方法を述べることができる 4)体調不良の 子どもの観察とその対応について説明できる。 ディプロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」「問題解決力」を身に付けることを達成目標にする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。		
受講資格	保育士資格取得を希望する学生	成績評価 方法	筆記試験80点・レポート20点
教科書	飯島一誠監修『保育者のためのわかりやすい子どもの保健』総合医学社 2019年☑ ※資料を毎回配付		
参考書	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年		
学生への要望	子どもの成長・発達の基礎的な知識をもとに、その健康を逸脱した過程における対応、健康課題に関する知識を学ぶ。講義は積極的に臨むことを期待する。		
オフィスタイム	火曜日 V時限（16：10～17：40） 832研究室☑ 木曜日 I時限（8：50～10：20） 832研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	子どもの心身の健康と保健の意義 1	1)生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2)目的健康の概念と健康指標 3)現代社会における保健活動と子どもの健康に関する現状と課題 ※保育所における保健活動が、生命の保持と情緒の安定にどのようなつながっているのかを考え養護と教育を一体的に行う意味や「健康」「人間関係」「環境」「表現」における目標や保育の重要性を学ぶ。	新聞記事や書籍、ニュース等を通して、現代の子どもの健康問題について調べる	120
2	子どもの心身の健康と保健の意義 2	1)地域における保健活動と子どもの虐待防止 2)虐待に関する法律と保健活動学ぶ ※虐待に関わる諸統計からみる現状を理解する。更に、これらに対する母子保健の施策や体系、支援を開設する。そして保育者について求められる知識や取組みを考える。	新聞記事や書籍等で「虐待」について調べる	120
3	子どもの身体的発育・発達と保健 1	1)子どもの身体発育の評価と成長に影響を及ぼす因子 2)発達の順序と原始反射 ※発育・発達の目安となる指標を理解し、その発育状態の評価方法をその意義を学ぶ。	子どもの原始反射の種類及び発達について教科書を読む。	120
4	子どもの身体的発育・発達と保健 2	1)子どもの生理機能の発達と保健 ※各器官の生理的機能とその成長過程について理解を深める。	教科書をよく読み学びを深める	120
5	子どもの身体的発育・発達と保健 3	1)新生児の特徴 2)母と子の心と身体をつながり ※新生児の特徴を理解し母子相互作用等についても学ぶ。	自分および身近な子どもの誕生について聞いてまとめる。	120
6	子どもの心身の健康状態とその把握 1	1)子どもの健康状態の観察 2)心身の不調時の早期発見 3)発育・発達の把握と健康診断 4)保護者との情報共有 ※子どもの健康状態を観察し、表情や行動、しぐさ等も大切な観察点であることを学ぶ。体調不良時に早急に対応をして受診か否かの判断を求められることを理解する。また、保護者との情報共有する大切さを学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月厚生労働省）における「子どもの症状をみるポイント」31～33頁をよく読む。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	感染経路と保健活動	1)感染症と要因 2)感染経路と対策 3)学校保健安全法施行規則19条について 4)感染症の疑いのある時と発生時の対応 ※感染症の要因と感染経路・対策の基礎的知識を理解し、感染症の疑いのある子どもに対する対応を学ぶ。学校保健安全法にある感染症の種類と登園停止期間を学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)1～30頁をよく読む。	120
8	子どもの疾病の予防及び適切な対応 1	1)子どもの代表的な感染症①	課題レポートをまとめる	120
9	子どもの疾病の予防及び適切な対応 2	1)子どもの主な病気の特徴(呼吸器系、循環器系、消化器系、血液系)	教科書をよく読み学びを深める	120
10	子どもの疾病の予防及び適切な対応 3	1)子どもの主な病気の特徴(泌尿器系、生殖器系、内分泌系)	教科書をよく読み学びを深める	120
11	子どもの疾病の予防及び適切な対応 4	1)子どもの主な病気の特徴(皮膚、神経系、骨・関節・筋肉系、感覚器系)	教科書をよく読み学びを深める	120
12	子どもの疾病の予防及び適切な対応 5	1)子どもの主な病気の特徴(アレルギー・免疫系)	教科書をよく読み学びを深める	120
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応 6	1)発熱、脱水、咳嗽、喘鳴の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(発熱・脱水咳嗽・喘鳴)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)72頁、75頁をよく読む。	120
14	子どもの疾病の予防及び適切な対応 7	1)腹痛、下痢、嘔吐、便秘の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(腹痛、下痢、嘔吐、便秘)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)73～74頁をよく読む。	120
15	子どもの疾病の予防及び適切な対応 8	けいれん、熱中症、鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹の症状観察と適切な対応 ※子どもの健康状態の観察の方法及び主な症状(けいれん、熱中症、鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹)の見方と対処法について学ぶ。	「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月厚生労働省)76頁、関係法規84～93頁をよく読む。	120

科目名	教育・保育課程論	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 選択
担当教員	山上 裕子		
開講期	Ⅱ		
授業概要	生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育において、幼児期にふさわしい教育・保育課程はどのようなものか。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を基準にした計画を立てられるために必要な基礎を講義する。具体的には、教育・保育課程の役割や意義、編成の方法、指導案の作成、カリキュラム・マネジメントなどを取りあげる。また附属幼稚園での勤務をもとに、実際の保育現場での子どもの姿等や保育者の関わりの様子をスライドやビデオなどで示しつつ、具体的な子どもの姿や保育についての現代的な課題についての話題を提供し、指導計画作成のイメージがつくように活動グループ・ワークを行いつつ、現場に直結する力を身につけていく。なお、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ 実務経験（賀門博康）：幼稚園教諭(現在は園長)として郡山女子大学附属幼稚園に勤務 位置づけ・水準 CE2115		
達成目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育の内容理解と総合的計画力」と「保育の方法と技術力」に対応している。☒ ①教育・保育課程の役割と意義を、7割以上理解できたか。☒ ②教育・保育課程の編成と指導計画の作成方法について、7割以上理解できたか。☒ ③教育・保育課程のマネジメントの必要性を、7割以上理解できたか。		
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績評価 方法	授業参加度30％ レポート70％
教科書	・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）☒ ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省）☒ ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府）☒ ・古林ゆり(監修・執筆)『0～5歳児年齢別 実習の日誌と指導案 完全サポート』新星出版社、2017年		
参考書	・その他、授業中に適宜プリントを配布する。		
学生への要望	授業用のノートを用意すること。☒ 欠席、遅刻はしないようにすること。☒ 指導計画の作成にはイメージの豊かさが大事である。授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。		
オフィスタイム	山上 木曜日：14：30～16：00 833研究室☒ 金曜日：12：50～14：20 833研究室 ☒ 賀門 月～金曜日 10：00～11：30 附属幼稚園応接室☒ 15：00～17：00 附属幼稚園応接室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション (担当：山上 裕子)	・講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。保育活動がどのように行われているのか、気づいたことを共有する。☑ ☑	事前にシラバスを確認し、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記載を概観する。	60
2	教育・保育課程とは何か (担当：山上 裕子)	・カリキュラムの発生を知ることをととして、経験カリキュラムについて学ぶ。また、我が国日本で告示された教育要領等の学校教育における位置づけや性格を学び、教育課程等を作成する必要性について考える。	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容を確認する。	60
3	教育要領の変遷 (担当：山上 裕子)	・戦後「保育要領」として生まれ、「幼稚園教育要領」として今日まで改訂されてきた変遷を知る。その際、社会からの要請が関連していたことを理解する。また、同時に「保育所保育指針」の変遷についても学ぶ。これまで学んだことをまとめる。☑ ☑	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷をまとめる。	60
4	教育課程・指導計画の種類 (担当：賀門 康博)	・保育三法令(幼稚園教育要領・保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領)について、29年度の改訂版をもとに、それぞれの内容と関連性を話しつつ、“3つの視点（0歳)”“5領域（1～5歳)”“10の姿”などのキーワードを学び、保育の置けるその位置づけを理解する。☑ ☑	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」で要となる“3つの視点（0歳)”“5領域（1～5歳)”“10の姿”について、語彙等を理解する。	60
5	子どもの多面的な理解（5領域・10の姿等から） (担当：賀門 康博)	・5領域や10の姿等の内容を照らし合わせながら、子どもの姿や日々の生活・体験が子ども達の成長にとってどういった意味を持つのかについて、ビデオなどの視聴をつつ、理解を深める。	「5領域」及び「10の姿」といった観点の存在について理解する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	指導計画の構成について① (担当：賀門 康博)	・指導計画はどういった構成になっており、それぞれがどういった関係であるのかについて、全体像を理解する。また、構成要素のうち、「子どもの姿」「ねらい」「内容」について掘り下げ、その意味を理解する。	指導計画における「子どもの姿」「ねらい」「内容」についてそれぞれの意味と違いを理解する。	60
7	指導計画の構成について② (担当：賀門 康博)	・前回に続き、指導計画の構成について学ぶ。全体の構成を考えつつ、構成要素のうち「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」について掘り下げ、その意味を理解する。	指導計画における「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」についてそれぞれの意味と違いを理解する。	60
8	指導計画作成の実際①（子どもの姿①） (担当：賀門 康博)	・前回までに学んだ指導計画の全体像の理解を踏まえ、以後4回にわたり各論的にワークを行い、実際の記述の仕方などを学ぶ。この回では指導計画の基礎となる「子どもの姿」について、“個の理解”と“全体の理解”の重要性について学ぶ。また、ビデオなどを用いながら行動観察などでのポイントやその意味を理解する。	子どもの定型的な発達の姿を理解しつつ、各年齢において重要とされる関わりについてポイントを理解する。	60
9	指導計画作成の実際①（子どもの姿②） (担当：賀門 康博)	・前回から引き続き、子どもの姿についてのワークを行う。実際に実習でクラス担当になり、部分実習などで全体への指導を行う際に、クラス全体の状態をどのように指導計画に反映させるかについて、幾つかの視点を提示しつつ、指導計画への記述について理解する。	個の発達の姿を理解しつつ、集団保育の中で重要とされる関わりについてポイントを理解する。	60
10	指導計画作成の実際②（ねらい・内容） (担当：賀門 康博)	・前回に引き続きワークを行う。この回では、子どもの姿を踏まえた上で、どのように「ねらい」や「内容」を立てていくかについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	子どもの姿をもとにした「ねらい」の立て方について、5領域等の視点を持った考え方のポイントを理解する。	60
11	指導計画作成の実際③（環境設定・予想される子どもの姿） (担当：賀門 康博)	・前回に引き続きワークを行う。この回では、前回理解したねらいや内容に準じて、どういった形で「環境構成」をし、「子どもの姿を予想する」かについてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	「ねらい」を実現するために必要な「環境構成」と「子どもの予想される姿」について、記載の項目とポイントを理解する。	60
12	指導計画作成の実際④（保育者の援助・配慮） (担当：賀門 康博)	・前回に引き続きワークを行う。この回では、活動の内容や予想される子どもの姿に対して、ねらいを達成するための「保育者の援助や配慮」についてそのポイントを学び、指導計画への記述の手順などを理解する。	「予想される子どもの姿」に対して保育者としての関わり方(援助・配慮)の重要性について理解する。	60
13	カリキュラム・マネジメントについて① (担当：賀門 康博)	・これまでに学んだ指導計画(部分指導・一日指導)が、子どもたちの日々の成長の中でどういった見通しをもって作成されるべきであるかについて、より長期的な教育課程との関連や、小学校との連携（指導要録の作成）の意味と関連させながら学ぶ。	保育における現代的な課題について概観する。	60
14	カリキュラム・マネジメントについて② (担当：賀門 康博)	・カリキュラムの評価や発達や環境の違いに応じて、柔軟に対応(ネージメント)していくことの大切さを知る。	PDCAサイクルについて理解し、現代的な課題に対して指導計画を体操させていく重要性を理解する。	60
15	まとめ (担当：山上 裕子)	・これまで授業で学んできたことを、実習で経験したことをとおして振り返り、教育・保育課程の役割や意義等を再確認する。	ノートやプリントを整理し、幼稚園実習及び保育実習に向けて基礎となる視点を再確認する。	60

科目名	保育内容総論	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	安部 高太郎		
開講期	Ⅳ		
授業概要	本科目では、幼稚園や保育所等で展開される保育内容について総合的に学ぶ。保育の方法論として現代日本の保育学において言及されている理論を紹介すると共に、指導計画をつくり、見直すことを演習課題を通じて身につけることを狙う。授業においては、2017年改訂の現行の保育所保育指針・幼稚園教育要領等を踏まえ、現在の保育内容がどのように規定されているのかを構造的に提示し、グループディスカッション等のアクティブ・ラーニングの手法を用いて学生の理解が深まるよう工夫する。☒ ☒ ○本科目の位置づけ・水準 CE2116		
達成目標	本科目においては、次の四つの達成目標を定める。☒ 1. 保育所保育指針・幼稚園教育要領等における保育の目標、子どもの発達、保育の内容を関連付けて捉え、保育の全体的な構造を理解する。☒ 2. 明治時代以降の我が国において保育内容がどのように変遷してきたのかを知る。☒ 3. 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と「子ども理解」がどう関連するか考える。☒ 4. 子どもの生活全体を通して、養護（生命の保持、情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が一体的に展開することを具体的な保育実践から学ぶ。☒ ☒ ○単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること。☒ ○ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力		
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績評価 方法	①授業参加度(受講態度や提出物の提出状況)：50%☒ ②授業内試験(第15回に予定)：50%☒ ①及び②の合計：100%
教科書	厚生労働省 編 (2018)『保育所保育指針解説(平成30年3月)』フレーベル館。☒ 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2018)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館。☒ 文部科学省 (2018)『幼稚園教育要領解説(平成30年3月)』フレーベル館。☒ ※加えて、適宜、必要に応じて授業担当者が資料を配布する。		
参考書	井上孝之・山崎敦子 編 (2018)『子どもと共に学びあう 演習・保育内容総論(第2版)』みらい。☒ 加藤繁美・神田英雄 監修 (2011)『子どもとつくる0歳児保育：心も体も気持ちいい』ひとなる書房。☒ 加藤繁美・神田英雄 監修 (2012)『子どもとつくる2歳児保育：思いがふくらみ響きあう』ひとなる書房。☒ 加藤繁美・神田英雄 監修 (2013)『子どもとつくる1歳児保育：イッショ!がたのしい』ひとなる書房。☒ 加藤繁美 監修 (2016a)『子どもとつくる4歳児保育：揺れる心をドラマにかえて』ひとなる書房。☒ 加藤繁美 監修 (2016b)『子どもとつくる5歳児保育：本気と本気がつながって』ひとなる書房。☒ 加藤繁美 監修 (2016c)『子どもとつくる3歳児保育：イッチョマエ!が誇らしい』ひとなる書房。☒ 神田英雄 (2008)『育ちのきほん：0歳から6歳』ひとなる書房。☒ ※その他、適宜授業において紹介する。		
学生への要望	本科目を受講する学生には以下のことを求める。☒ ・欠席、遅刻はしないこと。☒ ・授業ノートを用意し、予習・復習等も含めて活用すること。☒ ・わからないことや疑問に思ったことは積極的に質問すること。☒ ・新聞やTV番組等を通じて、保育に関わる情報や話題を自ら収集すること。		
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限（14：30～16：00）☒ ・火曜日Ⅴ限（16：10～17：40）☒ いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	講義内容について説明を受け、到達目標や評価方法を確認する。実習等の経験から保育内容について具体的なイメージを喚起する。	実習で行ったもの・ことを思い出しておく、授業ノートに概要を記しておく。	30
2	保育を支える「発達」の概念	保育内容を規定する要素の一つである子どもの「発達」について概念的な整理をする。	『保育所保育指針解説』・『幼稚園教育要領解説』で「発達」が保育・幼児教育を行うことにどう関わると記載されているか、ノートに整理しておく。	30
3	現行指針・要領等に見る保育・幼児教育の構造①：養護と教育の一体性	生命の保持・情緒の安定を意味する「養護」と5領域という形で示される「教育」が一体的であるとはどのようなことかを学ぶ。	主として『保育所保育指針解説』を参照し、養護と教育の一体性について記されている箇所を熟読し、自分なりにノートに整理しておく。	30
4	現行指針・要領等に見る保育・幼児教育の構造②：“10の姿”と5領域の関係性	三つの「資質・能力」と5領域・“10の姿”がどう関連しているのかを理解する。	主として『幼稚園教育要領解説』を参照し、“10の姿”についての解説文を熟読し、ポイントとなると考えられることを自分なりにノートに整理しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	保育内容を規定する前提：「計画」とそれを支える「子ども理解」について	保育における「計画」が子ども理解と密接に関連するという言説の妥当性について検討する。	保育実習・教育実習で行った「観察」の意義について自分なりに振り返り、気づいたことをノートに整理しておく。	30
6	保育内容を規定する前提：再び子どもの「発達」について	子どもの発達過程が保育の計画を立てる上で、どのような点で関連しているのかを考える。	保育実習・教育実習で立案した指導計画を探し、自分なりに立てたその計画に「発達」がどう関連していたかを振り返る。	30
7	保育のリフレクション：保育における記録と「評価」について	保育におけるリフレクションと評価の概念整理を行う。	保育におけるリフレクションの意味を自分なりに考え、ノートに整理しておく。	30
8	保育の「計画」と展開に関する理論	小川博久や佐伯胖等の理論に基づいて、保育における「計画」が持つ意味を考える。	保育において計画があることの意味を自分なりに考え、ノートに整理しておく。	30
9	子ども子育て支援新制度と保育内容に関する「幼・保・こ一元化」	認定こども園を中心に子ども・子育て支援新制度の概略を知り、幼・保・こ一元化が目指されている意味を考える。	内閣府のウェブサイトから子ども・子育て支援新制度に関するリーフレットをダウンロードして、読んでおく。	30
10	指導計画の作成と修正①	これまでに実施した保育実習や教育実習のなかで作成した指導計画を持参し、その内容についてこの授業において学んだことを基にしながらグループでの討議を通じて検討する。	指導計画をいくつか見返しておく。	60
11	保育内容の歴史的変遷①：明治時代	明治期の保育内容について、恩物の取り扱いを中心に概観する。	参考書『子どもと共に学びあう 演習・保育内容総論』（第2版）の第13章等を読んでおく。	30
12	保育内容の歴史的変遷②：大正時代～昭和初期	倉橋惣三等の自由保育に関する思想を概観し、それが持つ現代への影響について知る。	参考書『子どもと共に学びあう 演習・保育内容総論』（第2版）の第13章等を読んでおく。	30
13	保育内容の歴史的変遷③：戦後～現代	保育要領以降の要領・指針の改訂について概観する。特に、保育内容が大きく変わったとされる平成初期の要領・指針について中心的に扱う。	参考書『子どもと共に学びあう 演習・保育内容総論』（第2版）の第13章等を読んでおく。	30
14	指導計画の作成と修正②	第10回授業において検討した指導計画について、自分なりに修正を加えたものを持参し、グループ内で共有する。	指導計画を作り直してくる。	60
15	まとめ	授業内試験を受け、全体の振り返りを行う。	各自ノートを整理した状態で試験に臨めるように準備をし、テキストを読んでくる。	30

科目名	特別支援教育基礎論	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修	
担当教員	小林 徹			
開講期	Ⅱ			
授業概要	中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。☒ 1. 特別支援教育を支える理念や歴史の変遷について理解する。☒ 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。☒ 3. さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。☒ 4. 障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。☒ 5. 特別支援教育の実践について理解を深める。☒ 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。 ☒ ☒ 位置づけ・水準 CE2117			
達成目標	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。☒ 2. 障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。☒ 3. さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。☒ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力			
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（小テスト、提出物、遅刻や授業態度による減点） 期末試験50点	
教科書	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020☒ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 ☒ 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018 ☒ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018			
参考書	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q＆A』チャイルド本社,2008			
学生への要望	障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。			
オフィスタイム	毎週火曜・木曜16：10～17：05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	特別支援教育の歴史	特別支援教育と障がい児保育の歴史の変遷について学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	特別支援教育の制度と仕組み	特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	発達障がいの理解と支援①	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について映像を通して学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	発達障がいの理解と支援②	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	発達障がいへのアプローチ	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。☒ 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	障がい児の子育て	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実践を映像を通して学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	知的障がい	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	自閉症	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	その他の障がい	映像を通してその他の障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	障がい児支援の工夫	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	他機関との連携	ゲストスピーカーを招いて、特別支援教育に関するさまざまな機関との連携について学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	子ども理解と保育方法①	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	子ども理解と保育方法②	子どもとその特別な教育的ニーズから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。☒	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

科目名	教育方法論	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員	賀門 康博			
開講期	IV			
授業概要	この授業では、幼児の発達の姿と、幼保3法令の理解を基にし、保育者としての「保育実践力」を習得することを学修する。保育において重要な「ねらい」を達成するために行う保育内容が、子どもの姿に即し、適切なものなのかを考えるには、自らの保育技能や知識の幅と深さが必要である。具体的には、実践場面のビデオなどを使っているケーススタディや、グループワークなどを行い、保育への多角的な視野を獲得し、保育観の醸成へと繋げていくこととする。 なお、本授業では基本的な保育方法や技術の学修に加え、園庭の有無など様々な保育環境に対応するために情報機器(ICT機器)等を活用した現代的な保育方法についても講義する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行います。 実務経験（賀門康博）：幼稚園教諭（現在は園長）として郡山女子大学附属幼稚園に勤務 〃（奥美代）：幼稚園教諭（現在は副園長）として郡山女子大学附属幼稚園に勤務 位置づけ・水準 CE2218			
達成目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーの「保育を実践するための方法や技術」と「学習した知識や技術を統合し、問題を解決する能力」に対応している。一人ひとりの子どもの発達段階に即しつつ、「環境を通じた指導(保育)」の意義・意味を理解するとともに、保育の「ねらい」に応じた様々な指導方法を学ぶ。それらを通じ、指導計画における「方法(内容)」の作成能力、そしてその実践力の基礎を身につける。 ①保育における「環境を通じた指導」の意義・意味を理解できたか ②指導を行う上でのさまざまな指導方法を理解し、指導のねらいと併せた理解ができたか ③グループや全体での話し合いを通じ、ねらいに対して様々な方法があることを知り、自分の保育観の幅を広げることができたか。 単位認定の最低基準：「内容の7割を理解していること」			
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績評価 方法	授業参加度30% レポート70%	
教科書	・大豆生田啓友、渡邊英則『保育方法・指導法』ミネルヴァ書房、2020年			
参考書	・幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府）			
学生への要望	授業用のノートを用意すること。 欠席、遅刻はしないようにすること。 保育における「ねらい」と「方法」(内容)の関係を意識し、授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。			
オフィスタイム	賀門・奥 月～金曜日 10:00～11:30 附属幼稚園応接室 15:00～17:00 附属幼稚園応接室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション(賀門・奥) ～本授業のねらいと概要(賀門・奥)～	講義の内容、予定、評価など、授業に関する説明を聞く。 授業を構成する三要素(「園児」と「教員」と「教材」)について知る。	自らの実習体験等から、そこで行われていた保育方法について振り返り、その意味を考察する。	30
2	各カリキュラムと教育方法の関係の理解(賀門) ～子どもの姿、ねらいと方法～	保育三法令を含め、保育に関するカリキュラムの存在について再確認するとともに、そこにあるねらいを達成するための「方法」との関連性について知るとともに、子どもの姿と連携する重要性について知る。	「ねらい」と「方法(内容)」についての位置づけについて、実習やこれまでの授業を振り返り考察する。	30
3	様々な保育方法がある事を知る(賀門) ～モンテッソーリやフレールが開発した教材・教具等～	これまでの保育の歴史の中で、様々な保育方法が開発された事を知る。それぞれの特徴を理解するとともに、保育現場では教育理念やねらいに合う教育方法を採用している事を知る。	教科書などを読んで、一般的に或様々な保育方法について考える。	30
4	教育機器の使用① ビデオを使っているケーススタディ(賀門・奥) ～教材の特性、関わりのタイミング、保育実践(指導計画)への反映等～	前回までの知識を基に、実際の保育場面の様子を視覚的に見る中で、教材の出し方やそのタイミング等についてワーク等を通じ考察や理解を深める。そうした考察を元に、指導計画を作成し、実践力を高める。	一年次の授業(教育保育課程論など)のノートなどを振り返り、指導計画の作成について復習をしておく。	30
5	教育機器の使用② ビデオを使っているケーススタディ(賀門・奥) ～、模擬保育の実践と振り返り～	ビデオを使っているケーススタディを行いつつ、前回作成した指導計画に従った模擬保育の実践を行い、実際の保育場面でのより効果的な教材の活用方法について考察を行い、理解を深める。	前回作成した指導計画を用いた保育をイメージしながら、その保育に必要な物や使い方などを考えておく(教材研究)。	30
6	教育機器の使用③ パソコンやタブレットなど、近年導入が進んでいるが教育機器を使用した保育について(賀門)	パソコンやタブレットなど先進的なICT機器を活用した保育の存在を知ると共に、現代の子どもたちが不足した経験をどう補っていくかについて考察を行う。	ICT機器のメリットやデメリットについて、教科書などを用いながら考えておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	保育内容の評価について ～カリキュラムマネジメント、PDCAと併せた保育方法の再考～(賀門)	これまでのワークなどを踏まえ、保育実践そのものが一回で終わるものではなく、振り返りを行い、より良い方法を考える必要がある事を知る。その評価が子ども主体である事が重要である事を知る。	教科書などからPDCAとは何かについて予習しておく。	30
8	振り返りとまとめ、自らの保育観の醸成(賀門、奥)	これまで学んできたことから、望ましい保育実践についてまとめる。	ノートやプリントを整理し、保育をいかに進めていくかを考える基礎となる視点を再確認する。	30

科目名	保育相談支援	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員	宇治 和子			
開講期	IV			
授業概要	昨今の保育現場では、家族構造の変化を背景として、養育者（保護者）の相談ニーズが増加しています。養育者と信頼関係を形成し、家族が抱える支援のニーズに気づき、実際に援助を行える保育者を目指して、相談、助言、情報提供、モデルの提示等のさまざまな支援のあり方を具体的に検討します。この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として相談の実務経験がある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます（CE2219）。			
達成目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・養育者（保護者）や子どもと信頼関係を作る方法を理解する。 ・相談者の状況を把握し、子ども発達に応じた支援計画を自分なりに立てることができる。 なおこの科目は、本学科DPの「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」に関連しています。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	積極的な授業参加（10％）、授業内課題やレポート（3回：90％）により評価します。	
教科書	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
オフィスタイム	授業開始前・終了後：宇治研究室（836）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 保育相談支援の社会的背景	・授業内容、評価方法について説明する ・家族構造の変化について説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
2	保育相談・支援とは	・保育現場の特性を生かした子育て支援について説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
3	養育者（保護者）の子育てを支える	・養育者（保護者）の子育て環境について説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
4	信頼関係をつくる 1	・ラポールについて説明する ・ラポール形成のトレーニングを行う（内省ワーク）	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
5	信頼関係をつくる 2	・傾聴について説明する ・対話の工夫についてトレーニングを行う（良い聴き手・悪い聴き手ロールプレイ）	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
6	信頼関係をつくる 3	・相談業務を行う上での職業倫理について説明する ・子育て相談ができる場の提供について具体例を説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
7	相談業務を組み立てる 1	・インターク面接での基本について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
8	相談業務を組み立てる 2	・相談ロールプレイ、情報整理シートの記入	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
9	相談業務を組み立てる 3	・アセスメントツールについて説明する ・ジェノグラムの書き方について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
10	相談業務を組み立てる 4	・アセスメントツールについて説明する ・エコマップの書き方について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
11	相談業務を組み立てる 5	・ジェノグラムによる分析練習課題の実施 ・エコマップによる分析練習課題の実施	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
12	相談業務を組み立てる 6	・行動観察の方法を説明する ・行動観察のトレーニングを行う（動画によるワーク）	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
13	相談業務を組み立てる 7	・発達検査について説明する（乳幼児発達検査・遠城寺式） ・読み取りトレーニングを行う（分析練習課題実施）	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
14	相談業務を組み立てる 8	・発達検査について説明する（知能検査・田中ビネー：発達検査・新版K式） ・読み取りトレーニングを行う（分析練習課題実施）	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
15	相談業務を組み立てる 9	・架空事例を使って面接相談のロールプレイを実施する ・支援計画を含む面接相談記録の作成	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60

科目名	児童文化	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	真船 均,草野 葉子,早川 仁		
開講期	I		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 現代文化における子どもの発達を学び、児童と文化の内容と方法を理解できるように授業を進めます。読み書きの実践を行います。課題を添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行います。CE2120		
達成目標	現代文化における教育・保育の本質と子どもの心理的・身体的発達を理解し、子どもを支援できる方法・技術が、毎時の読み書きで身につくように進めます。単位認定の最低基準は、内容の7割～8割を理解していることです。 オスカー・ワイルドと宮沢賢治の「人間（子ども）はどうあるべきか」を読み書きの方法を通して理解できるようにします。		
受講資格	幼児教育学科1年	成績評価 方法	課題100%
教科書	オスカー・ワイルド 西村考次訳『幸福の王子』（ワイルド童話全集）新潮文庫		
参考書	授業の中で紹介します。		
学生への要望	授業へは積極的に関わり、課題提出を怠らないようにして下さい。		
オフィスタイム	真船：水曜日昼休み時間 教務部非常勤控室 早川：木曜日I・II時限 83年館826教室 草野：火曜日～木曜日 15：00～17：00 83年館823研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の内容、進め方、評価方法を説明する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
2	「幸福な王子」の課題	王子の精神的な蘇り（自己犠牲）についての課題を提出する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
3	「幸福の王子」の解説・「ナイチンゲールとばらの花」の課題	王子の無垢な精神について解説する。ナイチンゲールの愛他精神についての課題を提出する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
4	「ナイチンゲール」の解説・「わがままな大男」の課題	ナイチンゲールの愛他精神を解説する。わがままな大男の我儘についての課題を提出する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
5	「わがままな大男」の解説・「忠実な友達」の課題	わがままな男を通して人間の力を超える存在への畏れについて解説する。友達の忠実に関する課題を提出する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
6	「忠実な友達」の解説・「すばらしいロケット」の課題	人間の誠実と不誠実について解説する。このロケットは素晴らしいのかについての課題を提出する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
7	「すばらしいロケット」の解説・「若い王」の課題	すばらしくないロケットの無知とうぬぼれからの哀れな末路を解説する。若い王のロマンスに関する課題を提出する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
8	「若い王」の解説・「王女の誕生日」の課題	若い王の慈愛と清浄を求める心を解説する。王女の残忍さについての課題を提出する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
9	「王女の誕生日」の解説・「漁師の魂」の課題	王女の醜い無情さを解説する。漁師の恋のひたむきさについての課題を提出する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
10	「漁師の魂」の解説・「星の子」の課題。	ひたむきな恋のために魂まで投げ打つ漁師について解説する。母と子の物語についての課題を提出する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
11	宮澤賢治「セロ弾きのゴーシュ」・「どんぐりと山猫」の課題	賢治の代表作2篇の課題を提出する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
12	「セロ弾きのゴーシュ」の映画鑑賞	原作と映画の相違を分析する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
13	ゴーシュと一郎君についての解説・「よだかの星」の課題	ゴーシュと一郎君の人間的成長を解説する。よだかの星の課題を提出する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
14	「よだかの星」の解説	絶望の中のよだかの救いとは何かを解説する。	配布プリントで授業内容を確認し、ノート を整理する。	30
15	学習全体の振り返り	学習全体の不足を補い、まとめを行う。	授業内容のポイントをまとめる。	30

科目名	保育内容演習 健康	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修	
担当教員	一柳 智子			
開講期	Ⅱ			
授業概要	乳幼児の健全な発育発達の姿を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、かつ実践的な指導法などを積極的に討論することを目的とする。☒ また、日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、それをもとに考え、集団で討論しコミュニケーションの力を養うことも目的とする。☒ 最終授業で、全体に対するフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準CE2121			
達成目標	①乳幼児の健全な発育発達の姿を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、実践的な指導法などを積極的に討論することができたか。☒ ②日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、考え、集団で討論することができたか。☒ 単位認定の最低基準は、達成目標に対して7割を理解し習得していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係:総合的計画力、保育の方法と技術力			
受講資格	幼児教育学科 1年A	成績評価 方法	試験・レポート提出物及び授業態度を総合的に評価する。☒ 試験50点 レポート・提出物30点、平常点20点	
教科書	建帛社：シードブック 保育内容健康☒ 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
参考書	プリントは随時配布する。			
学生への要望	現場で役立たせるために、子どもの視点から健康を考えることができるよう、積極的に講義を聞き、討論し、考える訓練をしてほしい。			
オフィスタイム	木曜日 Ⅲ限目（12：50～14：20）☒ Ⅳ限目（14：30～16：00） ☒ 825研究室（一柳）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	1 本授業の流れの説明と受講するうえでの注意点の説明。ノートの作成に関する説明。☑ 2 本授業の幼児教育課程における位置づけについて説明。	自己の生活を考える	30
2	健康の定義	1 「健康」の定義。☑ 2 基本的人権としての健康。 教育・保育の中の健康。☑ 3 討論：日々の生活の中で発生している様々な生命や健康に関わる問題について身近な話題を話し合う。座席近辺の3～4人で1グループとなる。リーダーを決め、最後にまとめを発表する。	自分自身の健康について考える。	30
3	保育者として乳幼児の健康を考える	1 人権としての乳幼児の健康についての復習。☑ 2 保障される健康から主体的に生み出す健康へと導く保育者としてのあり方を考える。☑ 3 健康な幼児についてのあるべき姿に関して、自己の考えをまとめる。	保育者としての自分として健康について考える。	30
4	領域「健康」－1	幼稚園教育要領における領域「健康」：☑ ねらいの3項目 ☑ そのねらいを達成する為の指導事項としての☑ 内容10項目	幼稚園での子どもたちの健康を考える。	30
5	領域「健康」－2	1 保育所保育指針における領域「健康」☑ 2 幼稚園教育要領における保育内容の整合性。☑ 保育所保育指針における保育のねらい及び内容は「養護にかかわるねらい及び内容」と「教育に関わるねらい及び内容」の両面から示され、教育に関わる5領域全てが教育要領と同じく表記されている。教育要領との違いは「養護に関わるねらいと内容」に「生命の保持」「情緒の安定」の2点である。	保育所での子どもたちの健康を考える。	30

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	身体の発達と園生活-1	1.身体の発達☑ (1) 身体の発達の捉え方☑ (2) 乳幼児期の身体発達の特徴☑ (3) 体重と慎重☑ (4) プロポーションの変化	自分の身体の発達を意識してみよう。	30
7	身体の発達と園生活-2	1.運動の発達☑ (1) 運動発達の順序性と方向性☑ (2) 運動能力の捉え方と基礎的運動☑ (3) 基礎的運動の発達	子どもたちの運動発達を考えてみよう。	30
8	心の発達と園生活	乳幼児期は、豊かな心の発達の基礎を作り上げる時期。保育現場では、子どもの心の発達には何が必要であるかを考える。☑ 1.情緒☑ 2.社会性☑ 3.知的能力☑ 4.パーソナリティ	子どもたちの心身の発達を考えよう。	30
9	基本的生活習慣の育成と保育者の援助	1 基本的生活習慣とは何か。☑ 2 子どもにとって基本的生活習慣の意味☑ 3 基本的生活習慣の内容。☑ 4 生活習慣の指導・援助とその留意点についてグループ討論。	子どもたちの心身の発達を考えよう。	30
10	運動遊びと保育者の援助-1	1 運動遊びの意義。☑ 2 いろいろな運動遊びの種類とその遊びの特質及び指導法。☑ (イ：固定遊具 ロ：鬼ごっこ ハ：ボールを使った遊び ニ：走る・とぶを中心とした遊び ホ：室内での遊び等) ☑ 3 運動遊びの指導の一般的留意事項。☑ 以上の事柄について、自己の体験や身近な幼児に関して、討論し、運動遊びの意義を考える。	何らかの運動を意識的に行う。	30
11	運動遊びと保育者の援助-2	ムーブメント教育療法による子どもの遊びを学ぶ 遊びの場づくりを支えるムーブメントの考え方 1.「からだ・あたま・こころ」の全人的アプローチ 2.集団の力 3.環境の力	何らかの運動を意識的に行う。	20
12	運動遊びと保育者の援助-3	実際にムーブメント遊具を使用して、遊びの可能性を探索しよう。 1. ロープ 2. スカーフ 3. 形板	何らかの運動を意識的に行う。	20
13	保健への配慮と指導および安全管理と指導	1 健康状態の把握とその方法（保健調査・日々の健康観察など）☑ 2 定期健康診断の実施と事後指導及び実施上の留意点1 安全管理の意義と目的☑ 3 安全対策と安全能力の育成☑ 4 災害に対する安全指導と援助のあり方☑ 5 安全管理とその点検方法	何らかの運動を意識的に行う。	30
14	園外保育と健康	1 園外保育の意義☑ 2 園外保育の効果☑ 3 園外保育実施のあり方	園外環境を観察する。	30
15	まとめとフィードバック	人間形成の最も基本的な段階である幼児教育と保育の現場において、こどもたち自らが自分の「健康」を自覚し留意できるようになるために、保育者はいかに援助できるかを、再び捉えなおす。	自己の生活を振り返る	30

科目名	保育内容演習 人間関係	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員	宇治 和子,一柳 智子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	この授業では、幼児が他の人と仲良く支えあって生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う、ということについて学びます。 目的とねらいは以下の3点にまとめられます。 ①幼稚園教諭及び保育士の資格取得に必要な知識の習得 ②幼稚園教諭及び保育士として必要な人間関係に関わる力の養成 ③幼稚園教諭及び保育士として「人間関係」に関わる現代的課題の検討 なお前半（1～8回）までを宇治、主に後半（1と9～15回）を一柳が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます（CE2222）。			
達成目標	本授業は、以下3点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ① 領域「人間関係」のねらいと内容について理解できる ② 人との関わり方について理解できる ③ 「人間関係」に関する現代的課題を理解できる なおこの科目は、本学科DPの「保育の内容理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」に関連しています。			
受講資格	幼児教育学科2年A	成績評価 方法	・前半は、積極的な授業参加（10％）、授業内課題やレポート（2回：40％）により評価します。 ・後半は、試験(30%)・レポート提出物及び授業態度(20%)を総合的に評価します。☒	
教科書	・前半は教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。☒ ☒後半は以下の通りです。 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館☒ 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 ☒ 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館			
参考書	授業時に紹介します。			
学生への要望	積極的な授業参加を望みます。			
オフィスタイム	前半 授業開始前・終了後 836研究室（宇治） 後半 月曜日12：50～14：20 825研究室（一柳）☒ 木曜日12：50～14：20 825研究室（一柳） ☒			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	前半のオリエンテーション（一柳・宇治）	・授業内容、評価方法について説明する ・なぜ「人間関係」を学ばなければならないのか、なぜ人とかかわることが大切なのか☑について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
2	自己理解と他者理解 1（宇治）	・自己理解についての説明と課題を行う☑心理テストの実施)	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
3	自己理解と他者理解 2（宇治）	・自己理解についての説明と課題を行う☑描画法の実施)	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
4	自己理解と他者理解 3（宇治）	・他者理解についての説明と課題を行う☑グループワークの実施)	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
5	自己理解と他者理解 4（宇治）	・他者理解についての説明と課題を行う☑グループワークの実施)	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
6	親子関係の理解（宇治）	親子の相互作用について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
7	地域と子ども（宇治）	子どもを取り巻く状況について説明する	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
8	子どもの自立心 前半のまとめ（宇治）	子どもの主体性を育てるかわりについて説明する まとめ課題の提出	資料をよく読みこんで、予習・復習すること	60
9	後半のオリエンテーション（一柳）	社会・文化に生きる子ども☑ ワーク「私は・・・」	ワークの感想をレポートする	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	領域「人間関係」（一柳）	幼稚園教育要領および保育所保育指針における五領域のうちの「人間関係」の確認☑ 1. 幼稚園教育要領の基本と領域☑ 2. 発達の諸側面と領域☑ 3. 領域「人間関係」について☑ 4. 領域「人間関係」の「ねらい」について☑ 5. 領域「人間関係」の「内容」について☑ 6. 領域「人間関係」の「内容の取扱い」☑ 7. 発達の過程	幼稚園教育要領および保育所保育指針の該当箇所の復習	30
11	子どもの集団生活（一柳）	「群れ」から「集団」へ☑ 1. 「群れ」に始まる園生活☑ 2. 新しい「仲間とのふれあい」への手がかり☑ 3. 集団の「形成」について☑ 4. 集団の存続☑ 5. 集団の「構造」について	子どもたちの集団性について話し合った結果をレポートする	30
12	保護者との関わり（一柳）	保育者の専門性を生かす☑ 保育者と保護者の良好な人間関係のために	教育実習時の保護者と自分との関わりについての気づきをレポートする	30
13	保育者同士の関わり（一柳）	保育者の言動から子どもは学ぶ☑ 道徳的育ち☑	教育実習時の保育者同志の関わり方についての気づきをレポートする	30
14	かかわりの育ちを「みる」（一柳）	子どもを「みる」とは☑ 見えるものと見えないものについてのグループワーク	グループワークのレポート	30
15	まとめ（一柳）	全体のまとめ☑ 小テスト		60

科目名	保育内容演習　ことばと遊びⅠ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科　1年 1単位 必修	
担当教員	馬場　結子			
開講期	Ⅱ			
授業概要	1．乳幼児のことばの発達・保育に関する基本的な知識を得る。☑ 2．言葉のもつ意味について考えを深め、ことばを育むための手立てを学ぶ。☑ 3．保育者のことばの特性について理解し、子どもに適したことばの使い方を学ぶ。☑ 4．さまざまな児童文化財にふれ、子どもに合った実践方法を考える。☑ 5．ことばを促す「ねらい」を持った指導計画を作成する。☑ 6．ことばの発達に問題を持つ子どもへの適切な対応を知る。☑ 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準　CE2123			
達成目標	1．乳幼児のことばの発達やそれを育むための手立てをどの程度理解できたか。☑ 2．児童文化財の実践方法とその指導計画の作成についてどの程度理解できたか。☑ 3．保育者としてふさわしいことばの使い方をどの程度理解し、実践できたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力			
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点5 0 点（振り返りシート、小テスト、絵本読み聞かせ等）期末レポート5 0 点	
教科書	谷田貝公昭・廣澤満之編『新版実践保育内容シリーズ④言葉』一藝社,2018☑ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 ☑ 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018 ☑ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018			
参考書	授業内で指示			
学生への要望	乳幼児期のことばの発達とそれを育む多様な遊び、さらには保育者として必要な正しい日本語を学んでほしい。			
オフィスタイム	毎週火曜・木曜16：10～17：05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	領域「言葉」のねらい	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容を確認し、人間にとって、ことばの果たしている役割を各人の体験をふまえて考える。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	子どもにとっての「言葉」	言葉の３つの機能を確認し、子どもにとって「言葉」がどのような役割を果たすものかを考察する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	領域「言葉」と小学校「国語」との関連	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容と小学校学習指導要領の教科「国語」を比較検討し、その共通点と相違点を確認した上で、園と小学校の望ましい連携の在り方について考察する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	前言語期のコミュニケーション	言葉を発するまでの発達的变化を概観し、その発達を支えるコミュニケーションの在り方や発達のメカニズムについて考察する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	話し言葉の発達	話し言葉の発達の流れを概観し、そこに保育者とのコミュニケーションがどのように関わるかを考察する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	書き言葉の発達児童文化財①	子どもが文字を獲得する流れを確認し、保育者がどのように援助すべきかを考察する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	言葉を豊かにする保育環境	保育実践の中で言葉を育むために保育者が果たす役割や保育室等の保育環境について考察する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	養育者との関わりから育つ言葉	言葉を育てるために保護者や養育者が果たす役割や言葉かけの実践について考察する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	子どもどうしの関わりから育つ言葉	日常生活の中で子どもどうしの関わりがどのように言葉を育むかを事例を通して学び、そこに保育者がどう関わるかを考察する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	子どもにとっての児童文化とは	児童文化と言葉の関係を概観し、言葉を育む児童文化財について考察する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	さまざまな児童文化財	紙芝居、ペープサート、パネルシアター、劇遊び等の理論と実践について学習する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	言葉を豊かにする言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて概観し、そのことと言語・文字の獲得との関連について考察する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	言葉に関連する障がい	言葉のつまずき(障がい)の種類を概観し、その早期発見や対応について考察する。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	母語が日本語ではない子どもの言葉	我が国に多く存在する多文化子育ての子どもやバイリンガルの子ども等についての事例を学習し、その言語習得の援助と今後の課題について考える。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回)☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	まとめ・現代における言葉の諸問題	こどもと言語環境、マスメディアの影響、早期教育、外国語教育等について取り上げた上で、これまでの学習内容を振り返り、保育者としてこどものことばをどう育むかを考える。☑ 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回）☑ 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。 【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

科目名	保育内容演習 ことばと遊びⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員	馬場 結子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	1. 乳幼児のことばの発達・保育に関する基本的な知識を得る。☑ 2. 言葉のもつ意味について考えを深め、ことばを育むための手立てを学ぶ。☑ 3. 保育者のことばの特性について理解し、子どもに適したことばの使い方を学ぶ。☑ 4. さまざまな児童文化財にふれ、子どもに合った実践方法を考える。☑ 5. ことばを促す「ねらい」を持った指導計画を作成する。☑ 6. ことばの発達に問題を持つ子どもへの適切な対応を知る。☑ 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。 ☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2224			
達成目標	1. 乳幼児のことばの発達やそれを育むための手立てをどの程度理解できたか。☑ 2. 児童文化財の実践方法とその指導計画の作成についてどの程度理解できたか。☑ 3. 保育者としてふさわしいことばの使い方をどの程度理解し、実践できたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力			
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（振り返りシート、小テスト、絵本読み聞かせ等）期末レポート50点	
教科書	松本和美編著、土橋久美子・松家まきこ著「保育に役立つ言語表現教材 第2版」みらい,2018☑ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018 ☑ 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018 ☑ 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館,2018			
参考書	授業内で指示			
学生への要望	乳幼児期のことばの発達とそれを育む多様な遊び、さらには保育者として必要な正しい日本語を学んでほしい。			
オフィスタイム	毎週火曜16：10-17：05、822研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	この授業のねらい	この授業ではさまざまな言語表現教材を紹介し、実習を経験した学生とともに、子どもたちの言語活動を豊かにする教材や、それを活かす指導計画づくりについて考えていく。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	自己紹介とは	学生の自己紹介の経験を持ち寄り、子どもたちに効果的で他の学習にもつながる自己紹介を考える。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	絵本とは①	絵本とは何か。絵本の読み聞かせの目的。絵本の楽しみ方等について考える。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	絵本とは②	絵本の種類。絵本の選び方について考察し、実際に子どもの発達段階を考えた絵本選びに挑戦する。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	絵本とは③	絵本の読み聞かせに際した留意点や環境構成、導入の方法等について考える。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	素話（ストーリーテリング）とは①	素話とは何か、素話の種類、保育現場での展開等について考察する。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	素話（ストーリーテリング）とは②	素話を演じるポイント、素話の作り方等について考察する。素話を作る。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	紙芝居とは①	紙芝居とは何か、絵本との違い、演じるためのポイント等について考察する。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）☑	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	紙芝居とは②	「折り込み絵芝居」について学び、実際に作って演じる。☑社会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	その他の児童文化財①	ペープサート、人形劇等について考察する。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	その他の児童文化財②	パネルシアター、エプロンシアター等の理論と実践について学習する。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
12	指導案の作成と発表①	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	指導案の作成と発表②	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	指導案の作成と発表③	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ・領域「言葉」と小学校「国語」との関連	これまでの学習内容を振り返り、幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容と小学校学習指導要領の教科「国語」を比較検討し、その共通点と相違点を確認した上で、園と小学校の望ましい連携の在り方について考察する。☑会人として必要な言葉を学習する。（毎回）☑絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

科目名	保育内容演習 表現と創造Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修	
担当教員	早川 仁			
開講期	Ⅱ			
授業概要	○ 幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかわり方と内容を実践的に探求する。☑ ディプロマポリシーとの関係；保育の内容理解と総合的計画力。☑ ○ 学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。 ディプロマポリシーとの関係；表現力とコミュニケーション能力・豊かな人間性☑ ○総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。 ディプロマポリシーとの関係；表現力とコミュニケーション能力・豊かな人間性。 位置づけ・水準CE2125☑ ☑ 大別して、三つの内容を行なう。☑ 1.感性と想像力と身体が発現として、他者を感じ、動き、歌い、描き、作り、演じることを総合的に体験する。☑ 2.幼児の表現にかかわりながら、ともに歌い、伴奏し、作り、描くこと、また絵本やお話を総合的に表現して遊ぶことを体験的に学ぶ。☑ 3.学内での学びを総合・応用するフィールド応用体験ワークとして、地域の施設において、子どもたちの前で表現し、また遊びを組織・指導することを体験し、ふりかえる。			
達成目標	1. 「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。☑ 2. 「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現方法について理解し体験している。☑ 3. 自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者とのかわり・対応の中で動き表現することができる。☑ ・単位認定の最低基準：規定授業数の3分の2以上出席していること。☑ 成績評価の総合点が60点以上であること。			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年生	成績評価 方法	練習課程と表現力 20点☑ 成果発表 50点 ☑ ノート及び作品提出 30点	
教科書	随時プリントを配付			
参考書	大場牧夫著☑ 「表現原論－幼児の『あらわし』と領域『表現』」☑ 1996年 萌文書林☑ 榎沢良彦編著☑ 「保育内容・表現」 ☑ 2009年 同文書院			
学生への要望	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。☑ ○事前・事後学習について			
オフィスタイム	磯部：月曜日Ⅲ限、水曜日Ⅳ限 8 4 1 研究室☑ 早川：水曜日・木曜日 15：00～17：00 8 2 6 研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業オリエンテーション 磯部・早川	授業オリエンテーション☑ ・授業の進め方について☑ ・えばか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク参加班分け☑ ・1班・2班に分かれて～演目の選択 ①ペープサート②絵本・紙芝居③パネルシアター④ミュージカル⑤幼児体操⑥自由課題 * 班ごとに第2希望まで選択	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
2	えばか準備① 磯部・早川	1班・2班 バート毎の活動 役割分担（リーダー、キャスト、スタッフ等の決定）・発表内容打ち合わせと活動日程（工程表）の作成・・シナリオ・制作物等の準備・計画（多目的室）	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	えばか準備② 磯部・早川	1班・2班 パート毎の活動 作業役割分担・教材資料準備（多目的室）・発表内容打ち合わせと活動日程（工程表）の作成・シナリオ・制作物等の準備・計画（多目的室）	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
4	えばか準備③ 磯部・早川	1班・2班 パート毎の活動発表練習 制作活動開始（磯部一主に音楽、演技などの指導一多目的室）、（早川一主に制作などの指導一図工室） ☒ ☒	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
5	えばか準備④ 磯部・早川	1班・2班 パート毎の活動（磯部一主に音楽、演技などの指導一多目的室）、（早川一主に制作などの指導一図工室）	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
6	えばか準備⑤ 磯部・早川	1班・2班 パート毎の活動（磯部一主に音楽、演技などの指導一多目的室）、（早川一主に制作などの指導一図工室）	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
7	えばか準備⑥ 磯部・早川	1班・2班 パート毎の活動（磯部一主に音楽、演技などの指導一多目的室）、（早川一主に制作などの指導一図工室）☒	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
8	えばか準備⑦ 磯部・早川	1班・2班 パート毎の活動（磯部一主に音楽、演技などの指導一多目的室）、（早川一主に制作などの指導一図工室）	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	40
9	えばか練習① 磯部・早川	1班・2班 総合練習活動一発表練習 統括的に演技パート・制作パートが連動して発表作品をまとめる	練習内容を振り返り、実施した内容の確認と反省について次の発表に活かす。	40
10	えばか練習② 磯部・早川	1班・2班 総合練習活動一発表練習 統括的に演技パート・制作パートが連動して発表作品をまとめる	練習内容を振り返り、実施した内容の確認と反省について次の発表に活かす。	40
11	えばか練習③ 磯部・早川	1班・2班 総合練習活動一発表練習 統括的に演技パート・制作パートが連動して発表作品をまとめる	練習内容を振り返り、実施した内容の確認と反省について次の発表に活かす。	40
12	えばか発表① 磯部・早川	えばか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク発表作品収録 子どもとともに歌うこと・踊ること・作ることに、実践を通して体験する。	発表内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する	40
13	えばか発表② 磯部・早川	えばか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク発表作品収録 子どもとともに歌うこと・踊ること・作ることに、実践を通して体験する。	発表内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する	40
14	えばか発表③ 磯部・早川	えばか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク発表作品収録 子どもとともに歌うこと・踊ること・作ることに、実践を通して体験する。	発表内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する	40
15	えばか発表④ 磯部・早川	えばか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク発表作品収録 子どもとともに歌うこと・踊ること・作ることに、実践を通して体験する。	発表内容を振り返り、実施した内容、及び体験後の自己変化や感想等について記録する	40

科目名	保育内容演習 表現と創造Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員	早川 仁,磯部 哲夫			
開講期	Ⅲ			
授業概要	○幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかわり方と内容を実践的に探求する。 ディプロマポリシーとの関係；保育の内容理解と総合的計画力。☑ ○学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。 ディプロマポリシーとの関係；表現力とコミュニケーション能力・豊かな人間性。☑ ○総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。☑ ディプロマポリシーとの関係；表現力とコミュニケーション能力・豊かな人間性。☑ 内容・方法☑ ①パネルシアターの制作、及び発表。☑ ②身体感覚の覚醒(他者とともに動くワーク)。☑ ☑ ③リズム・旋律・色彩・形体であそぶ体験。☑ これらの活動は、子どもの表現を視野に入れながら、グループで 演奏・・造形等の統合による総合表現体験をする。 それぞれの発表に対してフィードバックとしての講評を行う。 位置づけ・水準CE2226			
達成目標	1.「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。☑ 2.「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現内容について理解し体験している。☑ 3.自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者との関わり・対応の中で動き表現することができる。 ☑ ・単位認定の最低基準：規定授業数の3分の2以上出席していること。成績評価の総合点が60点以上であること。			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 2年生	成績評価 方法	練習課程と表現力 20点☑ 成果発表 30点 ☑ ノート及び作品提出 50点	
教科書	特になし			
参考書	大場牧夫著☑ 『表現原論－幼児の「あらわし」と領域「表現」』☑ 萌文書林 1996年☑ ☑ 榎沢良彦編著『保育内容・表現』 ☑ 同文書院 2006年			
学生への要望	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。☑ ○事前・事後学習について			
オフィスタイム	磯部、火曜日Ⅱ限・水曜Ⅳ限 8 4 1 研究室。 ☑ 早川、水曜日・木曜15:00~16:00 8 2 6 研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 担当－磯部・早川	・授業の狙い・目標・日程・内容・評価基準などについて理解する☑ ・パネルシアターの導入 DVD鑑賞等による解説	記録ノートを準備し、授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	30
2	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ①)担当－磯部・早川	パネルシアター制作①1人1作つくる) ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける (Pペーパー描画についてなど)。☑ 色材 (マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具 (針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備～ 制作開始☑	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また制作物を持参し、次回の授業に支障のないように仕上げる。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ②)担当一磯部・早川	パネルシアター制作②1人1作つくる) ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける (Pペーパー描画についてなど)。☒ 色材 (マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン) ・仕掛けに応じた道具 (針・糸・ボンド・はさみ・カッター等) は各自準備～・制作開始☒	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また制作物を持参し、次回の授業に支障のないように仕上げる。	30
4	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ③)担当一磯部・早川	パネルシアター制作③1人1作つくる) ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける (Pペーパー描画についてなど)。☒ 色材 (マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン) ・仕掛けに応じた道具 (針・糸・ボンド・はさみ・カッター等) は各自準備～・制作開始☒	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また制作物を持参し、次回の授業に支障のないように仕上げる。	30
5	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ④)担当一磯部・早川	パネルシアター発表練習 ・実習に向けて・歌・語り・動作・手遊びの練習 ☒	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また発表に向けて、繰り返し練習をする。	40
6	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ⑤)担当一磯部・早川	パネルシアター発表① ・発表を通して、・歌・語り・動作・手遊び等の総合表現を学び合う。 ☒	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。また発表内容を振り返り、感想を記録する。	40
7	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ⑥)担当一磯部・早川	パネルシアター発表② ・発表を通して、・歌・語り・動作・手遊び等の総合表現を学び合う。 ☒	授業で実施した内容を振り返り、実施した内容の記録、及び体験後の自己変化や感想等について記録する。	30
8	保育教材の体験・探求(絵楽譜①)担当一磯部・早川	体験を通して、様々な楽器の音色、操作、保管等について学ぶ。又、音楽を聴いて音のイメージをなぐり書きで表現する (音と色・形の共感覚を探索)。 ☒	実習を振り返り又、今後の実習に向けて、繰り返し教材研究をし、指導案作成のアイディアを考える。	30
9	保育教材の体験・探求(絵楽譜②)担当一磯部・早川	前回体験した楽器を用いて、グループに分かれ、簡単な作曲をする。 曲のイメージを色・形で表現し絵による楽譜制作を試みる。 ☒	実習を振り返り又、今後の実習に向けて、繰り返し教材研究をし、指導案作成のアイディアを考える。	40
10	保育教材の体験・探求(絵楽譜③) 担当一磯部・早川	前回作画した絵楽譜を自由に組み合わせ、それを基に新たな曲づくりをする。 グループごとに指揮者を立てて演奏発表する。 ☒ ☒ ☒ ☒	実習を振り返り又、今後の実習に向けて、繰り返し教材研究をし、指導案作成のアイディアを考える。	40
11	五感の覚醒・視覚障害者へのサポート体験①担当一磯部・早川	ブラインドウォーク 触覚で見る世界体験・視覚障害者へのサポート体験として、視覚を閉ざして環境に触れる・出会う体験をする。 又、体験者が安心・安全にサポートする技能を身に付ける。	レポートを作成する。(ノートに記載)。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	五感の覚醒・視覚障害者へのサポート体験②担当一磯部・早川	ブラインドウォーク 前回と立場を入れ替えて、触覚で見る世界体験・視覚障害者へのサポート体験として、視覚を閉ざして環境に触れる・出会う体験をする。又、体験者が安心・安全にサポートできる技能を身に付ける。	レポートを作成する。（ノートに記載）。	30
13	幼児の表現発達を学ぶ。 ①担当一磯部・早川	日常生活の中での表現行為について主に絵画表現における幼児～少年期の発達を学ぶ⇒事例ビデオより☒	レポートを作成する。（ノートに記載）。	30
14	幼児の表現発達を学ぶ。 ②担当一磯部・早川	日常生活の中での表現行為について、主に保育現場における幼児のあそび活動とその意味や発達を学ぶ⇒事例ビデオより☒	レポートを作成する。（ノートに記載）。	30
15	授業のまとめと振り返り。 担当一磯部・早川	授業のまとめと振り返りとして、記録ノートの整理を行い改めて気づいたことや感じ考えたこと追記してノートを提出する。	ノートをまとめる。	40

科目名	保育内容演習 生活と環境Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	柴田 卓		
開講期	Ⅱ		
授業概要	授業の概要 〔授業の目的・ねらい〕 幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域環境に示されている「ねらい」と「内容」を理解し、事例や実践を基に幼児が環境と関わる様子や環境を通して学ぶ姿を理解する。また、子どもを取りまく理想的な保育環境について、他の専門領域と関連させて理解を深める。ディスカッションや模擬保育などのアクティブラーニングを通して、保育実践力の向上を目指す。 位置づけ・水準CE2127 ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力		
達成目標	授業のテーマ及び到達目標 1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解することができる。 2) 子どもの学びと発達の視点から保育環境を捉え、教材や環境構成の意義を理解することができる。 3) 発達段階を踏まえた教材や保育環境を探究し、指導場面を構想しながら保育活動を計画および展開することができる。 ※単位認定の最低基準は、達成目標に対して7割を理解し習得していること。		
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価 方法	ポートフォリオ30点 課題発表30点 レポート30点 平常点10点
教科書	幼稚園教育要領解説 フレーベル館 保育所保育指針解説 フレーベル館		
参考書	北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集 北大路書房		
学生への要望	事前および事後学習をして授業に臨むこと		
オフィスタイム	月曜日の13時～16時、金曜日の13時～16時 場所：83年館824研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 領域「環境」の理解①	・ 授業の進め方や評価の仕方等に関する説明 ・ 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本等を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。 ・ 自身の幼児期の体験や記憶と環境について考える。	幼稚園教育要領を参考に授業内容に関して予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
2	領域「環境」の理解②	乳幼児の発達と保育環境の理解 ・ 人的環境と物的環境の探究 ・ 乳幼児の発達を促す室内環境と屋外環境の探究	幼稚園教育要領を参考に授業内容に関して予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
3	教材研究①	教材研究 文字や数字に触れる教材と保育活動および環境構成について探究する。	文字・数字に関する教材について予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
4	教材研究②	教材研究 健康や運動、安全を促す教材と保育活動および環境構成について探究する。	健康や運動、安全を促す教材について予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
5	教材研究③	教材研究 音楽やアートに触れる教材と保育活動および環境構成について探究する。	音やアートの活用に関して予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
6	グループ演習①	保育の構想と計画 環境を通して学ぶことの意義を理解し、好奇心や探究心を促すアプローチ方法について探究する。	予習として教材研究①～③の教材と環境構成について検討する。また、学習したことをリフレクションシートへ記入する。	45
7	グループ演習②	保育の構想と計画 発達段階に応じた教材を選定し、指導計画を作成する。	予習として自身の関心のある教材を準備する。また、学習したことをリフレクションシートへ記入する。	45
8	グループ演習③	模擬保育 教材探究①～③について各グループで模擬保育を行う。	模擬保育に向けての準備を行い、模擬保育を通して学習したことをリフレクションシートへ記入する。	45
9	教材研究④	教材研究 自然観や道徳観を育む教材と保育活動および環境構成について探究する。	自然物に関する教材について予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
10	教材研究⑤	教材研究 ESDおよびSDGsに係る教材と保育活動および環境構成について探究する。	動植物を活かした保育活動に関して予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	教材研究⑥	教材研究 地域と関わる保育活動および環境構成について探求する。	保育に活かせる地域資源について予習し、授業で学習したことを各自調べながらリフレクションシートへ記入する。	45
12	グループ演習④	保育の構想と計画 教材の選定と指導計画の作成	予習として自身の関心のある教材を準備する。また、学習したことをリフレクションシートへ記入する。	45
13	グループ演習⑤	模擬保育 教材探求④～⑥について各グループで模擬保育を行う。	模擬保育に向けての準備を行い、模擬保育を通して学習したことをリフレクションシートへ記入する。	45
14	グループ演習⑥	振り返り 情報機器を活用し、模擬保育の様子や映像をドキュメンテーション等で記録し、改善点等をグループで議論する。	フィールドワークを通して学習したことをリフレクションシートへ記入する。	45
15	まとめ	本授業で学習した内容を振り返り、レポートにまとめる。指導案とドキュメンテーションを提出する。	リフレクションシートを振り返り、本授業で学習したことをレポートにまとめる。	60

科目名	保育内容演習 生活と環境Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員	柴田 卓			
開講期	Ⅲ			
授業概要	授業の概要☒ 〔授業の目的・ねらい〕 ☒ 生活と環境Ⅰにおいて、幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域環境に示されている「ねらい」と「内容」を理解したことを前提とし、フィールドワークにおける実践を基に地域資源や自然環境における教材の多様性と、環境を通して学ぶ姿を具体的に理解する。また、地域資源を活用したアクティブラーニングを通して発達段階に応じた教材の選定方法、環境構成やリスクマネジメントの手法について学習し、保育実践力の向上を目指す。☒ フィールドワーク先としては、郡山開成学園自然共生園、郡山自然の家、福島県民の森フォレストパークあだたら、緑とのふれあいの森公園、那須甲子・磐梯青少年自然の家の中から2か所を予定している。詳細は第1回の授業において説明する。☒ 位置づけ・水準CE2228☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力			
達成目標	授業のテーマ及び到達目標☒ 1) 幼稚園教育要領や保育所保育指針における領域「環境」のねらい及び内容を理解し、教材や環境構成の意義を理解することができる。☒ 2) 発達段階を踏まえて教材や保育環境を構想し、指導場面を想定しながら保育活動を計画および展開することができる。☒ 3) フィールドワークを通して地域資源や自然環境を活かした保育活動について理解し、保育計画およびリスクマネジメントを遂行することができる。☒ ※単位認定の最低基準は、達成目標に対して7割を理解し習得していること。			
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	課題発表30点 レポート等提出物60点 平常点10点	
教科書	幼稚園教育要領解説 フレーベル館 保育所保育指針解説 フレーベル館☒ 北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集 北大路書房			
参考書	授業内容に応じて、適宜紹介する。			
学生への要望	自然環境下で活動できる服装を準備すること。例えば、運動できる靴、雨具、リュック、軍手、帽子など。☒ フィールドワークの場所へは現地集合となることや、現地までの移動費等が自己負担となることがあります。第1回の授業で確認してください。			
オフィスタイム	月曜日の13時～16時、金曜日の13時～16時 場所：83年館824研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	・ 授業概要、評価方法の説明 ・ フィールドワークの説明 ・ 学習環境としての地域資源の可能性		45
2	フィールドワーク1	フィールドワーク① ・ 自然環境下における教材を探求する。 ・ ネイチャージョゲームを体験する。	フィールドワーク1に向け自然を活用した保育活動を探求する。フィールドワーク2に向けた指導計画の作成と準備	45
3	フィールドワーク1-②	フィールドワーク1-② ・ 自然環境下における幼児トレイルの理解 ・ コース設定の方法とリスクマネジメントの理解	フィールドワーク1に向け自然を活用した保育活動を探求する。フィールドワーク2に向けた指導計画の作成と準備	45
4	フィールドワーク1-③	フィールドワーク1-③ ・ 自然環境への配慮とアクティビティ ・ フィールドワーク①のふりかえりおよびフィールドワーク2に向けたグルーピングと準備	フィールドワーク1に向け自然を活用した保育活動を探求する。フィールドワーク2に向けた指導計画の作成と準備	45
5	フィールドワーク2	フィールドワーク2 ・ グループごとに模擬保育の準備をする。	フィールドワーク2に向け指導計画を作成し教材を準備する。また、模擬保育のふり	45
6	フィールドワーク2-②	フィールドワーク2-② ・ グループごとに模擬保育を行う。	フィールドワーク2に向け指導計画を作成し教材を準備する。また、模擬保育のふり	45
7	フィールドワーク2-③	フィールドワーク2-③ ・ グループごとに模擬保育を行う。	フィールドワーク2に向け指導計画を作成し教材を準備する。また、模擬保育のふり	45
8	ふりかえり	ふりかえり ・ 2回のフィールドワークを通して学習したことを振り返る。自身の計画と実践の改善策について議論する。	フィールドワークを通して学習したことを踏まえ、学習環境としての地域資源の意義と可能性についてレポートにまとめる。	60

科目名	保育表現技術 音楽Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	横溝 聡子,深谷 悠里絵,菅原 美謝, 磯部 哲夫			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい]☑ 幼稚園教育要領に示された、幼稚園教育の基本を踏まえ、感性と表現に関する領域「表現」のねらい及び内容を理解し、また幼児の発達や学びを理解し、具体的な保育場面を想定した音楽表現における表現技術と指導法を修得する。☑ [授業全体の内容の概要]☑ 幼児の発達段階における音楽表現技術、教育法を考察する。幼児達が主体的に音楽に関わることができるように、保育現場で使用している楽曲を取り上げ、弾き歌い、手遊び歌、楽器あそび、グループワーク等の体験を通して、音楽と身体表現、音楽と表情などの表現の関係性を理解し、体感しながら音楽表現の技術を学修する。確実な音楽表現、音楽表現教育法を身に付けるため、発声や弾き歌いでは双方向の授業であるマンツーマンによるアクティブラーニング、手遊び歌、グループワーク等では、グループ活動によるディスカッション、協働的体験によるアクティブラーニングで授業を実施する。授業内でグループ発表を実施し、終了後コメントによるフィードバック、実技試験においてはループリックによるフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2129			
達成目標	目標は ①感性と表現に関する領域「表現」の音楽表現のねらい及び内容を踏まえ、幼児が身に付けていく音楽表現内容と指導上の留意点を理解している。☑ ②様々な音楽表現の実践を通して、音楽の基礎知識、幼児の音楽表現、コミュニケーションとしての音楽の役割を理解する。☑ ③幼児の生活の中での音楽や、音楽表現の具体的な保育場面が想定できる。 単位認定の最低基準は、①～③の内容の7割を理解し、授業や発表において確認出来ること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の内容理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」である。			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年		成績評価 方法	小テスト（筆記）・課題提出40％、手遊び歌20％、楽器20％、弾き歌い発表20％
教科書	今泉明美 他編著『子どものための音楽表現技術』萌文書林,2017 ☑ 津布崇杏里・桑原章寧共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社☑ 全国大学音楽教育学会編著『明日へ歌い継ぐ日本の子どもの歌』音楽之友社☑ 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館,2018、厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館,2018			
参考書	授業内で指示			
学生への要望	指導案作成、弾き歌い、手遊び歌、楽器あそびの各領域の自学自習をしっかりと行うこと。			
オフィスタイム	磯部哲夫：火曜日Ⅱ限、水曜日Ⅳ限 841研究室、横溝聡子：水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅲ限 No.1幼児教育学研究室、深谷悠里絵：水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅲ限、No.1幼児教育学研究室、菅原美謝：火曜日昼休み、または放課後、83年館非常勤控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 磯部・横溝・深谷・菅原	シラバスを配布し、本講義の流れについての理解を深める。幼稚園教育要領の各領域のねらいについて理解する。	事前にシラバスを目を通して、本講義の流れを確認する。幼稚園教育要領解説を読んでおくこと。	30
2	幼児の音楽的活動 磯部	幼児向けの楽曲を視聴し幼児の音楽活動について考える。幼稚園教育要領の表現領域について解説する。	幼稚園教育要領解説を読んでおくこと。	30
3	音楽基礎知識① 横溝	楽譜のしくみ、音名、音符と休符について理解する。幼児曲を通して理解する。	『子どものための音楽表現技術』の「音楽と音」「楽譜のしくみ」「音名」「音符と休符」を読んでおくこと。	30
4	音楽基礎知識② 横溝	音符と休符、リズムなどについて、幼児曲を通して理解する。	『子どものための音楽表現技術』の「音名」「音符と休符」「拍子とリズム」を読んでおくこと。	30
5	音楽基礎知識③ 横溝	拍子とリズム、特に付点のリズムについて、幼児曲を通して理解する。	『子どものための音楽表現技術』の「音符と休符」「拍子とリズム」について理解を深めておくこと。	30
6	音楽基礎知識④ 横溝	音階と調、演奏記号について幼児曲を通して理解する。	『子どものための音楽表現技術』の「音階と調」「演奏記号」を読んでおくこと。	30
7	ピアノ・発声① 横溝・磯部	音程について理解する。マンツーマンのレッスンで基本的な発声を身につける。	『子どものための音楽表現技術』の「音程」を読んでおくこと。	30
8	ピアノ・発声② 横溝・磯部	ピアノを用いて和音とコードについて学ぶ。マンツーマンのレッスンで基本的な発声を身につける。	『子どものための音楽表現技術』の「和音とコードネーム」を読んでおくこと。	30
9	ピアノ・発声③ 横溝・磯部	ピアノを用いて和音とコードについて学ぶ。マンツーマンのレッスンで基本的な発声を身につける。	『子どものための音楽表現技術』の「和音とコードネーム」について理解を深めておくこと。	30
10	ピアノ・発声④ 横溝・磯部	ピアノを用いて和音とコードについて学ぶ。マンツーマンのレッスンで基本的な発声を身につける。	コードネームについて理解を深め、実際にピアノで弾けるようにすること。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	ピアノ・発声⑤ 横溝・磯部	ピアノを用いて和音とコード、即興的な伴奏付けの基礎について学ぶ。マンツーマンのレッスンで基本的な発声を身につける。	コードネームについて理解を深め、実際にピアノで弾けるようにすること。	30
12	音楽基礎知識⑤ 横溝	楽曲の形式、演奏記号について理解する。幼児の音楽活動について考える。	『子どものための音楽表現技術』の「楽曲の形式」をよく読んでおくこと。	30
13	音楽基礎知識⑥ 横溝	楽譜から読み取る音楽表現について考える。幼児曲：生活のうた「朝のうた」「おはようの歌」「おべんとう」「おかえりのうた」「さよならのうた」について。	5曲の生活のうたの楽譜を見てくること。	30
14	指導案作成① 磯部	幼稚園教育要領に基づいた指導案作成のポイントを理解する。	幼稚園教育要領解説の「第4節 指導計画作成と幼児理解に基づいた評価」を読んでおくこと。	30
15	指導案作成② 磯部	幼稚園教育要領に基づいた指導案作成を作成し、グループワークでより良い指導案作成についてディスカッションを実施する。	各自、幼稚園教育要領に基づいた指導案を作成する。	30
16	手遊び歌① 深谷	歌唱教材を基に音楽に合わせた手遊びによる音楽表現を理解する。	各自、幼稚園教育要領に基づいた「手遊び歌」についての指導案を作成する。	30
17	手遊び歌② 深谷	歌唱教材を基に音楽に合わせた手遊びによる音楽表現を理解する。グループワークで手遊び歌を考える。	各自、幼稚園教育要領に基づいた「手遊び歌」についての指導案を作成する。	30
18	手遊び歌③ 深谷	乳幼児の手遊び歌の模擬保育指導についての保育指導案をグループで作成し、グループ発表の準備をする。	グループ発表の準備、練習を行う。	30
19	手遊び歌④ 深谷	手遊び歌の保育指導案を基にグループ発表を行い、発表についてディスカッションする。	グループ発表の準備、練習を行う。	30
20	楽器あそび① 菅原	子どもの楽器活動の流れについて学ぶ。楽器の扱い方、奏法を理解する。	楽器の扱い方、奏法を調べる。	30
21	楽器あそび② 菅原	子どもの楽器活動でのリズムについて考える。楽器あそびの様々な方法を学ぶ。	テキストのリズム打ちを行う。	30
22	楽器あそび③ 菅原	小打楽器を用いた楽器あそびを行う。	楽器を取り扱う音楽遊び指導案を作成する。	30
23	楽器あそび④ 菅原	各年齢に応じた指導法、小打楽器を用いた楽器あそびを行う。	楽器を取り扱う音楽遊び指導案を作成する。	30
24	楽器あそび⑤ 菅原	各年齢に応じた指導法、小打楽器を用いた楽器あそびを行う。	楽器を取り扱う音楽遊び指導案を作成する。	30
25	楽器あそび⑥ 菅原	年齢に応じた音楽表現について整理する。楽器あそびをグループごとに発表する。	グループ発表の準備、練習を行う。	30
26	弾き歌い① 横溝・磯部	保育現場におけるピアノの役割と表現について理解する。マンツーマンのレッスンで、子どもの歌で言葉が分かりやすく聴こえやすい発声を身につける。	弾き歌いの楽譜の譜読みをしっかりと行う。	30
27	弾き歌い② 横溝・磯部	保育現場におけるピアノの役割と表現について理解する。マンツーマンのレッスンで、子どもの歌で言葉が分かりやすく聴こえやすい発声を身につける。	弾き歌いの楽譜の譜読みをしっかりと行う。	30
28	弾き歌い③ 横溝・磯部	弾き歌いのポイントを理解する。マンツーマンのレッスンで、子どもの歌で言葉が分かりやすく聴こえやすい発声を身につける。	弾き歌いの楽譜の譜読みをしっかりと行う。	30
29	弾き歌い④ 横溝・磯部	弾き歌いのポイントを理解する。マンツーマンのレッスンで、子どもの歌で言葉が分かりやすく聴こえやすい発声を身につける。	弾き歌い発表に向けての練習を行う。	30
30	弾き歌い⑤ 横溝・磯部	幼児向け楽曲による弾き歌い発表とまとめ	弾き歌い発表に向けての練習を行う。	30

科目名	保育表現技術 音楽Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	菅原 美謝		
開講期	Ⅲ		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ☒ ○保育表現技術音楽Ⅰ、保育表現技術器楽Ⅰ、で学んだ音楽の表現技術について、更に深めていく。☒ ○幼児の発達、創造性、感覚の実態を把握するとともに、実際に楽器や声を通して自身の創造性や即興性、伴奏法等を深めていく。☒ ☒ 〔授業全体の内容の概要〕 ☒ ○担当者は2名とし、隔週で展開する。個人レッスンにおいては、各々の表現をアクティブラーニング（能動的学修）や双方向型授業で進めて行く。☒ ①主に楽器あそびを主とした内容。☒ ②主に歌うことを主とした内容と、コードネームによる伴奏法についての内容。授業内で器楽演奏、コードによる弾き歌いで演奏にうよる評価を行い、演奏後コメントによってフィードバックする。位置づけ・水準 CE2230		
達成目標	①子どもの育ちやあそびの中で展開される楽器あそびや音楽表現を、どの程度理解、または実践できるようになったか。☒ ②保育実践において、子どもの表現に関わるピアノ伴奏がどの程度できるようになったか。☒ ③保育者としての声（無理なく届く声をどの程度できるようになったか。単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において歌唱表現が確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の内容理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」である。		
受講資格	短大幼児教育学科2年生	成績評価 方法	演奏発表90％、平常点（興味・関心・意欲・態度）10％にて評価
教科書	『ポケットいっぱいのうた』 鈴木恵津子著 教育芸術社 2011☒ 『現場で生かせる幼児合奏』 三瓶令子ほか5名著 圭文社 2016☒ 適宜プリントを配付		
参考書	特になし		
学生への要望	・菅原の授業は動きやすい服装を着用のこと。☒ ・コードの仕組みを確実に修得し、瞬時に鍵盤へ変換できるよう練習を重ねること。		
オフィスタイム	菅原：火曜日お昼、または放課後、83年館非常勤控室☒ 磯部：月曜日Ⅲ限、水曜Ⅳ限 No2幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 磯部・菅原	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構え、教科書について説明を行う。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	60
2	発声法1、メジャーコード 磯部	呼吸について説明し、腹式呼吸の習得について解説する。またコードの作り方の解説し、メジャーコードを作る。	腹式呼吸で発声練習を行うこと。様々な楽曲を用いて、コードを楽譜に書き出してみること。	60
3	楽器の扱い方 菅原	楽器の扱い方を覚え、子どもの表現活動での楽器導入の方法を学び、簡単なリズムに慣れる。	様々な楽器に触れ、音を出したり演奏を行い、楽器に慣れること。	60
4	発声法2、マイナーコード 磯部	腹式呼吸からの息の流し方を身に付ける。マイナーコードを鍵盤に置き換えてみ、コード進行で楽曲を演奏する。	腹式呼吸で発声練習を行うこと。様々な楽曲を用いて、コードを楽譜に書き出して弾いてみること。	60
5	鍵盤ハーモニカ指導法 菅原	鍵盤ハーモニカ指導法を学ぶ。☑打楽器でのリズム打ちを中心とした簡単な合奏を行う。	童謡を鍵盤ハーモニカで演奏すること。また小打楽器でのリズム打ちを中心とした簡単な合奏を行う。	60
6	発声法3、コードの転回形 磯部	発声についてディスカッションし、アクティブラーニングによるマンツーマンレッスン。コードの転回形を理解し、簡単な楽曲を演奏する。☑	発声の個人レッスンによる発声のポイントを意識し発声練習を行う。コードの転回形を使い、簡単な楽曲の演奏を行う。	60
7	3歳児、4歳児、5歳児の音楽表現について① 菅原	各年齢に応じた指導法、木琴、鉄琴、小打楽器による合奏を行う。☑	少人数で、木琴、鉄琴、小打楽器による合奏を行う。	60
8	発声法4、弾き歌い1 磯部	発声についてディスカッションし、アクティブラーニングによるマンツーマンレッスン。メジャー、マイナーコードを使い簡単な楽曲を演奏する。	発声の個人レッスンによる発声のポイントを意識し発声練習を行う。メジャー、マイナーコードを使い簡単な楽曲の演奏を行う。	60
9	3歳児、4歳児、5歳児の音楽表現について② 菅原	各年齢に応じた指導法と音楽活動を実践する。鍵盤ハーモニカ、音板楽器、小打楽器による合奏を行う。 ☑	少人数で、鍵盤ハーモニカ、音板楽器、小打楽器による合奏を行う。	60
10	発声法5、弾き歌い2 磯部	発声についてディスカッションし、アクティブラーニングによるマンツーマンレッスン。童謡でコードを使い演奏を行う。	発声の個人レッスンによる発声のポイントを意識し発声練習を行う。童謡でコードを使って弾き歌いの練習を行い、コード進行に慣れる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	簡単編曲と発表の環境設定① 菅原	子どもの曲を合奏用に編曲する方法を学ぶ。発表の環境設定について考える。	編曲法を用いて、子どもの曲を合奏用に編曲を行うこと。	60
12	発声法6、弾き歌い3 磯部	発声についてディスカッションし、アクティブラーニングによるマンツーマンレッスン。童謡、ポピュラー音楽のコードを使った弾き語り。	発声の個人レッスンによる発声のポイントを意識し発声練習を行う。童謡でコードを使ってを弾き歌いの練習を行い、コード進行に慣れる。	60
13	簡単編曲と発表の環境設定② 菅原	子どもの曲を合奏用に編曲する方法を学ぶ。発表の環境設定について考えグループでオリジナル合奏曲をつくる。	編曲法を用いて、グループでオリジナル合奏曲をつくること。	60
14	まとめ1 磯部	Ⅲ期で取り上げた楽曲から発表曲を選び、コードを使って弾き歌いの発表を行う。	童謡でコードを使ってを弾き歌いの練習を行う。	60
15	まとめ2 菅原	年齢に応じた音楽表現について整理する、オリジナル合奏曲をグループごとに発表する。	オリジナル合奏曲をグループごとに練習を行う。。	60

科目名	保育表現技術 器楽Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
担当教員	深谷 悠里絵,小澤 啓子,鈴木 明美, 佐久間 智子,加藤 幸恵,本橋 美恵 子,横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	【ピアノ表現技術】☑ 個人レッスンでは保育者として必要なピアノ演奏の基礎技法を習得し、豊かな音楽性を自主的に体得することを目的とする。授業では、音楽理論への理解を深めるとともに、個々のレベルに合わせた基礎的な技術（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得を目指す。また演奏技術のみの学習にとどまらず、音楽に対する興味、関心、即興力の伸長を優先させることを基本としたい。更にⅡ期では読譜力とピアノ演奏の基本技術を向上させると同時に、幼稚園・保育所での生活のための曲5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)にも取り組み、保育現場で求められる実践力を身につける。ML授業については、2人1組のグループを作り、ディスカッションを重ねながら1コマに1曲仕上げる。アンサンブルによる音楽の楽しさを体得し、アンサンブルを通して表現力や協調性、コミュニケーション能力を伸長させていく。☑ 各期の試験後に時間を設け、コメントによるフィードバックを行います。☑ 【ハンドベル表現技術】☑ ピアノ進度が比較的進んでいる学生は、ML授業に替えてハンドベル選択が可能である。ハンドベルではアンサンブルを通して豊かな表現力や人間性を養っていく。学内及び学外のフィールドワークで演奏発表を行う。ピアノとの並行履修となる。演奏発表後、全体に対するフィードバックを行います。位置づけ・水準 CE2131			
達成目標	個人レッスン☑ ①ピアノテキスト lesson12 まで終了している。☑ ②「生活のうた」の伴奏が弾ける。☑ ③楽譜や基本的な演奏技術を理解し、積極的に表現しようとしている。☑ ML授業(Ⅱ期より)☑ ①2人のテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できる。☑ ②ハーモニーの美しさを感じることができる。☑ ③他の人の演奏を聴きながら、自分の演奏ができる。☑ ハンドベル☑ ①11人でテンポやリズム感等を感じ、協力して演奏できる。☑ ②メロディーと伴奏のバランス、ハーモニーの美しさを感じられる。☑ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できる。☑ ☑ 単位認定の最低基準：個人レッスンの①と②は必須条件である。その他の項目の内容の7割を理解し、授業や演奏発表において確認できること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の内容の理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」			
受講資格	幼児教育学科1年		成績評価 方法	個人レッスン：毎授業でのレッスン成果（態度、課題に対する取り組み姿勢・意欲、進度等）40点☑ 、ML：平常点（意欲・態度等）、アンサンブル発表 40点☑ 定期試験(2回)：20点
教科書	【ピアノ】☑ 吉野 幸男・三瓶 令子 外10名 執筆・編集者☑ 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』改訂版 ドレミ楽譜出版社 ☑ 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える！ 弾き歌いピアノ曲集』 ドレミ楽譜出版社☑ 【ハンドベル】☑ ベル用楽譜を入手し、適宜学生と相談の上選択			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	○毎時間休まないでレッスンを受けること。☑ ○毎日最低30分の練習をし、自己の課題解決に励むこと。☑ ○爪をカットし、マニキュアはつけないこと。髪の毛が前に下らないようにまとめてくること。			
オフィスタイム	月曜日・金曜日 12：00～12：50 場所：83年館4F ゼミD（非常動控室） 深谷：水曜日Ⅳ限・金曜日Ⅲ限 場所：芸術館3F No.1幼児教育学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・器楽演習の授業形態の説明→1コマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。☑ ・各グレード別のグループ分けの結果を受け、個人レッスンの担当者が決定する。☑ ・使用テキストの紹介。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
2	基本的なピアノ演奏法を学ぶ① 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑ ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑ ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑ ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
3	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ② 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑ ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑ ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑ ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
4	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ③ 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑ ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑ ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑ ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
5	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ④ 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑ ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑ ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑ ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
6	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑤ 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑ ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑ ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑ ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
7	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑥ 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑ ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑ ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑ ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑦ 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑ ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑ ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑ ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
9	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑧ 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑ ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑ ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑ ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
10	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑨ 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑ ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑ ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑ ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
11	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑩ 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑ ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑ ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑ ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
12	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑪ 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑ ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑ ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑ ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
13	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑫ 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑ ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートをレッスンする。☑ ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑ ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。マーチの暗譜を確実にする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑩ 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。☑ ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。☑ ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。☑ ・1期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。マーチの暗譜を確実にする。	30
15	1期のまとめ、及び確認 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。マーチの暗譜を確実にする。	30
16	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験①深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
17	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験②深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
18	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験③深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
19	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験④深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
20	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑤深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
21	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑥深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
22	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑦深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう☑おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
23	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑧深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→1期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑨深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
25	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑩深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
26	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑪深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
27	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑫深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。	30
28	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑬深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	試験に向けて演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。生活のうたの暗譜を確実にする。	30
29	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑭深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	・個人レッスン→Ⅰ期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。☑ 幼稚園・保育所での生活のための曲を5曲(おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類)を課題とする。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験☑	演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。生活のうたの暗譜を確実にする。	30
30	Ⅱ期のまとめ、及び確認 深谷・渡辺・小澤・鈴木・佐久間・加藤・本橋・菅原	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。	演奏技術と表現力の向上を目指しながら練習に取り組む。生活のうたの暗譜を確実にする。	30

科目名	ピアノⅠ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 選択
担当教員	横溝 聡子		
開講期	通年		
授業概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。手、腕、身体 of の使い方や読譜など基礎的な知識や技術の習得のために個々のレベルに合わせて授業を展開する。基礎の練習曲や多声音楽、古典派などの楽曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児教育現場で歌われる「生活のうた」やマーチも学び、保育者としての実践力を養う。また、マンツーマンの授業やアンサンブル、ディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準 CE2132		
達成目標	目標は ①ピアノの基本的技術や音楽理論を理解し、演奏技術の訓練に励むことができる。 ②多声音楽作品や古典派などの楽曲を学び、基本的な演奏法を理解できている。 ③自己の表現力や人間性を高めることができる。☒ ④「生活のうた」の弾き歌いができる。 単位認定の最低基準：④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」		
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	成績評価 方法	実技試験90％、平常点10％
教科書	ツェルニー、バッハ、古典派作品など進度に応じてその都度指示。☒ 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社		
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。		
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。		
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限 金曜日Ⅲ限 場所：芸術館3F No.1 幼児教育学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	120
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。マーチの学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。マーチの学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。マーチの学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。マーチの学習。試験曲の選定。正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派などの作品の学習。マーチの学習。試験曲の正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの学習。楽曲分析と演奏法の学習。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	基礎技術の学習 9	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲とマーチの学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	基礎的な技術と表現力の向上に向け練習を行う。マーチの試験に向けて準備する。。	120
10	基礎技術の学習10	マーチの試験。練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
11	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
12	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
13	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
14	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
15	演奏表現の学習とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
18	演奏技術の学習 3	古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。演奏発表に向けグループでディスカッションを行いながらアンサンブルでのより良い表現を目指す。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
19	演奏技術の学習 4	アンサンブルの演奏発表を行う。演奏後それぞれの演奏表現についてディスカッションする。	次の授業に向けた譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。	120
20	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
21	演奏技術の学習6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
22	演奏技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。「生活のうた」の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	120
23	演奏技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲と「生活のうた」の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
24	演奏技術の学習9	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。「生活のうた」弾き歌いテストに向けて準備する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
25	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
26	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。「生活のうた」の学習。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
27	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。「生活のうた」の学習。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
28	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。「生活のうた」の学習。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
29	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。「生活のうた」の学習。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
30	演奏表現の学習 6 とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120

科目名	ピアノⅠ（副科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。手、腕、身体を使い方や読譜など基礎的な知識や技術の習得のために個々のレベルに合わせて授業を展開する。基礎の練習曲や様々な時代の楽曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児教育現場で歌われる「生活のうた」やマーチも学び、保育者としての実践力を養う。また、マンツーマンの授業やアンサンブル、ディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準 CE2133			
達成目標	目標は ①ピアノの基本的技術や音楽理論を理解し、演奏技術の訓練に励むことができる。☒ ②「生活のうた」の弾き歌いができる。☒ ③ピアノ初心者については、「ピアノ・テキスト」Lesson16まで終わらせている。 ④自己の表現力や人間性を高めることができる。☒ 単位認定の最低基準：②③は必須である。①と④は内容の7割を理解し、授業や試験において確認できること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」			
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	成績評価 方法	実技試験90％、平常点10％	
教科書	吉野幸男他 執筆・共著『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』ドレミ楽譜出版社☒ 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社☒ 進度に応じてその都度指示。			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。			
オフィスタイム	横溝・深谷：水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅲ限 場所：芸術館3F No.1 幼児教育学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 基礎技術の学習1 横溝・深谷	入学前課題の確認。シラバスを用いたオリエンテーション。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	60
2	基礎技術の学習2 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
3	基礎技術の学習3 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
4	基礎技術の学習4 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
5	基礎技術の学習5 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
6	基礎技術の学習6 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
7	基礎技術の学習7 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
8	基礎技術の学習8 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。試験曲の選定。	基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
9	基礎技術の学習9 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。試験曲の譜読みを進める。	基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。マーチの試験に向けての準備。	60
10	基礎技術の学習10 横溝・深谷	マーチの試験。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲の楽曲分析と演奏法の学習。	試験に向け技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	演奏表現の学習 1 横溝・深谷	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
12	演奏表現の学習 2 横溝・深谷	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
13	演奏表現の学習 3 横溝・深谷	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
14	演奏表現の学習 4 横溝・深谷	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身につけ自発的な表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
15	演奏表現の学習とまとめ 横溝・深谷	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	60
16	アンサンブルの学習 1 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブル曲に取り組む。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
17	アンサンブルの学習 2 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブルにより人と呼吸を合わせることに慣れる。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
18	アンサンブルの学習 3 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブルによる音楽の楽しさを体感する。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
19	アンサンブルの学習 4 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。グループ毎にディスカッションしながら表現力を高め、音楽の楽しさを体感する。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
20	アンサンブルの学習とまとめ 横溝・深谷	アンサンブル曲の演奏発表を行う。演奏についてディスカッションを行う。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め仕上げの練習を行う。授業後は次の課題の譜読みをする。	60
21	演奏技術の学習 1 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
22	演奏技術の学習 2 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	60
23	演奏技術の学習 3 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
24	演奏技術の学習 4 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。試験曲の選定。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。「生活のうた」の弾き歌いテストに向けての準備。	60
25	演奏表現の学習 1 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正確に譜読みする。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
26	演奏表現の学習 2 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正確に譜読みする。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
27	演奏表現の学習 3 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲への理解を深め、表現について考える。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
28	演奏表現の学習 4 横溝・深谷	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	演奏表現の学習5 横溝・深谷	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
30	演奏表現の学習とまとめ 横溝・深谷	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	60

科目名	ピアノⅠ（副科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
担当教員	深谷 悠里絵			
開講期	通年			
授業概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。手、腕、身体を使い方や読譜など基礎的な知識や技術の習得のために個々のレベルに合わせて授業を展開する。基礎の練習曲や様々な時代の楽曲などを通して音楽理論や作品の様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児教育現場で歌われる「生活のうた」やマーチも学び、保育者としての実践力を養う。また、マンツーマンの授業やアンサンブル、ディスカッションを通して豊かな人間性やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準 CE2133			
達成目標	目標は ①ピアノの基本的技術や音楽理論を理解し、演奏技術の訓練に励むことができる。☒ ②「生活のうた」の弾き歌いができる。☒ ③ピアノ初心者については、「ピアノ・テキスト」Lesson16まで終わらせている。 ④自己の表現力や人間性を高めることができている。☒ 単位認定の最低基準：②③は必須である。①と④は内容の7割を理解し、授業や試験において確認できること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」			
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	成績評価 方法	実技試験90％、平常点10％	
教科書	吉野幸男他 執筆・共著『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』ドレミ楽譜出版社☒ 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社☒ 進度に応じてその都度指示。			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。			
オフィスタイム	横溝・深谷：水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅲ限 場所：芸術館3F No.1 幼児教育学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 基礎技術の学習1 横溝・深谷	入学前課題の確認。シラバスを用いたオリエンテーション。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	60
2	基礎技術の学習2 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
3	基礎技術の学習3 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
4	基礎技術の学習4 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
5	基礎技術の学習5 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
6	基礎技術の学習6 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
7	基礎技術の学習7 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
8	基礎技術の学習8 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。試験曲の選定。	基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
9	基礎技術の学習9 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。マーチの学習。試験曲の譜読みを進める。	基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。マーチの試験に向けての準備。	60
10	基礎技術の学習10 横溝・深谷	マーチの試験。テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲の楽曲分析と演奏法の学習。	試験に向け技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	演奏表現の学習 1 横溝・深谷	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
12	演奏表現の学習 2 横溝・深谷	試験曲の学習。演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
13	演奏表現の学習 3 横溝・深谷	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身につけ表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
14	演奏表現の学習 4 横溝・深谷	試験曲の学習。楽曲を理解し演奏に必要な技術を確実に身につけ自発的な表現に結びつける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
15	演奏表現の学習とまとめ 横溝・深谷	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	60
16	アンサンブルの学習 1 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブル曲に取り組む。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
17	アンサンブルの学習 2 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブルにより人と呼吸を合わせることに慣れる。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
18	アンサンブルの学習 3 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。アンサンブルによる音楽の楽しさを体感する。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
19	アンサンブルの学習 4 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。グループ毎にディスカッションしながら表現力を高め、音楽の楽しさを体感する。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
20	アンサンブルの学習とまとめ 横溝・深谷	アンサンブル曲の演奏発表を行う。演奏についてディスカッションを行う。	アンサンブルでの演奏発表に向けて合わせも含め仕上げの練習を行う。授業後は次の課題の譜読みをする。	60
21	演奏技術の学習 1 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
22	演奏技術の学習 2 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	60
23	演奏技術の学習 3 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
24	演奏技術の学習 4 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。「生活のうた」の学習。試験曲の選定。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。「生活のうた」の弾き歌いテストに向けての準備。	60
25	演奏表現の学習 1 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正確に譜読みする。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
26	演奏表現の学習 2 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲を正確に譜読みする。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
27	演奏表現の学習 3 横溝・深谷	テキストを用いて基礎的な演奏技術の習得を図る。音楽理論も理解しながら正確な読譜力を身につける。試験曲への理解を深め、表現について考える。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
28	演奏表現の学習 4 横溝・深谷	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	演奏表現の学習5 横溝・深谷	試験曲の確実な技術の習得と自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
30	演奏表現の学習とまとめ 横溝・深谷	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	60

科目名	保育表現技術 器楽Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	深谷 悠里絵,小澤 啓子,鈴木 明美,本橋 美恵子,佐久間 智子,横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	【ピアノ表現技術】☑ Ⅲ期は、幼児曲の弾き歌いを中心に学習する。子どもたちを意識した演奏ができるようになることをねらいとし、保育の方法と技術力を身につける。Ⅳ期では、教育実習・保育実習をすべて終えたことを踏まえ、これまで学んだことを基盤に置き、演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応じてピアノであそぶことが出来る表現力、即興力、応用力の伸長を図る。☑ ML授業については、アンサンブルにおいてパートナーとディスカッションを重ねながら取り組み、更なる表現力の向上やコミュニケーション能力の伸長を図り、保育現場での実践力を養う。各期の試験後に時間を設け、コメントによるフィードバックを行います。☑ 【ハンドベル表現技術】☑ Ⅰ・Ⅱ期でハンドベルを選択した学生は、更にベルの演奏技術やアンサンブル力を深める。また地域ボランティア活動等に出向き本学幼児教育学生として、地域交流を図る。演奏発表後にコメントによるフィードバックを行います。 位置づけ・水準 CE2234			
達成目標	個人レッスン☑ ①幼児曲を最低15曲仕上げる。☑ ②幼児曲の弾き歌いに於いて、歌を生かす伴奏ができる。☑ ③幼児曲の弾き歌いにおいて曲想をイメージして歌うことができる。☑ ML授業☑ ①他の人のテンポやリズム感に共感し、協力して演奏できる。 ☑ ②ハーモニーの美しさやアンサンブルの楽しさを感じることができる。 ③表情豊かな演奏ができる。☑ ハンドベル☑ ①11人でテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できる。☑ ②メロディーと伴奏のバランスハーモニーの美しさを感じられる。☑ ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できる。 単位認定の最低基準：個人レッスンの①は必須条件である。その他の項目は内容の7割を理解し、授業や演奏発表において確認できること。 ☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の内容の理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」			
受講資格	幼児教育学科 2年生	成績評価 方法	個人レッスン：毎授業でのレッスン成果（態度、課題に対する取り組み姿勢・意欲、進捗等）40点☑ 、ML：平常点（意欲・態度等）40点☑ 定期試験：20点	
教科書	吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編集者☑ 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』ドレミ楽譜出版社 ☑ 津布楽 杏里・桑原 章寧 共著☑ 『保育・教育の現場で使える！ 弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社☑ 全国大学音楽教育学会 編著☑ 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌―唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社☑ の中から選択			
参考書	個人に合わせて適宜使用する			
学生への要望	○毎時間休まないでレッスンを受けること。☑ ○毎日最低30分は練習し、自己の課題に取り組むこと。 ○爪をカットし、マニキュアはつけないこと。髪の毛が前に下がらないようにまとめてくること。			
オフィスタイム	月曜日・金曜日 12:00~12:50 場所：83年館4F コピー室兼非常勤控室 深谷：水曜日Ⅳ限・金曜日Ⅲ限 場所：芸術館3F No.1幼児教育学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・担当教員を決定する。 ・授業形態は、1年次同様Ⅰコマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・授業内容については、添付資料(参考曲)を参照する。行事のうた(8曲) 季節のうた(13曲) その他(24曲) ・春休みの課題の確認を行う。	春休みの課題確認の結果を振り返り、弾けなかった部分を再度練習する。	30

-授業内容とスケジュール-

[illegible]

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑬深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	確認テストに向け練習に取り組む。	30
15	Ⅲ期のまとめ、及び確認 深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	15回のレッスンで挑戦した幼児曲を振り返り、確認テストの準備をする。	確認テストに向け練習に取り組む。	30
16	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑭深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
17	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑮深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
18	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑯深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋渡	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
19	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑰深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
20	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑱深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
21	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑲深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
22	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験⑳深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
23	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験㉑深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
24	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験㉒深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30
25	幼児曲の弾き歌いのレパトリーを増やす MLによるアンサンブル体験㉓深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。☒ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☒ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパトリーを増やす。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル体験②深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。☑ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
27	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル体験②深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。☑ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
28	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル体験②深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。☑ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	自分の進度に合わせて課題曲(幼児曲)のレパートリーを増やす。	30
29	幼児曲の弾き歌いのレパートリーを増やす MLによるアンサンブル体験②深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。☑ ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。☑ ・MLレッスン→アンサンブル体験をする。	確認テストに向け練習に取り組む。	30
30	IV期のまとめ、及び確認 深谷・渡辺・小澤・鈴木・加藤・佐久間・本橋	15回のレッスンで挑戦した幼児曲を振り返り、確認テストの準備をする。	確認テストに向け練習に取り組む。	30

科目名	保育表現技術 造形Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	草野 葉子		
開講期	通年		
授業概要	子どもの感性とイメージの世界を豊かにし創造力を養うには、環境のひとつである保育者のかかわりが重要となる。それは保育者の価値観や感性、想像力や創造力、体験の幅により左右される。豊かな保育環境を構成できる保育者について造形活動の視点からとらえ、その資質の向上を図る。☒ 基本となる造形素材・描画材を取り上げ、その特徴や魅力と活用方法について自らの表現体験を通して学び、感性を豊かにすると共に表現力を養う。自然を含む身近な環境や生活の場に造形素材を求め体験の幅を拡大する。また、子どもの作品鑑賞や活動事例から発達過程を学び、造形の視点から子ども理解を深め、加えて体験活動を保育に展開する方法も考える。☒ 課題に対するフィードバック 1. 各課題終了時に提出する活動記録について、コメント等を記載しフィードバックを行います。 2. 作品発表会においては、講評の形でフィードバックを行います。 保位置づけ・水準：CE2135		
達成目標	①造形や描画素材が身近に存在することに気づき、素材の特徴や魅力を知り活用できる。☒ ②さまざまな素材を応用発展させて、自分の考えや思いを表現できる。☒ ③グループ活動を通して、相互の意見交換を通して学びを高めあうことができる。☒ ④描画や造形活動の視点から、幼児期の特徴と発達過程について理解できる。 単位認定の最低基準：上記4項目の内容について6割以上を満たしていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力・保育の方法と技術力・表現力とコミュニケーション能力		
受講資格	幼児教育学科の学生（主として1年生）	成績評価 方法	課題取組結果である作品・活動記録と活動状況にて評価する。 配点は作品50点、記録30点、活動状況（平常点）20点。
教科書	教科書は使用せず、課題に応じた印刷物等の資料により行う。		
参考書	課題により授業時に指示する。		
学生への要望	◎活動に必要な道具・材料（事前連絡）を忘れず持参し授業に臨む。☒ ◎失敗を恐れず実験的な取り組みを積極的に行う。☒ ◎作品・活動記録の提出期限を厳守。		
オフィスタイム	火曜～木曜 15：00～17：00 83年館2階823研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス・イメージと色	1. 「保育表現技術造形Ⅰ」のねらいと年間計画及び準備物について説明。 2. イメージの表現。 ①イメージと色の関係について表現を通して考える。 ②見えないものを表現する体験をする。 ③感情を色で表現する体験を通し、自己と対話する。	色と心の関係をテーマとした資料や本を探し目を通す。	60
2	描画コミュニケーション	描画による他者との対話を通し、相互に感受性を刺激し合う。 ①ペアドローイングまたはスキグルを体験する。 ②相手の心持や息遣いを感じとり表現する。 ③感受性や想像力を刺激し豊かにする。	描画による対話体験が、保育や子どもとの関わりにどのように発展できるかについて考えたことをまとめる。	30
3	自然を凝視める	造形と子どもについて自然との関係から考える。 1. 自然の造形美を味わう。 ①身近な植物を観察し、その造形美に触れる。 ②観察する目を養う。 2. 自然環境と子どもについて考える。 子どもの記録を紹介し、自然環境との関係から子どもの育ちについて考える。	学内や自宅周辺など身近な環境に目を向け、草花や樹木等を観察する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	布による表現Ⅰ	テーマ：布と環境 自在に変化する布の特徴をいかした表現体験。 ①自在に変化する布の特徴を知る。 ②光・空気等環境の影響により表情が変化する布の魅力を知る。 ③身体に布を巻きつけた表現を行う。 ④「③」の取り組みを相互に発表し、布の多様性を学ぶ。	次回使用する紐類の選定と準備。作品の構想や環境活用についてグループで話し合う。	30
5	布による表現Ⅱ	テーマ：布と紐と環境（5～6名のグループ活動） 「布による表現Ⅰ」の体験を基に、紐を加えた表現体験。 ①紐が加わり表現方法の幅が拡大することを知る。 ②活動場所にある物を積極的に取り入れ、環境をいかした表現に取り組む。 ③「見立て」による表現や遊びを創造する。 ④作品を発表し相互に学びを共有する。	布や環境を活用した表現や遊びについて、その発展的展開や保育への応用について考えたことをまとめる。	30
6	布による表現Ⅲ	活動記録のまとめ(5～6名のグループ活動) 「布による表現Ⅰ・Ⅱ」の活動を写真と記録にまとめる。 ①作品写真によりグループで活動を振り返り、布の特徴や表現素材としての収穫を記録する。 ②実際の保育への展開について考えたことをグループで話し合い、情報を共有する。	子どもの具体的な行動をイメージした保育展開を考える。次の課題「身近な素材による表現」に使用する雑誌や新聞等の印刷物と用具の準備をする。	30
7	身近な素材による表現Ⅰーその1	平面表現《コラージュ①》 雑誌や新聞等の写真や文字等を切り抜き貼りあわせて平面を構成する。 ①写真等素材の持つ表情の豊かさを味わい楽しむ。 ②切り抜きの再構成により新たな世界を創り出す。 ③見立て表現の体験を通し、物を見る目や発想力を刺激する。	完成したコラージュ作品を見て、各自が感じたことを記録しておく。	30
8	身近な素材による表現Ⅰーその2	平面表現《コラージュ②》 つながるコラージュ表現から物語への展開を考える。 ①一本の線からイメージした世界をコラージュで表現する。 ②他者のコラージュ作品と線でつなぎ合わせて、物語を考える。。	物語作りの体験をもとに、紙芝居や絵本等の教材作りへの展開を考える。次回の立体表現に使用する素材と用具の準備をする。	30
9	身近な素材による表現Ⅱーその1	立体表現：身辺素材を使用して立体造形を行う（5～6名のグループ活動）☑ ①素材を観察し、その特徴や性質を知る。☑ ②加工方法について研究する。☑ ③作品の構想を練る。	実験体験を踏まえて作品構想をグループで話し合い、素材や用具の追加を行う。	30
10	身近な素材による表現Ⅱーその2	立体表現：身辺素材を使用して立体造形を行う（5～6名のグループ活動）☑ ①作品構想を基に具体化する。☑ ②素材の特徴をいかし、他の素材と組み合わせでより豊かな作品にする。☑ ☑	作品未完成の場合は、完成させるための活動計画と実践。次回作品発表のグループ打合せを行う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	身近な素材による表現Ⅲ	作品発表会：コラージュ紙芝居と立体作品の発表会 (5～6名のグループ活動) ①作品発表により、情報の整理と伝達方法について学ぶ。 ②他者の取り組みから素材の活用方法や表現の多様性について学ぶ。 ③活動過程を振り返りまとめとしての活動記録を提出する。	紙芝居作りや立体表現体験をもとに保育への発展について考えたことをまとめる。次の課題「色材による表現」に使用するクレパスやスケッチブックを準備する。	30
12	色材による表現Ⅰ	テーマ：色材の基礎知識とクレパスの特性をいかした表現体験 色材の組成を土台に、クレパスの特徴及び魅力を知り、加えて身近な素材が道具として活用できることを学ぶ。 ①組成から色材の特性を知る。 ②カラーカーボン・スクラッチ・ステンシルを体験し、技法の相違によるクレパスの表情の変化を味わう。 ③生活用品が表現道具として使用できることを知る。	身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次回使用する水彩用具一式とスタンピングに使用する野菜を準備をする。	30
13	色材による表現Ⅱ	テーマ：水彩の特性をいかした表現体験 水溶性色材の特性を学ぶ。 ①にじみ・ひたし染め・スタンピング等の技法体験を通し水彩の特徴と表情の豊かさを知る。 ②自然混色による偶発的な色や形の面白さを味わう。 ③野菜や生活用品等、身近な素材が表現道具として使用できることを知る。	カード郵送者の住所等情報を収集する。また作品制作に必要な材料や用具を準備する。	30
14	色材による表現Ⅲ	テーマ：カード作り 体験した技法を使用してカードを作る。 ①クレパス・水彩の表現体験をもとに、はがきサイズのカードを作る。 ②表現実験をコラージュする表現を組み入れる。	次回の作品作りに必要なクレパス・水彩のほかに使用したい素材を準備する。	30
15	色材による表現Ⅳ	テーマ：まとめの作品づくり クレパス・水彩による表現体験Ⅰ～Ⅱを基に作品にまとめる。 ①表現体験したものを素材として使用する、コラージュも取り入れる。 ②各技法の異なる表情からイメージを拡大し、見立てや抽象的な表現として自分の考えや思いを平面に表現する。	身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次の課題「ペーパークラフト」に使用するスケッチブック・カッター・接着剤等の準備をする。	30
16	ペーパークラフトⅠ	紙について、その性質や加工方法を学ぶ。☑ 1、紙の性質☑ ①紙の繊維の方向について知る。☑ ②繊維の方向と加工の関係について学ぶ。☑ 2、加工方法の基礎（その1）☑ ①「切る・折る」の加工による立体表現の基礎を体験する。☑ ②曲線折りによる曲面や陰影の美しさを味わう。	身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次回使用する用具を確認し準備する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	ペーパークラフトⅡ	1. 加工方法の基礎（その2）☑ ①「丸める」加工と繊維の方向の関係について学ぶ。☑ ②「伸びる」性質を踏まえ「伸ばす」加工によるレリーフ表現を体験する。☑ 2. 応用表現（その1）☑ ①「斜め折り」による「動く」ペーパークラフトの原理を学ぶ。☑ ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。	身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。また仕掛け絵本などにも目を通す。次回使用する用具を確認し準備する。	60
18	ペーパークラフトⅢ	応用表現（その2）☑ ①「切る・折る」の応用として立体表現「飛び出し」の原理を学ぶ。☑ ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。	次回使用する用具を確認し準備する。仕掛けのある絵本やカードなどに目を通し作品構想を練る。	60
19	ペーパークラフトⅣ-①	ペーパークラフトのまとめとしての作品づくり（その1） 加工方法の基礎や応用表現を基に作品をつくる。 ①応用表現の「斜め折り」「平行折り」を使用し、グリーティングカードを作る。 ②作品構想に基づき実験を行う。	作品に使用する紙など、構想に基づいた素材を探し準備する。作品に関連する資料についても継続して収集する。	30
20	ペーパークラフトⅣ-②	ペーパークラフトのまとめとしての作品づくり（その2） 実験結果をまとめ作品を完成させる。 ①構想にあった紙を選択する。 ②表紙をつけ、カードとして仕上げる。	回次の発表までに作品を完成させる。	60
21	ペーパークラフトⅤ-作品鑑賞会	完成させた作品を相互に鑑賞する。 ①他者の取り組みから加工の応用発展や素材の活用について吸収し学びあう。 ②活動過程と鑑賞結果を記録し、活動の振り返りとまとめを行う。	書店等を訪ね仕掛け表現を活用したものに目を向け視野を拡大する。次の課題「光と影による表現」に使用するカッター・はさみ・接着剤等を準備する。	30
22	光と影による表現Ⅰ	光と色の関係について、切り紙や折り紙を通して学ぶ。☑ ①日本の伝統切り紙と外国の折り紙を体験し、光との関係から色が変化することを知る。☑ ②重なりによる色や形の変化を味わう。☑ ③色影の魅力を味わう。	身近な生活の中に体験した技法に関連したものがあるか観察する。次回使用する光にかざすことのできる素材を準備する。	30
23	光と影による表現Ⅱ	光と物体との関係からできる影の表現実験。 （3～4名のグループ活動） ①異なる材質の紙を光にかざし表情の違いを観察する。 ②重なりにより変化する影や色の濃淡の違いを観察する。	表現体験をもとに作品構想についてグループで話し合う。必要な素材を準備する。	40
24	光と影による表現Ⅲ	光と物体との関係からできる光と影の魅力を味わう。 （3～4名のグループ活動） ①各種素材を光にかざし表情の変化を観察する。 ②光の遮断・透過・反射等により異なる表情を観察する。 ③さまざまな物で光と影による表現実験を行う。	表現体験をもとに作品構想をまとめ、更に必要な素材を準備する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
25	光と影による表現Ⅳ	光と影による作品づくり。(3～4名のグループ活動) ①さまざまな物を組み合わせて光と影による見立て表現を行う。 ②表現実験をもとに影絵として作品にまとめる。	光と影の表現体験をもとに、どのように保育へ発展させることができるか考えたことをまとめる。	30
26	素材体験Ⅰー小麦粉を素材とした表現体験	小麦粉粘土ー粘土の特徴と魅力☑ ①小麦粉粘土の作り方を学ぶ。☑ ②小麦粉粘土の特徴を知る。☑ ③粘土遊びを通して感触や立体造形の魅力を味わう。	小麦粉粘土の体験をもとに、子どものさまざまな反応を予測した上で、保育への生かし方について考えたことをまとめる。	30
27	素材体験Ⅱーお菓子を素材とした表現体験	お菓子による造形表現 ①色・形・模様等お菓子の表情の豊かさを楽しむ。 ②お菓子の特徴をいかした立体造形の魅力を味わう。 ③保育の場における行事や親子活動への発展的展開を考える。	お菓子による造形表現体験をもとに、保育行事等への展開方法について具体的に考えたことをまとめる。	30
28	描画・造形活動からみた子どもⅠ	描画及び造形活動の視点から幼児期を理解する。☑ ①子どもの描画及び造形活動を年齢別に概観し発達過程について学ぶ。☑ ②実例をもとに各時期の特徴について学ぶ。	授業内容を踏まえて、1月の教育実習Ⅲ、2月の保育実習Ⅰー1における、子どもの発達過程に関する観察視点についてポイントをまとめる。	30
29	描画・造形活動からみた子どもⅡ	描画及び造形活動に表現された子どもの内面について考える。☑ ①描画や造形作品に表出された子どもの内面をさぐる。☑ ②造形活動における保育者の役割と子どもの行動の関係について考える。	授業内容を踏まえて、1月の教育実習Ⅲ、2月の保育実習Ⅰー1における、子どもの内面と表現、保育者の関わりとの関係についての観察視点のポイントをまとめる。	30
30	まとめ	保育環境と造形。☑ ①保育環境とは何かについて造形の視点から考える。☑ ②保育環境を創りだす者に求められる資質について考える。	授業内容を踏まえて、1月の教育実習Ⅲ、2月の保育実習Ⅰー1における、保育環境に関する観察視点についてポイントをまとめる。	30

科目名	保育表現技術 造形Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員	早川 仁			
開講期	Ⅲ			
授業概要	保育に関する環境構成や、適した造形素材・用具知識・技法等を幼児発達過程の理解と共に学び、自己研 究を積み重ね、造形活動の側面から保育実践力を身につける。☒ ・課題作品については添削返却時に簡略なコメントを記す。☒ ・研究発表に対しては随時内容に対するフィードバックを全体、または個々に対して行う。☒ 位置づけ・水準CE2236			
達成目標	1 保育における造形活動に適した環境構成・造形素材・用具などの知識、基礎技法を修得する。☒ ディプロマポリシーとの関係；保育の内容理解と総合的計画力。☒ 2 描画基礎を身に付けると共に他者の作品の良さに気づくこと。☒ ディプロマポリシーとの関係；表現力とコミュニケーション能力・豊かな人間性。☒ 3 幼児の発達過程を造形表現の側面から理解できるようにする。☒ ディプロマポリシーとの関係；保育の内容理解。☒ ・単位認定の最低基準；☒ 規定授業数の3分の2以上出席していること。☒ 課題作品（自学自習課題含む）3分の2以上提出していること。			
受講資格	保育表現技術造形Ⅰを取得していることが望ましい。	成績評価 方法	・授業課題作品 60点☒ ・平常点 10点☒ ・自学自習課題 30点	
教科書	特になし。			
参考書	著－V・ローエンフェルド 訳－竹内清 ☒ 「美術による人間形成」☒ 1989年 黎明書房 ☒ （特に用意しなくとも良いが一読しておく事を薦める）。			
学生への要望	毎回、運動着着用で授業に臨むこと。☒ 毎回、授業終了時に清掃を行うこと。☒ 課題作品提出締切日を厳守すること。			
オフィスタイム	月曜日・水曜日・金曜日の5時限目 826研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業オリエンテーション・校内スケッチ	1 授業オリエンテーション 配布物と内容説明（授業の約束・授業日程表）☒ ・授業目的・授業計画内容・受講上の約束事等の説明を理解する。☒ 2 スケッチ課題「わたしが気になる場所」☒ ・校内で「自分にとっての春」を探索してスケッチ記録する。☒ ・それがなぜ自分にとっての春なのか、個々の生活体験に基づいた情感や美意識でスケッチする。☒ 描画素材－水彩・色鉛筆・クレヨンなど（鉛筆・ペンなどの単色も可）☒ ☒	次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる	90
2	壁面構成①	壁面構成とは何かを学ぶ。☒ ・幼児が、「自然の変化や身の回りを美しく飾ることについて興味関心を持ち、豊かな心情や思考力を培う」。又、「行事・伝統習慣に馴染み理解する」。ことが出来るようにしていくための方法であることを理解する。☒ A 自然・B 行事・C 造形装飾、3つのテーマから各自1つ選択し、壁面構成する ☒ 選択テーマの研究（行事の謂われ、季節の動植物、デザイン構成など）～アイディアスケッチ作成～提出（中間指導）。☒	次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。☒ いろいろな壁面構成の作品を調べる。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	壁面構成②	・用紙、素材、制作道具を各自準備し、表現の狙い・画面構図・配色等を検討して、作品制作。～ 完成～提出。☑ ・鑑賞会 学内に作品を掲示。これを互いに鑑賞し、表現を学び合う。＊素材は各自購入 ＊サイズ指定＝全版二分の一 ☑ ・ベース素材＝厚手の紙であれば自由（模造紙は薄いので不可・ボール紙は可） ☑ ・装飾素材＝自由（保育現場で使用する身近なものがより望ましい） ☑ ・立体平面どちらも可 ・個人制作とする ・優秀作品は83年館1階掲示☑	次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。☑ いろいろな壁面構成の作品を調べる。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる	90
4	実習準備研究① 案の実例から学ぶ	計画 ＊計画案プリント・計画案作成ポイント資料配布☑ 1 計画案の実例から学ぶ（先輩の実習指導案・報告書 資料から）☑ ・発達段階・現場環境・活動時間・衛生・安全などを考慮した計画が立てられるよう、指導案作成のポイントを理解する。☑ 2 各自実習で実践してみたい造形活動内容を造形工作資料などを用いて決定し素材・手順など教材研究する。☑ ＊次回までに必要な素材の購入・用具準備の計画を立てる。☑	次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。☑ 教育実習で取り入れたい造形活動を検討しておく。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる	90
5	実習準備研究②	1 実際の制作を通して教材研究する。☑ 2 教材研究と並行しながら計画案を作成する。（次回までに仕上げる）☑ 3 模擬授業発表ルーピング（1G6名程度）～担当配役決定（実習生1名・園児その他全員）＊対象年齢・環境構成・実施時間など明確にしておく。☑ 次回までにグループ検討会で使用する材料を実習生役の学生を中心にグループで準備。☑	次回授業のシラバス・シラバイを確認し、授業目的及び使用する材料・道具を準備する。☑ 教育実習で取り入れたい造形活動の教材研究と並行しながら計画案を作成する。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる	90
6	実習準備研究③	模擬授業グループ内検討会～発表練習☑ ・グループ内で、実習生役学生の計画案に基づき模擬授業を行う。☑ より良い実習が充実できるように授業内容について適切であるか等、検討し合う。（幼児役も含めて一指定年齢の幼児ならどんな行動をすることも検討してみる） ☑ ・次回の発表練習 ☑	教材研究と並行しながら計画案を作成する。☑ 模擬授業発表の材料を準備する宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる	90
7	実習準備研究④	各グループ模擬授業発表☑ 発表を通して、他の教材展開の仕方、活動のポイントや発展展開の可能性・安全面・幼児の発達興味関心との整合性、時間配分など学び合う☑ ☑	宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる	90
8	実習準備研究⑤ 行事ポスター制作①	1、実習で実践した（造形活動）実施報告書記載☑ 2、授業研究用アンケート。 ☑ 3、保育現場での行事に関わる制作活動の一環としてポスターを描く。ポスターとは何か 表現の目的を参考作品を鑑賞しながら探る。☑ 内容日程・参考作品鑑賞・文字情報・技法について～下絵制作。サイズ＝F－6 ☑	実践報告書をまとめる。宿題作品（折り紙構成及びキャラクターデザイン画）を各1枚仕上げる	90

科目名	保育表現技術 体育Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 必修
担当教員	柴田 卓		
開講期	通年		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕☑ ①幼児体育・運動遊びを実践し、その意義を理解する。☑ ②実践を通して計画方法・指導方法・評価方法を理解する。☑ ③授業の振り返りを通して、指導のポイントや安全面についての理解を深め、実践的なスキルを習得する。☑ 〔授業全体の概要〕☑ 実技や講義を通して、さまざまな視点から運動の面白さを探究し、子どもが意欲的かつ主体的に取り組む運動遊びの内容や指導方法を習得する。また、対象年齢に応じた運動遊び指導のポイント、安全面や環境設定等を実践的に学習するためにロールプレイやケーススタディを多く実施する。また、ポートフォリオを活用した振り返りによって、専門性や実践力を高める。ポートフォリオの各提出後と実技発表後にフィードバックを行う。位置づけ・水準CE2137☑ ☑ 単位認定の最低基準は、到達目標に対してその内容を7割以上習得していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関連：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション力		
達成目標	①幼児期の運動・健康について理解する。☑ ②幼児体育の指導計画・指導方法・評価方法を理解する。☑ ③幼体体育・運動遊びを子どもと保育者の目線で実践し、その意味と価値を理解する。		
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価 方法	ポートフォリオ（ノート）70点☑ 実技20点 課題・レポート10点
教科書	柴田卓 石森真由子編,楽しく学ぶ運動遊びのすすめ－ポートフォリオを活用した保育実践力の探求－,みらい,2017		
参考書	幼児期運動指針策定委員会,幼児期運動指針ガイドブック,文部科学省,2013		
学生への要望	テキスト、筆記用具を持参すること☑ 運動着であること アクセサリーを身に着けないこと☑ 気温によってタオル、水分補給、着替えを準備すること		
オフィスタイム	木曜日の13時～16時、金曜日の13時～16時 場所：83年館824研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション（体育館）	授業の目的と概要・評価方法・準備物を確認する。	ルーブリックを活用し、現状の知識・スキルについて、自己診断を行う。	45
2	アイスブレイクと準備体操	遊びを通してより良い関係性を築く手法を理解する。☑ 幼児期における準備体操の意義と手法を理解する。☑	アイスブレイクについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
3	道具を使わない遊びⅠ	鬼遊びの導入・展開・発展方法を理解する。☑ （じゃんけんゲームや伝承遊びなど）☑	鬼遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
4	道具を使わない遊びⅡ	ルール・課題の設定、説明の仕方などを理解する。また、グループ作りの方法やその活動におけるポイントを理解する。（協力・コミュニケーションスキルなど）	鬼遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
5	道具を使った遊びⅠ	ボールを使ったチャレンジ遊びを理解する。☑	ボール遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
6	道具を使った遊びⅡ	フラフープ・コーンを使った遊びの導入・展開方法を理解する☑	フラフープやコーン遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
7	グループ演習①（集団遊びの制作）	グループでオリジナルの集団遊びを作成する。（グループワーク）	グループワークについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
8	グループ演習②（集団遊びの発表）	作成した遊びを発表・実践し評価する。（ロールプレイ）☑ 第1回ノート提出	グループで発表した内容について、振り返り、ポートフォリオにまとめる。	45
9	ドッジボールの導入方法	一斉指導における説明の方法とドッジボールにおける導入について学習する。	ドッジボールについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
10	ドッジボールの展開・評価方法	ドッジボールの展開方法および勝敗の扱い方を学習する。	ドッジボールについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	グループ演習③（リズムダンス）	子ども向けの音楽を選択し、振り付けを考える。	リズムダンスについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
12	グループ演習④(リズムダンス)	リズムダンスの作成を通して、子どもが楽しめる動作と指導言語を理解する。☒ ☒	リズムダンスについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
13	グループ演習⑤(リズムダンス)	リズムダンスの発表（ロールプレイ）	グループで発表した内容について、振り返り、ポートフォリオにまとめる。	45
14	親子体操	親子体操の種目と展開方法について理解する。	親子体操について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
15	講義（教室）	自分たちの発表したリズムダンスの映像を見ながら、お互いに評価を行う。	リズムダンスの発表映像から、各自の課題と後期の目標を設定する。	45
16	縄跳び	短・長縄跳びを使った遊びを理解する。（単・長縄跳びの導入・展開）	縄跳びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
17	外遊び	外でダイナミックに遊ぶ方法と留意点を理解する。	外遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
18	跳箱Ⅰ	跳箱を使った遊びを理解する。（跳箱を使った遊びの導入・展開）	跳び箱について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
19	跳箱Ⅱ	跳箱の技術と指導のポイントを理解する。（跳箱の指導法と留意点）	跳び箱について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
20	マットⅠ	マットを使った遊びを理解する。（マットを使った遊びの導入・展開）	マットについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
21	マットⅡ	マット運動の技術と指導のポイントを理解する。（前転・後転・側転の指導法）	マットについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
22	グループ演習⑥（リスクマネジメント）	マット・跳箱・トランポリンの指導を通して、運動遊びにおけるリスクマネジメントと安全教育について理解する。 第3回ノート提出☒	安全管理について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
23	運動会種目Ⅰ	徒競走・リレー・障害物競争の導入・展開方法について理解する。	運動会種目について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
24	運動会種目Ⅱ	年中児の発表種目について理解する。（バルーン演技等）	バルーンについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
25	運動会種目Ⅲ	年長児の発表種目について理解する。（組体操の演技等）	組み立て体操について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
26	伝承遊び	はないちもんめなど伝承遊びや歌遊びを理解する。	伝承遊びについて、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
27	グループ演習⑦(模擬保育)	実習で実施できる運動遊び(場所・道具・ルール)を考え、指導案を作成する。	指導計画作成について、学習した内容や疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
28	グループ演習⑧(模擬保育)	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。	発表した内容について、疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
29	グループ演習⑨(模擬保育)	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。	発表した内容について、疑問に思う点、学習内容を深める予備情報をポートフォリオにまとめる。	45
30	まとめ	保育における運動遊びの意義について、1年間を振り返りながらレポートを作成する。第4回ノート提出	テキストのループリックを活用し、1年間の成長を自己診断する。	45

科目名	保育表現技術 体育Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員	一柳 智子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	自分自身と幼児の身体を理解し把握することにより、身体表現能力を高め、子どもの身体表現を豊かにするための質の高い保育実践を目指し、保育現場に役立てることを目的とする。☒ 子どもの身体表現を豊かにするための指導力向上のため、子どもの年齢別運動特性を知り、無理のない自由な表現能力の開発を行う。さらに、グループで楽しくダンスを楽しみ、幼児のための小品を創作することができるようにする。☒ 最終授業で創作作品発表をし、全体のフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準CE2238☒ 音楽・映像を使用する際著作権を侵害しないようにする。			
達成目標	① 子どもの運動特性を知ることができたか。 ☒ ② 身体表現を豊かにすることができたか。☒ ③ 種々のダンスを楽しく協力して創作することができたか。 ☒ 単位認定の基準は：内容の7割を理解していること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：技術力、表現とコミュニケーション能力			
受講資格	幼児教育学科2年AB	成績評価 方法	試験30点、提出物40点、平常点30点	
教科書	特になし			
参考書	遠藤保子等『舞踊学の現在』（文理閣、2011）☒ 松本千代栄『松本千代栄撰集 2 人間発達と表現－幼・小期』（明治図書、2008）			
学生への要望	こどもたちの身体を理解するためには、自分の身体認識がされていなければなりません。☒ 自分の長所のすべてを他に表現し理解を得られるように、内面の表出を心がけましょう。ひいては、自己啓発にもつながり、幼児の表現能力を引き出せるノウハウを身に着けることにもつながります。			
オフィスタイム	木曜日 Ⅲ限目（12：50～14：20）☒ Ⅳ限目（14：30～16：00） ☒ 825研究室（一柳）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業の展開内容の説明☒ ・授業の目的：本授業は選択授業であることを認識すること。ダンスおよび舞台パフォーマンスに特に関心の強いかたのニーズを満足させるための授業を目的とする。☒ ・授業の準備、窓の開閉、掃除係の分担決め☒ ・授業の準備として、体育館中央のネットをひく。☒ ・服装等：ジャージ上下またはダンス用のウェアを着てもよい。靴は運動用シューズまたはダンスシューズ。☒ ・授業前半ではヨガマットを使用してストレッチを行う。ヨガマットの上に敷く大判のバスタオルを毎回持参すること。	ストレッチ	20
2	身体表現の基礎	前半：アップ（ウォーキング、ジョギング、スキップ、ギャロップ、ケンケンパ等）。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部位を意識して行くとより効果的です。☒ 後半：姿勢と立ち姿の確認。座った姿勢、立った姿勢。☒ 自分の体のゆがみを確認します。☒ 動きの種類：歩行：日常的歩行、スポーツ的歩行、舞台的歩行。☒ バレエ的身体表現 ボードブラ（上肢の滑らかな舞踊動作の練習） ☒	ストレッチ	20

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
3	子どもの運動特性について－ 1：「はとぼっぱ体操」から	前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など間接の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行くと、より効果的です。☑ 後半：幼児体操の古典である「はとぼっぱ体操」を習得する。	ストレッチ	20
4	子どもの運動特性について－ 2：「はとぼっぱ体操」から	前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など間接の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行くと、より効果的です。☑ 後半：「はとぼっぱ体操」を習得し、各部分を分析し、子どもの運動可能領域と特性を考えよう。☑ 「きりんさん」（郡山市、K S M，郡山女子大学短期大学部産官学共同作品）	ストレッチ	20
5	幼児用ダンス作品の創作-1	前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など間接の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行くと、より効果的です。☑ 後半：舞踊小作品の創作-1 幼児ダンスあるいは創作ダンスの小品を創る。3～5人のグループになり、音楽、振り付け等に関して、グループワークで創作する。グループ全員の意見が反映できるように共同作業を行う。ミュージカル作品を参考にしたり、舞踊音源のからの音取りでもよい。今回は最初の1分ほど創作。	ストレッチ	20
6	幼児用ダンス作品の創作-2	前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など間接の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行くと、より効果的です。☑ 後半：舞踊小作品の創作-2 幼児ダンスあるいは創作ダンスの小品を創る。ミュージカル作品を参考にしたり、舞踊音源のからの音取りでもよい。さらに1分ほど創作。	ストレッチ	20
7	幼児用ダンス作品の創作-3	前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など間接の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行くと、より効果的です。☑ 後半：舞踊小作品の創作-3 幼児ダンスあるいは創作ダンスの小品を創る。ミュージカル作品を参考にしたり、舞踊音源のからの音取りでもよい。さらに1分ほど創作。	ストレッチ	20
8	幼児用ダンス作品の発表会	前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など間接の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行くと、より効果的です。☑ 後半：舞踊小品の発表会。自己の作品を発表するとともに、他グループの作品を鑑賞する。鑑賞ポイントを押さえながら、鑑賞し、自己の作品と比較考察する。身体表現の豊かさの構築に役立てる。☑	ストレッチ	20

科目名	乳児保育Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	永瀬 悦子		
開講期	Ⅰ		
授業概要	乳児、すなわち3歳未満の子どもは、人間形成の基盤を培う時期である。生命の保持および安全・安楽の確保に努めながら発育発達の支援について学修する。子どもの基本的な生活習慣や基本的な生活習慣を獲得するための必要な乳児保育の役割を乳児の成長・発達の応じた保育について学修する。※ここの「乳児保育」とは、3歳未満児を示す。 【課題に対するフィードバック方法】最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 【授業の目的】☑ 乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解できるようになる。【位置づけ・水準】CE2139		
達成目標	1)乳児保育の保育内容を理解し、乳児保育を総合的に計画・実践について説明できる。2)乳児の発育発達を理解し、必要な乳児保育について論じることができる3)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容を説明できる。4)乳児保育を実践する姿勢として、感性豊かな表現力とコミュニケーションを身につける必要性を感じることができる5)乳児保育を実践する姿勢として幅広い教養と豊かな人間性や規範意識を身につける必要性を感じることができる ディプロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」「問題解決力」を身に付けることを達成目標にする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。		
受講資格	保育士資格取得希望学生	成績評価 方法	筆記試験80点、レポート20点
教科書	咲間まり子編著『コンパス乳児保育』建帛社 2019年 入江慶太編著『乳児保育ー子ども・家庭・保育者が紡ぐ営みー』教育情報出版 2019年 ※資料を随時配布		
参考書	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年☑ 榊原洋一・今井和子編著『乳児保育の実践と子育て支援』ミネルヴァ書房 2015年 伊藤 美保子・西隆太郎著『写真で描く乳児保育の実践』ミネルヴァ書房 2020年		
学生への要望	乳児保育を実践する場合、乳児の発育・発達に合わせた保育内容を理解でき、実践できるように積極的に講義に臨んで下さい。		
オフィスタイム	月曜日 Ⅰ時限（8：50～10：20） 832研究室☑ 木曜日 Ⅰ時限（8：50～10：20） 832研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	乳児保育の意義・目的と役割	1)乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 2)乳児保育の役割と機能 3)乳児保育における養護及び教育 ※乳児期は人格形成の基礎を培う重要な時期であることを理解する。乳児保育の役割と機能について、乳児保育の特徴を踏まえながら、養護と教育の一体性とは何かを学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
2	乳児保育の現状と課題①	1)乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 ※保育をめぐる制度や法改正、子育て世代を取り巻く社会的状況を踏まえながら、乳児保育の重要性や保育所の子育て支援を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
3	乳児保育の現状と課題②	1)保育所における乳児保育 ※保育所の役割や位置づけ、乳児保育の現状を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
4	乳児保育の現状と課題③	1)保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育 2)家庭的保育等における乳児保育 3)3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 ※乳児院を中心に、保育所以外の児童福祉施設の現状と課題について学ぶ。また、乳児院の役割と支援方法の基礎的理解をする。	保育所以外の児童福祉施設の種類と役割を調べる。	120
5	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場①	1)3歳未満児の生活と環境① 2)3歳未満児の遊びと環境① 3)3歳以上児の保育に移行する時期の保育① ※3歳未満児の発育・発達を理解し、生活を環境の視点から捉え、環境を通じた保育について学ぶ。子どもの遊びと環境の視点から保育について学ぶ。	課題レポート ※ テーマは授業中に説明する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場②	1)3歳未満児の生活と環境② 2)3歳未満児の遊びと環境② 3)3歳以上児の保育に移行する時期の保育② ※3歳未満児の発育・発達を理解し、生活を環境の視点から捉え、環境を通した保育について学ぶ。子どもの遊びと環境の視点から保育について学ぶ。	課題レポート ※ テーマは授業中に説明する。	120
7	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場③	1)3歳以上児の保育に移行する時期の保育 ※『保育所保育指針』における1歳以上3歳未満児のねらいと内容及び内容の取扱いでは「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」という5領域につながることを理解する。養護と教育が一体となった3歳以上児の保育について学びを深める。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
8	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場④	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり① ※乳児保育において子どもひとり一人の発達には個人差や月齢差を考慮した保育が重要であることを理解する。3歳未満児の発育・発達を考慮しながら保育を進めることを理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
9	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場⑤	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり② ※乳児保育において子どもひとり一人の発達には個人差や月齢差を考慮した保育が重要であることを理解する。3歳未満児の発育・発達を考慮しながら保育を進めることを理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
10	3歳児未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場⑥	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮 2)乳児保育における計画・記録・評価とその意義 ※心身が未熟な3歳児未満児の心身の機能が未熟であることから、生命の保持と情緒の安定が重要であることを理解する。発達に応じた安心・安全な保育を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
11	3歳未満児の発育・発達と保育①	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育① ※乳児の発育・発達過程を理解し、「健やかにのびのび育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」視点から遊びや食事の保育を学ぶ。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
12	3歳未満児の発育・発達と保育②	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育② ※乳児の発育・発達過程を理解し、排泄の援助方法を理解する。基本的な生活習慣の自立に向けて必要な保育を学ぶ。また、基本的な生活習慣の自立に向けて保育所のみで進めることはできないことを理解し、家庭との連携について考える。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
13	3歳未満児の発育・発達と保育③	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育③ ※乳児の発育・発達の過程を理解し、基本的な生活習慣の自立に向けた衣服の着脱・清潔の保持の援助方法を理解する。子どもの年齢により、自己主張が強くなり自分でやろうとする子どもに対して、子どもの気持ちを尊重し見守り適切な援助をしていく必要性を理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
14	3歳未満児の発育・発達と保育④	1)3歳未満児の発育・発達に応じた保育④ ※乳児の発育・発達の過程を理解し、月齢に応じた抱っこ・おんぶの方法について理解する。乳児の欲求に対して愛情ある応答的にかかわることで乳児は養育者と愛着関係を深めていくことを理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120
15	乳児保育における連携・協働	1)職員間の連携・協働 2)保護者との連携・協働 3)自治体や地域の関係機関等との連携・協働 ※乳児の健康と安全を守るための関係機関の連携について学ぶ。子育て支援や虐待から子どもの命を守るための保育所・保育者の役割について理解する。	テキストの授業内容に係るページを熟読する。	120

科目名	乳児保育Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
担当教員	永瀬 悦子			
開講期	Ⅱ			
授業概要	自尊心や自己統制、忍耐力といった社会情勢のスキルやいわゆる非認知的能力を乳幼児期に身につけることが、大人になってからの生活に大きな差を生じさせる。特に3歳児未満児の保育の重要性への認識が高まっている。乳幼児期の周囲の人・物、自然など様々な環境との関わりで自己という感覚や自我が育つことを学修する。乳児期からの保育の積み重ねは基本的生活習慣の形成、社会性の獲得にも影響することを学修する。それらを踏まえ、演習ではグループ演習等を通して、異なる意見に耳を傾け、問題解決に向けた努力と答えが明確でないことに対し問いに対して、自ら考え続ける態度を身につける姿勢を養う。 【課題に対するフィードバック方法】最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 【授業の目的】☑ 乳児保育の理論や知識・技術内容を基に乳児の発育発達に応じた保育展開を理解する。【位置づけ・水準】CE140			
達成目標	1)保育場面 から必要な保育内容を総合的に計画し実践内容を論じることができる 2) 乳児の発育発達を踏まえ、事例から必要な保育場面での支援内容を説明できる 3)乳児の発育発達に応じた支援内容を論じることができる 4)事例をもとに必要な保育の方法や技術について説明することができる 5)乳児保育を実践する際に必要な幅広い教養とコミュニケーションを身につける必要性を感じることができる 6)幅広い教養と豊かな人間性や規範意識を身につける必要性を感じることができる ディプロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「豊かな人間性と規範意識」「問題解決力」を達成することを目標にする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。			
受講資格	保育士資格取得を希望する学生		成績評価方法	筆記試験80点、課題レポート20点
教科書	咲間まり子編著『コンパス乳児保育』建帛社 2018年 入江慶太編著『乳児保育ー子ども・家庭・保育者が紡ぐ営みー』教育情報出版 2019年 ※資料を随時配布			
参考書	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年			
学生への要望	演習には主体的姿勢をもち参加して下さい。また、演習はグループで演習を行いますので協調性を大切にしましょう。			
オフィスタイム	月曜日 1 時限（8：50～10：20） 832研究室 ☑ 木曜日 1 時限（8：50～10：20） 832研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	乳児保育の基本①	1)子どもと保育士等との関係の重要性 2)個々子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり ※子どもと保護者との応答的関わりや信頼関係、子どもと環境の相互作用が子どもに与える影響について考える。応答的関わりや共感性が子どもの発達にどのような関係があるかについて理解を深める。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120
2	乳児保育の基本②	1)子どもの主体性の尊重と自己の育ち 2)子どもの体験と学びの芽生え ※事例をもとに、子どもの主体性の尊重について考える。子どもの視点に立ち「体験」からどのような学びがあるかをグループワークをして話し合い考えを深める。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120
3	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際①	1)子どもの1日の生活の流れと保育の環境 2)子どもの生活や遊びを支える環境の構成 ※保育環境における人的環境と物的環境について考える。1日のデイリープログラムから乳児の生活、保育者の動きや配慮を理解する。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120
4	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際②	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際① 2)3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際① 3)子ども同士の関わりとその援助の実際① ※保育における生活と遊びの場面から「養護」の視点、5領域につながる「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」視点を考えていく。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120
5	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際③	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際① 2)3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際① 4)子ども同士の関わりとその援助の実際① ※子どもの気持ちや育ちを尊重し自立を促す基本的生活習慣について実技の体験学習をする。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際④	1)3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際② 2)3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際② 5)子ども同士の関わりとその援助の実際② ※子どもの気持ちや育ちを尊重し自立を促す基本的生活習慣について考える。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120
7	乳児保育における配慮の実際	1)子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 2)集団での生活における配慮 3)環境の変化や移行に対する配慮 ※安全な人的・物的環境を設定し、子どもの健康の維持・増進を図ることは重要である。子どもの心身の発達を支えていくために必要な基本的知識を身につけ、子どもが安全に過ごすために必要な保育者の関わりをグループ・ディスカッションをして考える。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120
8	乳児保育における計画の実際	1)長期的な指導計画と短期的な指導計画 2)個別的な指導計画と集団の指導計画 ※子どもの個人差・月齢に応じた保育計画を考える。	テキストの授業内容に係るページを読む。	120

科目名	子どもの健康と安全	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	永瀬 悦子		
開講期	Ⅲ		
授業概要	「子どもの保健」で学んだ内容を基礎として、保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について学修する。助産師・看護師として医療機関勤務および乳幼児健診等をしてきた経験を活かして、子どもの体調不良等に対する適切な対応、感染症対策、健康及び安全管理の体制について学修する。☑ 【課題に対するフィードバック方法】最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 【授業の目的・ねらい】☑ 「子どもの保健」の基礎知識をもとに、保育現場で実践できる子どもの健康管理や成長・発達を促す養護技術・保育における健康及び安全の管理について知識・技術を学ぶ。☑ 【位置づけ・水準】CE2241		
達成目標	1)保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について総合的に計画・実践内容を述べることができる 2)保育における子どもの発達を理解し、衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策の支援について説明できる。 3)子どもの体調不良等に対する適切な対応方や技術について述べることができる。 4)保育における感染症対策について説明できる。 5)保育における保健の学修した知識や技術を統合し、子どもの健康が逸脱した時の問題解決方法を説明できる。 6)子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の根底には幅広い教養と豊かな人間性や規範意識があることを説明できる ディプロマポリシーとの関係から「保育の内容理解と総合計画力」「子どもの発達の理解と支援の力」「保育の方法と技術力」「豊かな人間性と規範意識」「問題解決力」「表現力とコミュニケーション能力」を身に付けることを達成目標にする。これらのことを7割達成すれば単位認定とする。		
受講資格	保育士資格取得を希望する学生	成績評価 方法	筆記試験60点、レポート40点
教科書	松本峰雄監修『子どもの保健と安全演習ブック』ミネルヴァ書房 2020年☑ 咲間まり子編著『コンパス乳児保育』建帛社 2018年☑ ※随時、資料配布		
参考書	『保育所保育指針』フレーベル館 2017年		
学生への要望	乳幼児のケアをおこなうためには、根拠のある確かな知識（頭）、愛情や相手を思いやる心、適切で正確な技術（技）が大切である。講義は積極的ののぞむことを期待する。		
オフィスタイム	火曜日 Ⅲ時限（12：50～14：30） 木曜日 Ⅰ時限（8：50～10：20）	832研究室☑ 832研究室	

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	感染症対策	1)感染症の集団発生の予防 2)感染症発生時と罹患後の対応 ※長時間生活する保育所等の施設は、子どもたちにとり過ごしやすく、安全・衛生的な環境を整えることの大切さを理解する。病気の予防や感染症拡大を防止する衛生管理を学ぶ。	『2018年改訂版、保育所における感染症対策ガイドライン』（平成30年3月厚生労働省）をよく読む	60
2	子どもの体調不良等に対する適切な対応①	1)子どもの状態観察と評価 ※子どもの生理機能を理解して、子どもの状態観察と評価を学ぶ。	教科書をよく読み学びを深める	60
3	子どもの体調不良等に対する適切な対応②	1)薬の与薬 2)体調不良や傷害が発生した場合の対応 ※健康状態の観察と薬の与え方について学び、正しく行うことを身につける。	家庭生活にある薬の種類と使用方法を調べる	60
4	子どもの体調不良等に対する適切な対応③	1)救急処置や救急蘇生法 2)応急処置 ※乳幼児救急蘇生法の方法について理解し、包帯や三角布を利用した応急処置の実技の体験学習をする。	救急蘇生法について教科書を用いて学修する	60
5	保育における健康及び安全の管理	1)保育における保健的対応の基本的な考え方 2)保育における健康を促進する関わり 3)個別的な配慮を要する子ども・障害のある子どもへの対応 ※慢性疾患やアレルギー疾患等をもちながら生活する子どもと家族支援の方法を学ぶ。子どもなりの成長・発達とは何かを考える。	教科書をよく読み学びを深める	60
6	保育における保健的対応	1)衛生管理 2)事故防止及び安全対策3)危機管理と災害への備え ※教育・保育施設における事故防止と安全対策の必要を理解し、危機管理と災害への備えの重要性を学ぶ。	『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』（平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省）をよく読む	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	健康及び安全の管理の実施体制	1)職員間の連携・協働と組織的取組 2)保育における保健活動の計画及び評価 3)母子保健・地域保健における自治体との連携 4)家庭、専門機関、地域の関係機関との連携 ※子どもの育ちや子育て支援制度、地域の社会資源や関係機関について理解する。	『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』（平成23年3月厚生労働省）をよく読む	60
8	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	1)子どもの健康と保育環境(身体計測と評価) 2)子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理 3)子どもの生活習慣と心身の健康増進を図るための健康管理 ※子どもの健康の維持・増進にむけ保健計画を作成し、職員全体でねらいと目的を共通理解して実践していくことを理解する。保健計画および成長・発達の評価の資料となる身体計測の技術と留意点を学ぶ。	子どもの健康を増進するために必要な「保健たより」を作成する	60

科目名	社会的養護Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員	宮内 俊一			
開講期	Ⅳ			
授業概要	社会的養護を利用する親・その枠内で生活する子どもたちの実情を具体的に理解し、保育者ならではの支援の在り方について実践的に学びます。この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として実務経験のある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます（CE2242）。			
達成目標	社会的養護の基本理念に基づき以下の2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・社会的養護を提供する側の難しさを理解し、気をつけなければいけない点についてわかる。 ・社会的養護を利用する人たちの心情に寄り添えるようになる。 なおこの科目は、本学科DPの「保育の内容理解と総合的計画力」「保育の方法と技術力」及び「表現力とコミュニケーション能力」に関連しています。			
受講資格	幼児教育学科 2年	成績評価 方法	積極的な授業参加（10%）、授業内課題やレポート（2回：60%）、小テスト（30%）により評価します。	
教科書	新基本保育シリーズ「社会的養護Ⅰ」（中央法規）とレジュメ、資料（随時配布）を併用します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
オフィスタイム	授業開始前・終了後：宇治研究室（836）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 児童相談所について	・授業内容、評価方法について説明する ・児童相談所の役割について説明する	教科書を予習・復習すること	60
2	家庭養護について	・里親制度について説明する☑ ・里親制度について考えるグループワークを行う	教科書を予習・復習すること	60
3	施設養護について	・複数ある施設養護について説明する	教科書を予習・復習すること	60
4	家庭養護と施設養護の共通点と相違点	・社会的養護の課題について具体的に説明する ・まとめと確認のための小テストを実施	教科書を予習・復習すること	60
5	社会的養護の周辺1 性と出産	・リプロダクティブヘルス&ライツ関連の知識を説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
6	社会的養護の周辺2 子どもを手放す母親	・子どもを育てられずに手放す母親の内面理解について事例を通して説明する（赤ちゃんポスト）	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
7	社会的養護の周辺3 社会的養護の必要性	・子どもを育てられずに手放す母親の内面理解について事例を通して説明する（内密出産・インターネットでの養子縁組など）	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
8	社会的養護の周辺4 虐待された子どもの傷つき	・被虐待児の心理的ダメージについて説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60

科目名	保育実習指導Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	安部 高太朗,沼田 春香,宗像 佑華, 宮内 俊一,小林 徹			
開講期	通年			
授業概要	1. 保育実習の意義・目的を理解する。☑ 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。☑ 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。☑ 4. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。☑ 課題等の返却時に授業内でフィードバックを行う。 ☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2147			
達成目標	1. 保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができたか。☑ 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。☑ 3. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力			
受講資格	幼児教育学科 1年	成績評価 方法	①平常点：50%（提出物の有無、授業態度等にもみる授業への参画状況）☑ ②授業内テストの成績、提出物の内容：50%☑ 上記①及び②の合計100%で成績をつける。	
教科書	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の手引き』（2022年度）、2022年。 福島県保育者養成校連絡会 編『福島県保育実習施設』（2022年度）、2022年。 栗山宣夫・小林徹 編著『福祉施設実習テキストブック：子ども・利用者理解からはじめる実践』建帛社、2022年。			
参考書	厚生労働省 編『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2018年。 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年。			
学生への要望	本授業はⅠ期に8コマ、Ⅱ期に8コマ（あわせて2単位）、保育実習の事前指導として開設される。☑ 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。本授業の受講に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限（14：30～16：00） ・火曜日Ⅴ限（16：10～17：40）☑ いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育実習の意義①	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、保育所実習の概要、実習希望先の確認	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
2	実習の内容と課題の明確化①	実習の内容および課題、実習希望先の調整	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
3	実習についての留意事項	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、実習生に求められる情報管理、実習希望先の決定	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
4	保育所実習の実際①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて☑	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
5	実習の記録①	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き方 ☑	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
6	実習の記録②	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き方 ☑	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
7	実習の計画①	実習における保育計画（指導案）の作成について ☑	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
8	実習の計画②	実習における保育計画（指導案）の作成について ☑	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	保育実習の意義②	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、施設実習の概要	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
10	実習の内容と課題の明確化②	施設実習における心構え・準備について、実習施設別の基本的な特徴の理解、実習希望先の確認	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
11	施設実習と守秘義務・個人情報の保護	実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘義務を考慮した日誌の書き方☑実習希望先の調整	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
12	施設実習の実際	実習の留意事項について☑施設実習の基本的な理解と、実習場面における園生や職員との関わりについて、実習希望先の決定	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
13	保育所実習事前指導①	実習生としての心構え☑実習日誌の配布、誓約書について	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
14	保育所実習事前指導②	実習の課題の明確化☑実習日誌の記入、保菌検査・抗体検査について	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
15	保育所実習の実際②	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて☑	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。小テストのための学習。	30
16	保育所実習の実際③	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて☑	予習：テキスト内容の確認。 復習：まとめと質問シート作成。	30

科目名	保育実習指導Ⅱ又はⅢ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	安部 高太朗,沼田 春香,宗像 佑華, 宮内 俊一,小林 徹			
開講期	Ⅲ			
授業概要	1. 保育実習の意義・目的を理解する。☑ 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。☑ 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。☑ 4. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。☑ 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。☑ 課題等の返却時に授業内でフィードバックを行う。 ☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2248			
達成目標	1. 保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができたか。☑ 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。☑ 3. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力			
受講資格	幼児教育学科 2年		成績評価 方法	平常点50点（提出物の有無、遅刻や授業態度の減点）授業内テストの成績、提出物の内容50点
教科書	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の手引き』（2022年度）、2022年。 福島県保育者養成校連絡会 編『福島県保育実習施設』（2022年度）、2022年。 栗山宣夫・小林徹 編著『福祉施設実習テキストブック：子ども・利用者理解からはじめる実践』建帛社、2022年。			
参考書	厚生労働省 編『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2018年。 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018年。			
学生への要望	本授業はⅢ期に8コマ（1単位）、保育実習の事前指導として開設される。保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。本授業の受講に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限（14：30～16：00） ・火曜日Ⅴ限（16：10～17：40）☑ いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育実習の振り返り①	オリエンテーション、本授業の目的、保育所実習の概要、反省・感想	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	保育実習の振り返り②	保育所実習の概要、反省・感想	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	実習で学んだ重要事項①	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、実習生に求められる情報管理	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	実習で学んだ重要事項②	保育所実習における保育計画と実践、観察、記録及び評価、実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘義務を考慮した日誌の書き方。	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	福祉職として働くために①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と実習場面における子どもや職員との関わりについて。☑ 実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難点。	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	福祉職として働くために②	施設実習の基本的な理解と実習場面における園生や職員との関わりについて。実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難点。	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	保育所実習の実際①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と実習場面における子どもや職員との関わりについて。☑	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	保育所実習の実際②	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて☑	予習：当日の内容をテキスト等で確認する。復習：授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

科目名	保育実習Ⅰ－1	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	安部 高太郎		
開講期	Ⅱ		
授業概要	1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 ☑ 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。☑ 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。☑ 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。☑ 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。☑ 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。☑ 実習終了後、事後指導の時間を設定しフィードバックを行う。☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2149		
達成目標	1 保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 ☑ 2 子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について理解できたか。☑ 3 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。☑ 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識		
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	大学による評価 50％ 福祉施設による実習の評価 50％☑
教科書	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の手引き』（2022年度）、2022年。 福島県保育者養成校連絡会 編『福島県保育実習施設』（2022年度）、2022年。 栗山宣夫・小林徹 編著『福祉施設実習テキストブック：子ども・利用者理解からはじめる実践』建帛社、2022年。		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。		
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限（14：30～16：00）☑ ・火曜日Ⅴ限（16：10～17：40）☑ いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育所実習の内容	1. 保育所の役割や機能の具体的展開☑ ・養護と教育が一体となって行われる保育☑ ・保育所の社会的役割と責任	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
2	保育所実習の内容	2. 観察に基づく保育理解☑ ・子どもの心身の状態や活動の記録☑ ・保育士等の動きや実践の観察☑ ・保育所の生活の流れや展開の把握	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
3	保育所実習の内容	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携☑ ・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解☑ ・入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援☑ ・地域社会との連携	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
4	保育所実習の内容	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価☑ ・保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育課程の理解☑ ・作成した指導計画に基づく保育実践と評価☑	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
5	保育所実習の内容	5. 保育士の業務と職業倫理☑ ・多様な保育の展開と保育士の業務☑ ・多様な保育の展開と保育士の職業倫理	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
6	保育所実習の内容	6. 自己の課題の明確化	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	実習生としてふさわしい適切な態度	・意欲・積極性☑ ・責任感☑ ・探究心☑ ・協調性	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

科目名	保育実習Ⅰ-2		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	安部 高太朗,沼田 春香,宗像 佑華, 宮内 俊一			
開講期	Ⅲ			
授業概要	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能を具体的に理解する。 ☑ 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。☑ 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。☑ 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。☑ 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。☑ 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。☑ 実習終了後、事後指導の時間を設定しフィードバックを行う。 ☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2250			
達成目標	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 ☑ 2 利用者への理解を深め、支援について理解できたか。☑ 3 支援の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。☑ 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識			
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	大学による評価 50%☑ 福祉施設による実習の評価 50%☑	
教科書	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の手引き』（2022年度）、2022年。 福島県保育者養成校連絡会 編『福島県保育実習施設』（2022年度）、2022年。 栗山宣夫・小林徹 編著『福祉施設実習テキストブック：子ども・利用者理解からはじめる実践』建帛社、2022年。			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。☑ 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限（14：30～16：00）☑ ・火曜日Ⅴ限（16：10～17：40）☑ いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	1. 施設の役割と機能☑ ・施設の生活と一日の流れ☑ ・施設の役割と機能	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
2	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	2. 利用者の理解☑ ・利用者の観察とその理解☑ ・個々の状態に応じた援助やかかわり	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
3	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	3. 養護内容・生活環境☑ ・計画に基づく活動や援助☑ ・利用者の心身の状態に応じた対応☑ ・利用者の活動と生活の環境☑ ・健康管理、安全対策の理解	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
4	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	4. 計画と記録☑ ・支援計画の理解と活用☑ ・記録に基づく省察・自己評価	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
5	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	5. 専門職としての保育士の役割と倫理☑ ・保育士の業務内容☑ ・職員間の役割分担や連携☑ ・保育士の役割と職業倫理	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
6	実習生としてふさわしい適切な態度	・意欲・積極性☑ ・責任感☑ ・探究心☑ ・協調性	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

科目名	保育実習Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	安部 高太朗,沼田 春香,宗像 佑華		
開講期	Ⅲ		
授業概要	1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 ☑ 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。☑ 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。☑ 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。☑ 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。☑ 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。☑ 実習終了後、事後指導の時間を設定し、フィードバックを行う。☑ ☑ ○位置づけ・水準 CE2251		
達成目標	1 保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 ☑ 2 子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について理解できたか。 ☑ 3 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。 ☑ 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。 ☑ ☑ ○単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ○ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容と理解と総合的な計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識。		
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	大学による評価 50％ 福祉施設による実習の評価 50％
教科書	福島県保育者養成校連絡会 編 (2019)『保育実習の手引き』(2019年度版)。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。		
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限（14：30～16：00）☑ ・火曜日Ⅴ限（16：10～17：40）☑ いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	保育所実習の内容	1. 保育所の役割や機能の具体的展開☑ ・養護と教育が一体となって行われる保育☑ ・保育所の社会的役割と責任	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
2	保育所実習の内容	2. 観察に基づく保育理解☑ ・子どもの心身の状態や活動の記録☑ ・保育士等の動きや実践の観察☑ ・保育所の生活の流れや展開の把握	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
3	保育所実習の内容	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携☑ ・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解☑ ・入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援☑ ・地域社会との連携	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
4	保育所実習の内容	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価☑ ・保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育課程の理解☑ ・作成した指導計画に基づく保育実践と評価☑	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
5	保育所実習の内容	5. 保育士の業務と職業倫理☑ ・多様な保育の展開と保育士の業務☑ ・多様な保育の展開と保育士の職業倫理	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60
6	保育所実習の内容	6. 自己の課題の明確化	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	実習生としてふさわしい適切な態度	・意欲・積極性☑ ・責任感☑ ・探究心☑ ・協調性	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。 復習：実習記録の記入。	60

科目名	保育実習Ⅲ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	安部 高太朗,宗像 佑華,沼田 春香, 小林 徹,宮内 俊一			
開講期	Ⅲ			
授業概要	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。 ☑ 2 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。☑ 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。☑ 4 保育士としての自己の課題を明確化する。☑ 実習終了後、事後指導の時間を設定しフィードバックを行う。 ☑ ☑ 位置づけ・水準 CE2252			
達成目標	1 児童福祉施設等の役割や機能、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力について実践を通して理解を深めることができたか。 ☑ 2 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、自己の課題を明確にできたか。☑ 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：保育の内容理解と総合的計画力、子どもの発達の理解と支援の力、保育の方法と技術力、表現力とコミュニケーション能力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識☑			
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	大学による評価 50%☑ 福祉施設による実習の評価 50%☑	
教科書	福島県保育者養成校連絡会『保育実習の手引き』（2022年度）、2022年。 福島県保育者養成校連絡会 編『福島県保育実習施設』（2022年度）、2022年。 栗山宣夫・小林徹 編著『福祉施設実習テキストブック：子ども・利用者理解からはじめる実践』建帛社、2022年。			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	実習は、実際の施設で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。☑ 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限（14：30～16：00）☑ ・火曜日Ⅴ限（16：10～17：40）☑ いずれも、83年館2階の安部研究室（821研究室）とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部（k-abe@koriyama-kgc.ac.jp）までメールで連絡を入れること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。復習：実習記録の記入。	60
2	施設における支援の実際	1,受容し、共感する態度☑ 2,個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解☑ 3,個別支援計画の作成と実践☑ 4,子どもの家族への支援と対応☑ 5,多様な専門職との連携☑ 6,地域社会との連携	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。復習：実習記録の記入。	60
3	保育士の多様な業務と職業倫理	保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。復習：実習記録の記入。	60
4	保育士としての自己の課題を明確化	保育士としての自己の課題を明確化する。	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。復習：実習記録の記入。	60
5	実習生としてふさわしい適切な態度	・意欲・積極性☑ ・責任感☑ ・探究心☑ ・協調性☑	予習：翌日の保育活動の確認。指導計画の作成。復習：実習記録の記入。	60

科目名	教職・保育実践演習		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員	折笠 国康				
開講期	Ⅳ				
授業概要	達成目標の4項目を踏まえて授業を行う。保育者として必要な資質や知識および技能の再確認を行うとともに、自己分析を通して不足している部分の補完を目指し、保育者として備えるべき資質のさらなる向上を目指す。教員の授業担当はオムニバスになり、最終時間にはまとめのレポートの作成や履修カルテを完成させる。☒ 担当教員には、現職の幼稚園教諭、中等教育や児童相談所における経験を活用した指導を行う者がおり、教育現場の実感を意識した学びが重視されている。授業は各担当教員によるクラスごとのローテーションで行う。				
達成目標	1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項☒ ①教育現場の現状を再確認し、保育者の使命と役割を理解できたか。☒ 2. 社会性や対人関係能力に関する事項☒ ②子どもや保護者教との人間関係を円滑に進めるための基礎を培うことができたか。☒ 3. 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項☒ ③現在の学級経営上の諸問題を理解し、対応の基礎について理解できたか。☒ 4. 教科・保育内容等の指導力に関する事項☒ ④時代が求める保育を十分に遂行できる知識と技術を再確認できたか。☒ 単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的評価が達成度7割以上であること。				
受講資格	最終学年の後期		成績評価 方法	特別講義の感想 まとめのレポート	50点☒ 50点
教科書	授業でプリントを配布				
参考書	授業中に紹介する				
学生への要望	今までの講義、演習、実習などで学習したことを総括し、自分に不足した部分をさらに補う機会となる。☒ 実践的で学びの集大成となるこの授業を通じて、現場での活躍の一助となる力を身につけてほしい。				
オフィスタイム	金曜日 3限 4限				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーションと履修カルテ	授業についてのオリエンテーションと履修カルテの記入について説明する。 担当：折笠・宇治☑	それぞれの課題について準備する。	60
2	実習の振り返り1	実習の振り返りと今後の課題について検討する 担当：柴田・柳沼	それぞれの課題について準備する。	60
3	保育における造形表現1	保育現場で役立つ造形表現について学ぶ 担当：草野	それぞれの課題について準備する。	60
4	保育における身体表現	保育現場で役立つ身体表現について学ぶ 担当：一柳	それぞれの課題について準備する。	60
5	保育における音楽表現	保育現場で役立つ音楽表現について学ぶ 担当：横溝・深谷	それぞれの課題について準備する。	60
6	実習の振り返り2	実習の振り返りと今後の課題について検討する 担当：柴田・柳沼	それぞれの課題について準備する。	60
7	保育における造形表現2	保育現場で役立つ造形表現について学ぶ 担当：早川	それぞれの課題について準備する。	60
8	家庭支援・社会福祉・児童福祉	家庭支援・社会福祉・児童福祉についての理解を深める 担当：宇治	それぞれの課題について準備する。	60
9	健康と保育実践	子どもの健康と保育実践についての理解を深める 担当：永瀬	それぞれの課題について準備する。	60
10	実習の振り返り3	実習の振り返りと今後の課題について検討する 担当：柳沼	それぞれの課題について準備する。	60
11	学級経営	時代が求める学級経営について学び、保育者の役割についての学びを深める 担当：折笠	それぞれの課題について準備する。	60
12	世界と日本の保育	世界と日本の保育について学ぶ 担当：柴田	それぞれの課題について準備する。	60
13	事例研究	附属幼稚園と連携して事例研究☑ 担当：付属幼稚園教諭、一柳、折笠、宇治、深谷	レポートをまとめる。	60
14	事例研究	附属幼稚園と連携して事例研究☑行う 担当：付属幼稚園教諭、一柳、折笠、宇治、深谷	レポートをまとめる。	60
15	まとめと履修カルテ	授業の総括を行う。目標と現在の課題を確認し、自己評価と反省を行い、レポートを提出し履修カルテを完成させる。 担当：一柳、折笠、宇治、深谷	レポートをまとめる。履修カルテを完成させる。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
---	----	------	------	------

科目名	ピアノⅡ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。練習曲やバロックから近現代までの様々な曲を通して音楽理論や作品の構成や様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児曲の弾き歌いの伴奏法を学び、保育者としての実践力を養う。授業は個々のレベルに合わせて展開し、アンサンブルやディスカッションを通して問題解決能力やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準 CE2254			
達成目標	目標は ①様々な楽曲の学習を通して、曲の構成や様式、演奏法を理解できている。☒ ②ピアノの基本的な演奏技術が身についている。☒ ③自発的で豊かな演奏表現ができる。☒ ④幼児曲の弾き歌いが15曲以上できる。☒ 単位認定の最低基準：④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「問題解決能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現力」			
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース2年	成績評価 方法	実技試験90％、平常点10％	
教科書	進度に応じてその都度指示。☒ 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌ー唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社			
参考書	進度に合わせて適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限 金曜日Ⅲ限 場所：芸術館3F No.1 幼児教育学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	春休み中の課題の確認。練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	120
2	基礎技術の学習2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
3	基礎技術の学習3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
4	基礎技術の学習4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
5	基礎技術の学習5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
6	基礎技術の学習6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。ロマン派などの作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。試験曲の選定。正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
7	基礎技術の学習7	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。幼児曲の伴奏についての学習。試験曲の正確な読譜を行う。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
8	基礎技術の学習8	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。期末試験曲について楽曲分析と演奏法の学習。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
10	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。ベダリングと演奏表現の工夫について。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
11	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
12	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
13	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
14	演奏表現の学習 6	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
15	演奏表現の学習 7 とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120
16	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
17	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
18	演奏技術と表現の学習 1	古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。アンサンブルでのより良い表現を目指す。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
19	演奏技術と表現の学習 2	古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。アンサンブル曲の学習。アンサンブルでのより良い表現を目指す。	次の授業に向けた譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。	120
20	演奏技術の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
21	演奏技術の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
22	演奏技術の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。古典派、ロマン派、近現代などの作品の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	120
23	演奏技術の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
24	演奏技術の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
25	演奏表現の学習 1	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	演奏表現の学習 2	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
27	演奏表現の学習 3	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
28	演奏表現の学習 4	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。☒ ☒	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
29	演奏表現の学習 5	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。バロック作品を用いて多声音楽の様式と奏法の学習。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
30	演奏表現の学習 6 とまとめ	試験に向けステージを想定した発表を行い、ディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120

科目名	ピアノⅡ（副科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	横溝 聡子		
開講期	通年		
授業概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。練習曲やバロックから近現代までの様々な曲を通して音楽理論や作品の構成や様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児曲の弾き歌いの伴奏法を学び、保育者としての実践力を養う。授業は個々のレベルに合わせて展開し、アンサンブルやディスカッションを通して問題解決能力やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準 CE2255		
達成目標	目標は ①様々な楽曲の学習を通して、曲の構成や様式、演奏法を理解できている。☒ ②ピアノの基本的な演奏技術が身についている。☒ ③自発的で豊かな演奏表現ができる。☒ ④幼児曲の弾き歌いが15曲以上できる。☒ 単位認定の最低基準：④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「問題解決能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現力」		
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース2年	成績評価 方法	実技試験90％、平常点10％
教科書	進度に応じてその都度指示。☒ 吉野幸男他 執筆・共著『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』ドレミ楽譜出版社☒ 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社		
参考書	進度に合わせて適宜楽譜を紹介する。		
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。		
オフィスタイム	横溝・深谷：水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅲ限 場所：芸術館3F No.1 幼児教育学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1 横溝・深谷	春休み中の課題の確認。練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	120
2	基礎技術の学習2 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
3	基礎技術の学習3 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
4	基礎技術の学習4 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
5	基礎技術の学習5 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
6	基礎技術の学習6 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
7	基礎技術の学習7 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。幼児曲弾き歌い確認テストに向けた準備を行う。	120
8	基礎技術の学習8 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
9	演奏表現の学習1 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
10	演奏表現の学習2 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	演奏表現の学習 3 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の工夫。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
12	演奏表現の学習 4 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
13	演奏表現の学習 5 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
14	演奏表現の学習 6 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
15	演奏表現の学習 7 とまとめ 横溝・深谷	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120
16	演奏技術の学習 1 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
17	演奏技術の学習 2 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
18	演奏技術と表現の学習 1 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
19	演奏技術と表現の学習 2 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
20	演奏技術の学習 1 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
21	演奏技術の学習 2 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
22	演奏技術の学習 3 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	120
23	演奏技術の学習 4 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
24	演奏技術の学習 5 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
25	演奏表現の学習 1 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
26	演奏表現の学習 2 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
27	演奏表現の学習 3 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
28	演奏表現の学習 4 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	演奏表現の学習5 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
30	演奏表現の学習6 とまとめ 横溝・深谷	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120

科目名	ピアノⅡ（副科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	深谷 悠里絵		
開講期	通年		
授業概要	ピアノ演奏の基礎的技術の習得と豊かな表現力を体得することを目的とする。練習曲やバロックから近現代までの様々な曲を通して音楽理論や作品の構成や様式を理解し、表現するための技術や演奏法を学ぶ。加えて幼児曲の弾き歌いの伴奏法を学び、保育者としての実践力を養う。授業は個々のレベルに合わせて展開し、アンサンブルやディスカッションを通して問題解決能力やコミュニケーション能力を高め、自発的で豊かな演奏表現ができることを目指す。各試験後、個々に時間を設定しフィードバックを行います。☒ 位置づけ・水準 CE2255		
達成目標	目標は ①様々な楽曲の学習を通して、曲の構成や様式、演奏法を理解できている。☒ ②ピアノの基本的な演奏技術が身についている。☒ ③自発的で豊かな演奏表現ができる。☒ ④幼児曲の弾き歌いが15曲以上できる。☒ 単位認定の最低基準：④は必須である。①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「問題解決能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現力」		
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース2年	成績評価 方法	実技試験90％、平常点10％
教科書	進度に応じてその都度指示。☒ 吉野幸男他 執筆・共著『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノ・テキスト』ドレミ楽譜出版社☒ 津布楽杏里・桑原章寧 共著『保育・教育の現場で使える！弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版社 全国大学音楽教育学会 編著『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社		
参考書	進度に合わせて適宜楽譜を紹介する。		
学生への要望	実技科目のため積極的な練習の積み重ねが重要です。授業での課題を次の授業までに出来るよう、よく考えながら根気強く取り組みましょう。		
オフィスタイム	横溝・深谷：水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅲ限 場所：芸術館3F No.1 幼児教育学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1 横溝・深谷	春休み中の課題の確認。練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。事前事後学習の目安時間は最低必要な時間である。各自授業に対応できるよう準備が必要である。	120
2	基礎技術の学習2 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
3	基礎技術の学習3 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
4	基礎技術の学習4 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
5	基礎技術の学習5 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
6	基礎技術の学習6 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
7	基礎技術の学習7 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。幼児曲弾き歌い確認テストに向けた準備を行う。	120
8	基礎技術の学習8 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。幼児曲の伴奏についての学習。正確な読譜力と演奏技術を身につける。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
9	演奏表現の学習1 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
10	演奏表現の学習2 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	演奏表現の学習 3 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の工夫。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
12	演奏表現の学習 4 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。演奏表現を深める。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
13	演奏表現の学習 5 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
14	演奏表現の学習 6 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
15	演奏表現の学習 7 とまとめ 横溝・深谷	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120
16	演奏技術の学習 1 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
17	演奏技術の学習 2 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
18	演奏技術と表現の学習 1 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
19	演奏技術と表現の学習 2 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。簡単なアンサンブル曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
20	演奏技術の学習 1 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
21	演奏技術の学習 2 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
22	演奏技術の学習 3 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。進度に応じた作品の学習。試験曲の選定。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	120
23	演奏技術の学習 4 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
24	演奏技術の学習 5 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。正確な読譜力を身につける。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
25	演奏表現の学習 1 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
26	演奏表現の学習 2 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲分析と演奏法の学習。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
27	演奏表現の学習 3 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。楽曲への理解を深め演奏表現に繋げる。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
28	演奏表現の学習 4 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
29	演奏表現の学習5 横溝・深谷	練習曲を用いて基礎的な技術の習得を図る。試験曲の学習。自発的な演奏表現を目指す。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	120
30	演奏表現の学習6 とまとめ 横溝・深谷	試験に向けステージを想定した発表を行い、グループでのディスカッションを通じて自己の演奏を振り返り、更なる演奏表現の向上を目指す。	試験に向け確実性のある演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を試験までにできるようにする。	120

科目名	ボーカルⅠ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	磯部 哲夫		
開講期	通年		
授業概要	[授業の目的・ねらい]☑ 保育者が正しい発声法を身につけることは、保育現場において歌唱の表現活動が正しく行うことができ、また保育者の音声障がい等を回避するという観点からも重要なことである。本科目は腹式呼吸を正確に身につけ基本的な発声を修得し、保育現場における様々な楽曲に対応できる歌唱表現テクニックの修得をねらいとする。☑ [授業全体の内容の概要]☑ テノール歌手としてオペラやリサイタル等の様々な舞台出演の経験を活かし、個々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。まず基本的な発声法を学び、実際に歌唱楽曲を用い徐々に楽曲の難易度を上げながら歌唱のポイントを解説する。また各個人の音楽表現についてディスカッションし表現技術を身につけていく（アクティブラーニング）。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポートフォリオとして学習成果を蓄積する。第10目の授業において小テストを実施し、テスト終了後コメントによるフィードバック、期末実技試験においてはルーブリックによるフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2156		
達成目標	①腹式呼吸が正確に習得できていることが確認できる。☑ ②各原語が正しく発音できる。☑ ③基本的な発声法を習得し、それを基に楽曲のフレージング処理ができる。 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において歌唱表現が確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」である。		
受講資格	短期大学部 幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース 1年	成績評価 方法	ラーニング・ポートフォリオ10%、実技試験90%、実技試験はルーブリック評価で評価を行う。
教科書	コンコーネ50番中声用（全音楽楽譜出版）、イタリア歌曲集1中声用（全音楽楽譜出版）、童謡曲集、ミュージカル曲集。		
参考書	発声や歌唱に関する書物全般		
学生への要望	発声や歌唱法は理論を基に身体で覚えていくものである。授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。		
オフィスタイム	火曜日Ⅱ限、水曜日Ⅳ限 841研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて説明する。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	120
2	コールユーブンゲン1	コールユーブンゲンの階名唱を行う。腹式呼吸、歌唱姿勢を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを毎日行う。コールユーブンゲンで階名唱の練習をする。	120
3	コールユーブンゲン2	コールユーブンゲンの階名唱を行う。腹式呼吸、歌唱姿勢を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを毎日行う。コールユーブンゲンで階名唱の練習をする。	120
4	発声法・歌唱法1	コンコーネ50番No.1を歌唱しながら、初期段階の腹式呼吸および順次音程の歌唱法を理解する。	腹式呼吸の習得に努め、腹式呼吸を使いながらコンコーネ50番No.1・2・3の譜読み、歌唱練習をする。	120
5	発声法・歌唱法2	腹式呼吸を活かしながらコンコーネ50番No.2・3の歌唱を行う。3度および4度の跳躍音程の歌唱法を理解する。	腹式呼吸を活かしながら、コンコーネ50番No.4、5の譜読み、歌唱練習をする。	120
6	発声法・歌唱法3	コンコーネ50番No.4、5を歌唱しながら、5度以上の跳躍音程およびレガートの歌唱法を理解する。	跳躍音程の歌唱法を意識して、コンコーネ50番No.6、7の譜読み、歌唱練習をする。	120
7	発声法・歌唱法4	コンコーネ50番No.6、7を歌唱しながら、オクターブの跳躍音程およびロングトーンの歌唱法を理解する。	跳躍音程の歌唱法を意識して、コンコーネ50番の既習局の歌唱練習、イタリア歌曲より「Caro mio ben」の譜読みをする。	120
8	イタリア歌曲1	イタリア語の発音について解説し、イタリア歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行う。	「Nel cor piu non mi sento」の譜読み、歌唱練習をする。	120
9	イタリア歌曲2	イタリア歌曲より「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、8分の6拍子の歌唱法を理解する。	正確なイタリア語の発音で、イタリア歌曲より「Sebben crudele」の歌唱練習をする。	120
10	イタリア歌曲3	イタリア歌曲より「Sebben crudele」の歌唱を行い、フレージングや歌唱表現のポイントを解説する。	「Lascia ch'io pianga」の譜読み、歌唱練習をする。	120
11	イタリア歌曲4	イタリア歌曲より「Lascia ch'io pianga」の歌唱を行い、3拍子の歌唱ポイントを解説する。	既習曲の歌唱練習をする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	イタリア歌曲 5	イタリア歌曲の既習曲の歌唱を行い、試験曲を決める。	正確なイタリア語の発音で、既習曲の歌唱練習をする。	120
13	I 期のまとめ 1	イタリア歌曲より試験曲に決めた楽曲について、発声、姿勢、歌唱フレージングを理解し、音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏者を決めておく。	120
14	I 期のまとめ 2	イタリア歌曲より試験曲に決めた楽曲について、伴奏者と演奏を行い、音楽表現を深めていく。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また、伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていくこと。	120
15	I 期のまとめ 3	イタリア歌曲より選択した楽曲を伴奏者と演奏を行い、I 期実技試験へ向けて音楽表現を完成させる。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていくこと。	120
16	様々な発声法 1	自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェストボイスを使い分け、ミドルボイスについて解説する。	地声の多い楽曲を、チェストボイスで練習する。	120
17	様々な発声法 2	地声声域の多い楽曲を選択し、チェストボイスについて解説し、地声で歌唱を行う。	自分の換声点を見つけ、ヘッド・チェストボイス、ミドルボイスを意識しながら、既習曲で歌唱練習を行う。	120
18	様々な発声法 3	裏声声域の多い楽曲を選択し、ミドルボイス、ヘッドボイスについて解説し、裏声で歌唱を行う。	チェストボイスの発声練習、音程の低い楽曲を選択し、チェストボイスで歌唱練習を行う。	120
19	様々な歌唱曲の歌い方 1	童謡を取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説する。	ヘッドボイスの発声練習、音程の高い楽曲を選択し、ヘッドボイスで歌唱練習を行う。また、童謡集の中から選択した楽曲をの歌唱練習を行う。	120
20	様々な歌唱曲の歌い方 2	童謡を取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてディスカッションを行う。	童謡集・ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
21	様々な歌唱曲の歌い方 3	ポップス・ミュージカルナンバーを取り上げヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説する。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
22	様々な歌唱曲の歌い方 4	ポップス・ミュージカルナンバーをヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてディスカッションを行う。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
23	様々な歌唱曲の歌い方 5	ポップス・ミュージカルナンバーをヘッド、ミドル、チェストボイスを使い分けながら歌唱するポイントを解説し、それを活かしながら歌唱を行う。音楽表現についてディスカッションを行う。	ポップスの中から選択した楽曲をヘッド、チェストボイスを使いながら歌唱練習する。またミドルボイスが使えれば、ミドルボイスも交えて練習する。	120
24	弾き歌い 1	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
25	弾き歌い 2	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。、弾き歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
26	弾き歌い 3	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。、弾き歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
27	弾き歌い 4	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。、弾き歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
28	弾き歌い 5	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。、弾き歌いを行う。弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
29	弾き歌い 6	弾き歌い試験曲のポイントを理解する。	試験曲の練習をする。	120
30	まとめ	期末試験に向け、II 期のまとめを行う。	II 期の振り返りを行い、期末試験の練習を行う。	120

科目名	ボーカルⅠ（副科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
担当教員	金子 堅治			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] 保育者が正しい発声法を身につけることは、保育現場において歌唱の表現活動が正しく行うことができ、また保育者の音声障がい等を回避するという観点からも重要なことである。本科目は基本的な発声を修得し、保育現場における様々な楽曲に対応できる歌唱表現の修得をねらいとする。 [授業全体の内容の概要] テノール歌手としてリサイタル等の舞台出演の経験を活かし、個々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。まず基本的な発声法を学び、実際に歌唱楽曲を用い徐々に楽曲の難易度を上げながら歌唱のポイントを解説する。また各個人の音楽表現についてディスカッションし表現技術を身につけていく（アクティブラーニング）。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポートフォリオとして学習成果を蓄積する。期末実技試験においてはループリックによるフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2157			
達成目標	[授業修了時の達成課題]☑ ①腹式呼吸が正確に習得できていることが確認できる。 ②各原語が正しく発音できる。 ③基本的な発声法を習得し、それを基に楽曲のフレージング処理ができる。 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において歌唱表現が確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」である。			
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	成績評価 方法	ラーニング・ポートフォリオ10%、実技試験90%、実技試験はループリック評価で評価を行う。	
教科書	コールユーブンゲン、コンコーネ50番中声用（全音楽楽譜出版）、イタリア歌曲集1中声用（全音楽楽譜出版）、童謡曲集、ミュージカル曲集。			
参考書	発声や歌唱に関する書物全般			
学生への要望	発声や歌唱法は理論を基に身体で覚えていくものである。授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。 ☑			
オフィスタイム	火曜日III～V限 幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスを用いたオリエンテーション。 授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて説明する。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておく。 コンコーネ50番の楽譜の準備をする。	120
2	コールユーブンゲン 1	コールユーブンゲンの階名唱を行う。 歌唱姿勢・腹式呼吸を理解し、腹式呼吸を用いた基本的な発声法を習得する。	コールユーブンゲンの階名唱をする。 腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。	120
3	コールユーブンゲン 2	コールユーブンゲンの階名唱を行う。 歌唱姿勢・腹式呼吸を理解し、腹式呼吸を用いた基本的な発声法を習得する。	コールユーブンゲンの階名唱をする。 腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。	120
4	コールユーブンゲン 3	コールユーブンゲンの階名唱を行う。 歌唱姿勢・腹式呼吸を理解し、腹式呼吸を用いた基本的な発声法を習得する。	コールユーブンゲンの階名唱をする。 腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ50番No.1の譜読みをする。	120
5	コンコーネ50番1	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.1を歌唱し、順次音程の歌唱法を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ50番No.1の歌唱練習をする。 コンコーネ50番No.2の譜読みをする。	120
6	コンコーネ50番 2	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.2を歌唱し、ロングトーンの歌唱法を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。	120
7	コンコーネ50番 3	腹式呼吸を活かし既習の歌唱法を理解する。 コンコーネ50番既習曲の歌唱を行う。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ50番既習曲の歌唱練習をする。 コンコーネ50番No.3の譜読みをする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	コンコーネ50番 4	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.3を歌唱し、3度・4度の跳躍音程およびダイナミクスを意識した歌唱法を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ50番既習曲の歌唱練習をする。 No.4の譜読みをする。	120
9	コンコーネ50番 5	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.4を歌唱し、ドミナントの和声感、カンタービレを意識した歌唱法を理解する。☒	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。	120
10	コンコーネ50番 6	腹式呼吸を活かし既習の歌唱法を理解する。 コンコーネ50番既習曲の歌唱を行う。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。 コンコーネ50番No.5の譜読みをする。	120
11	コンコーネ50番 7	腹式呼吸を活かしコンコーネ50番No.5を歌唱し、オクターヴの跳躍音程、フレージングを意識した歌唱法を理解する。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。	120
12	コンコーネ50番 8	腹式呼吸を活かし、既習の歌唱法を理解する。 コンコーネ50番既習曲の歌唱を行う。	腹式呼吸、歌唱姿勢のチェックを行う。 コンコーネ既習曲の歌唱練習をする。 試験曲の候補を選曲する。	120
13	I 期のまとめ 1	コンコーネ50番の既習曲の歌唱を行い、試験曲を決める。 発声、姿勢、歌唱フレージングを理解し、音楽表現についてディスカッションを行う。	既習の歌唱法を理解し、決めた試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏者を決めておく。	120
14	I 期のまとめ 2	コンコーネ50番より試験曲に決めた楽曲について、伴奏者と演奏を行い、音楽表現を深めていく。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていく。	120
15	I 期のまとめ 3	コンコーネ50番より選択した楽曲を伴奏者と演奏を行い、I 期実技試験へ向けて音楽表現を完成させる。音楽表現についてディスカッションを行う。	試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を完成させる。	120
16	イタリア歌曲 1	イタリア語の発音について解説し、イタリア古典歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行う。	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典歌曲より既習曲の歌唱練習をする。	120
17	イタリア歌曲 2	イタリア古典歌曲より「Caro mio ben」の歌唱を行い、フレージングや歌唱表現のポイントを理解する。☒	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典歌曲より既習曲の歌唱練習をする。 「Star vicino」の譜読みをする。	120
18	イタリア歌曲 3	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Star vicino」の歌唱を行う。	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典歌曲より既習曲の歌唱練習をする。	120
19	イタリア歌曲 4	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Star vicino」の歌唱を行い、メリスマ唱法や3拍子の歌唱表現のポイントを解説する。	既習の歌唱表現のポイントを意識し、既習曲の歌唱練習をする。「Nel cor piu non mi sento」の譜読みをする。	120
20	イタリア歌曲 5	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行う。	正確なイタリア語の発音で、イタリア古典歌曲より既習曲の歌唱練習をする。	120
21	イタリア歌曲 6	イタリア古典歌曲より、既習曲ならびに「Nel cor piu non mi sento」の歌唱を行い、8分の6拍子の楽曲、イタリア語のディクシオンを伴う歌唱法を理解する。	既習の歌唱表現のポイントを意識し、既習曲の歌唱練習をする。	120
22	弾き歌い 1	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
23	弾き歌い 2	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
24	弾き歌い 3	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
25	弾き歌い 4	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
26	弾き歌い 5	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
27	弾き歌い 6	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。 弾き歌いのポイントを理解する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。試験曲候補を選曲する。	120
28	まとめ 1	試験曲を決める。期末試験の練習を行い、Ⅱ期のまとめを行う。	Ⅱ期の振り返りを行い、期末試験の練習を行う。試験用の楽譜を準備する。	120
29	まとめ 2	期末試験の練習を行い、Ⅱ期のまとめを行う。	Ⅱ期の振り返りを行い、期末試験の練習を行う。	120
30	まとめ 3	期末試験の練習を行い、Ⅱ期のまとめを行う。	Ⅱ期の振り返りを行い、期末試験の練習を行う。	120

科目名	ボーカルⅡ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	磯部 哲夫		
開講期	通年		
授業概要	[授業の目的・ねらい]☑ ボーカルⅠで修得した発声法を基に、保育現場における様々な楽曲に対応できる身体的表現を含んだ歌唱表現技術の習得をねらいとする。☑ [授業全体の内容の概要]☑ テノール歌手としてオペラやリサイタル等の様々な舞台出演の経験を活かし、個々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。ボーカルⅠで修得した発声法を基に、Ⅲ期では保育現場で歌われている幼児用歌唱曲取り上げ、歌唱のポイントを解説しピアノ伴奏を付けながらの弾き歌いの技術を修得する。Ⅳ期においては、保育現場での歌唱指導法、幼児用歌唱曲やミュージカル楽曲を取り上げ、身体的表現と歌唱表現を修得する。また各個人の音楽表現については、1年次から実施している表現についてのディスカッションで音楽表現技術を身につけていく（アクティブラーニング）。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポートフォリオとして学修成果を蓄積する。第25回目の授業において小テストを実施し、テスト終了後コメントによるフィードバック、期末実技試験は建学記念講堂大ホールのステージで試験を行い、ステージ上で身体的表現と歌唱表現ができているか、ルーブリックによるフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2158		
達成目標	①正確な原語発音、腹式呼吸、共鳴を含めた発声法を修得している。☑ ②ピアノ伴奏付け、表情を付けながら幼児用歌唱曲の弾き歌いができる。☑ ③幼児用歌唱曲やミュージカル楽曲において、身体的表現と歌唱表現を融合させた音楽表現ができ、舞台上で表現が確認できる。単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」である。		
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース 2年	成績評価 方法	ラーニング・ポートフォリオ5%、実技による小テスト5%、実技による期末試験90%、期末試験はルーブリック評価で評価を行う。
教科書	童謡曲集、ミュージカル曲集より随時指定する。		
参考書	発声や歌唱に関する書物全般		
学生への要望	保育現場で必要な弾き歌いや身体表現を伴った歌唱表現が修得できるよう、授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。		
オフィスタイム	火曜日Ⅱ限、水曜日Ⅳ限 841研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスを用いたオリエンテーション。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	120
2	弾き歌い1	1年次で修得した弾き歌いのポイントを活かし、幼児歌唱曲の弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
3	弾き歌い2	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
4	弾き歌い3	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
5	弾き歌い4	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
6	弾き歌い5	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
7	弾き歌い6	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
8	弾き歌い7	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
9	身体的表現を伴った歌唱表現1	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
10	身体的表現を伴った歌唱表現2	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
11	身体的表現を伴った歌唱表現3	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
12	身体的表現を伴った歌唱表現4	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	身体的表現を伴った歌唱表現 5	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
14	身体的表現を伴った歌唱表現 6	幼児歌唱曲、ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
15	まとめ	期末試験に向け、Ⅲ期のまとめを行う。	Ⅲ期の振り返りを行い、期末試験の練習を行う。	120
16	歌唱指導法 1	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
17	歌唱指導法 2	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
18	歌唱指導法 3	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
19	歌唱指導法 4	様々な楽曲を取り上げ、体的表現を伴った歌唱表現を考察する。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
20	ミュージカル表現 1	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
21	ミュージカル表現 2	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
22	ミュージカル表現 3	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
23	ミュージカル表現 4	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
24	ミュージカル表現 5	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
25	ミュージカル表現 6	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
26	ミュージカル表現 7	既習曲から試験曲、伴奏者を決める。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
27	ミュージカル表現 8	試験曲についてディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
28	ミュージカル表現 9	試験曲についてディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
29	ミュージカル表現 10	試験曲についてディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
30	まとめ	期末試験に向け、Ⅳ期のまとめを行う。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。Ⅳ期の振り返りを行う。	120

科目名	ボーカルⅡ（副科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	金子 堅治		
開講期	通年		
授業概要	[授業の目的・ねらい] ボーカルⅠで修得した発声法を基に、保育現場における様々な楽曲に対応できる身体的表現を含んだ歌唱表現技術の習得をねらいとする。 [授業全体の内容の概要] テノール歌手としてリサイタル等の舞台出演の経験を活かし、個々の歌唱能力を伸ばすため、個人レッスン形式の授業で歌唱表現について指導する。 ボーカルⅠで修得した発声法を基に、Ⅲ期では保育現場で歌われている幼児用歌唱曲取り上げ、歌唱のポイントを解説しピアノ伴奏を付けながらの弾き歌いの技術を修得する。Ⅳ期においては、保育現場での歌唱指導法、幼児用歌唱曲やミュージカル楽曲を取り上げ、身体的表現と歌唱表現を修得する。 また各個人の音楽表現については、1年次から実施している表現についてのディスカッションで音楽表現技術を身につけていく（アクティブラーニング）。毎回の授業において目標管理カードを記入し、ラーニング・ポートフォリオとして学修成果を蓄積する。Ⅲ期に弾き歌いによる小テストを行い、小テスト終了後コメントによるフィードバック、期末実技試験においてはルーブリックによるフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2159		
達成目標	①正確な原語発音、腹式呼吸等の発声法を修得している。 ②ピアノ伴奏付け、表情を付けながら幼児用歌唱曲の弾き歌いができる。 ③幼児用歌唱曲やミュージカル楽曲において、身体的表現と歌唱表現を融合させた音楽表現ができる。 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、実技試験において確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」である。		
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース 2年	成績評価 方法	ラーニング・ポートフォリオ5%、実技による小テスト5%、実技による期末試験90%、期末試験はルーブリック評価で評価を行う。
教科書	童謡曲集、ミュージカル曲集より随時指定する。		
参考書	発声や歌唱に関する書物全般		
学生への要望	保育現場で必要な弾き歌いや身体表現を伴った歌唱表現が修得できるよう、授業での学びを振り返り主体的に予習復習に励むこと。		
オフィスタイム	火曜日Ⅲ～Ⅴ限 幼児教育学科（チャイルド・ミュージックコース）研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	シラバスを用いたオリエンテーション。 授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構えについて説明する。	本学科のシラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておく。	120
2	弾き歌い1	1年次で修得した弾き歌いのポイントを活かし、幼児歌唱曲の弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
3	弾き歌い2	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
4	弾き歌い3	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
5	弾き歌い4	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
6	弾き歌い5	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
7	弾き歌い6	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
8	身体的表現を伴った歌唱表現1	幼児歌唱曲にピアノ伴奏を付け、弾き歌いを行う。	歌唱にピアノ伴奏を付けた弾き歌いの練習をする。	120
9	身体的表現を伴った歌唱表現2	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
10	身体的表現を伴った歌唱表現3	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
11	身体的表現を伴った歌唱表現4	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
12	身体的表現を伴った歌唱表現5	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。	120
13	身体的表現を伴った歌唱表現6	幼児歌唱曲に身体的表現を付けながら歌う。幼児歌唱曲に合わせてそのように身体的表現を行えばよいか、ディスカッションで表現を考察する。	身体的表現の情報を収集し練習する。 試験曲の候補を選曲する。	120
14	Ⅲ期のまとめ1	期末試験に向け試験曲を決め、Ⅲ期のまとめを行う。	Ⅲ期の振り返りを行い、期末試験の練習を行う。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	Ⅲ期のまとめ2	期末試験に向け、Ⅲ期のまとめを行う。	Ⅲ期の振り返りを行い、期末試験の練習を行う。	120
16	歌唱指導法1	様々な歌唱曲を取り上げ、指導法を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
17	歌唱指導法2	様々な歌唱曲を取り上げ、指導法を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
18	歌唱指導法3	様々な歌唱曲を取り上げ、指導法を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
19	歌唱指導法4	様々な歌唱曲を取り上げ、指導法を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
20	歌唱指導法5	様々な歌唱曲を取り上げ、指導法を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
21	歌唱指導法6	様々な歌唱曲を取り上げ、指導法を考察する。	様々な楽曲の身体的表現の情報を収集し、身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
22	ミュージカル表現1	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
23	ミュージカル表現2	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
24	ミュージカル表現3	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
25	ミュージカル表現4	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
26	ミュージカル表現5	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。	120
27	ミュージカル表現6	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌い、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	身体的表現を伴った歌唱練習をする。また試験曲の候補を選曲しておく。	120
28	まとめ1	ミュージカル曲に身体的表現を付けながら歌う。試験曲を決め、ディスカッションをしながら身体的・音楽的表現を深めていく。	Ⅳ期の振り返りを行う。試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏者を決めておく。	120
29	まとめ2	決めた楽曲について伴奏者と演奏を行い、音楽表現を深めていく。音楽表現についてディスカッションを行う。	Ⅳ期の振り返りを行う。試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を深めていく。	120
30	まとめ3	決めた楽曲について伴奏者と演奏を行い、Ⅳ期実技試験へ向けて音楽表現を完成させる。音楽表現についてディスカッションを行う。	Ⅳ期の振り返りを行う。試験曲の歌唱練習を行う。また伴奏合わせを行い、アンサンブル及び音楽表現を完成させる。	120

科目名	器楽Ⅰ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年2単位 選択	
担当教員	會田 瑞樹			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 打楽器演奏における基礎力の強化と表現力の育成を目指す。さらに子どもたちと打楽器を結ぶ架け橋となるような奏者を目指し様々な表現への挑戦を実践する。 〔授業全体の内容の概要〕 小太鼓・鍵盤打楽器に大別しそれらの基礎的な奏法を体得する。その後は発展的なレパートリーを開拓して自らの表現となるように模索する。さらに打楽器のための作品の作曲へも視野を広げて、子どもたちへ打楽器をアプローチする方法を模索する。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 打楽器を用いて様々な演奏表現を展開し、子どもたちをはじめ、多くの人たちに親しみある音楽の魅力を伝えることのできる奏者の育成を目指す。さらに音楽家として多種多様な表現力を身に付け、打楽器演奏家としての可能性を追求することを目標とする。 また自ら楽曲を作曲/編曲を実現できる能力を習得することも視野に入れる。			
受講資格	短大幼児教育学科チャイルドミュージックコース1年生	成績評価 方法	前後期における実技試験90% 出席10%	
教科書	W.A.Mozart《Adagio in C kv356》（授業時に配布）W.F.Ludwig《Collection Drum solos》（Ludwig Music Publishing Company）			
参考書	A.J.Cirone《Portraits in Rhythm》（Bellwin mills）その他授業内で提示をする。			
学生への要望	日々の稽古が上達への鍵となる。また自身で演奏してみたい楽曲などの提案も期待する。習熟度に応じてより発展的にレパートリー研究を行う。			
オフィスタイム	木曜日授業開始前、終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	教科書の説明や年間授業の方針を確認する。	ルーディメント26通りの確認。	60
2	小太鼓を用いた上の発想・下の発想の思考と一つ打ちおよびルーディメント奏法について	有賀誠門先生が提唱した「上の発想・下の発想」を応用した演奏研究と全米ルーディメント協会(N.A.R.D)が指定した26通りの小太鼓の手順を学ぶ。	26のルーディメントの手順を確認する。配布した有賀誠門先生の論文に目を通しておく。	60
3	二つ打ち、オープンロール、クローズロール	「あげて・おろす」打楽器奏法を習得し小太鼓の基礎を学ぶ。	バチが左右均等に上がっているかどうか確認する。	60
4	ルーディメント奏法についてその1	前半13のルーディメントを習得する。	バラディッドゥル奏法を見直す。	60
5	ルーディメント奏法についてその2	後半13のルーディメントを習得する。	No.20のフラムタップは特に難度が高いので確認する。	60
6	実践的レパートリーの開拓に向けて 小太鼓編その1	Collection Drum solosの中から任意の楽曲を学ぶ。	ルーディメントを用いた楽曲の構造を理解する。	60
7	実践的レパートリーの開拓に向けて 小太鼓編その2	Collection Drum solosの中から任意の楽曲を学ぶ。	ルーディメントを用いた即興をイメージする。	60
8	実践的レパートリーの開拓に向けて 小太鼓編その3	小太鼓100曲集(網代景介/岡田知之著)を用いた初見試奏。	素早く譜読みする能力を身につける。	60
9	鍵盤打楽器を用いた上の発想・下の発想の思考と二本バチ	マレットを用いて「あげて・おろす」打楽器奏法を習得し鍵盤打楽器の基礎を学ぶ。	鍵盤打楽器に親しむ。	60
10	四本バチの多様な持ち方とそのサウンドの探求	四本バチの多様な持ち方を研究する。	自分にあったグリップを選択する。	60
11	実践的レパートリーの開拓に向けて 鍵盤編その1	W.A.Mozart《Adagio》を基軸に鍵盤打楽器を学ぶ。	モーツァルトのハーモニーの美しさを学ぶ。	60
12	実践的レパートリーの開拓に向けて 鍵盤編その2	W.A.Mozart《Adagio》を基軸に鍵盤打楽器を学ぶ。	モーツァルトのその他の作品もCD等で親しむ。	60
13	実践的レパートリーの開拓に向けて 鍵盤編その3	自ら選択した楽曲を基軸に鍵盤打楽器を学ぶ。	様々な演奏を聴く機会を設ける。	60
14	演奏へ向けての心得	試験に向けての実践的なプレ会を行い緊張との向き合い方を考える。	人前で演奏することの面白さを学ぶ。	60
15	身近な童謡を編曲する試み その1	《さくらさくら》を用いた即興演奏。	日本音階の魅力を知る。	60
16	身近な童謡を編曲する試み その2	《紅葉》を用いた即興演奏。	文部省唱歌の持つ魅力を知る。	60
17	身近な童謡を編曲する試み その3	自ら選択した楽曲を基軸に即興演奏。	自ら音楽を主体的に行う契機とする。	60
18	子どものための音楽作り その1	會田瑞樹作曲《音楽絵本組曲"ヨビオエン"》の楽譜を元に作曲の面白さを学ぶ。	テーマとしたい教材を探す。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	子どものための音楽作り その2	打楽器を用いた楽曲作りを模索する。	楽譜を書くことに慣れる。	60
20	子どものための音楽作り その3	打楽器を用いた楽曲作りを模索する。	楽譜化して演奏することの面白さを学ぶ。	60
21	多種多様な打楽器を用いた表現について その1	多様な打楽器を用いて独奏曲の演奏を模索する。	セッティングの大切さを学ぶ。	60
22	多種多様な打楽器を用いた表現について その2	多様な打楽器を用いて独奏曲の演奏を模索する。	自分にあったセッティングを素早く組み立てる。	60
23	世界的に有名な打楽器奏者のレパートリーを追って その1	安倍圭子先生による作曲作品の魅力を学ぶ。	奏者が作曲することの意味を考える。	60
24	世界的に有名な打楽器奏者のレパートリーを追って その2	高橋美智子先生、吉原すみれ先生、神谷百子先生のレパートリー楽曲を知る。	演奏家として活動することの魅力を知る。	60
25	実技試験にむけて その1	試験に向けての楽曲研究。	作品の構造を理解する。	60
26	実技試験にむけて その2	試験に向けての楽曲研究。	作品がどのような意味を持つか知る。	60
27	実技試験にむけて その3	試験に向けての楽曲研究。	作品を表現していくための稽古を深める。	60
28	実技試験にむけて その4	試験に向けての楽曲研究。	暗譜の方法を模索する。	60
29	実技試験にむけて その5	試験に向けての楽曲研究。	打楽器で様々な表現ができるように稽古を深める。	60
30	1年間のまとめ	今後演奏したい作品などを発見する。	日々の稽古を欠かさず行う。	60

科目名	器楽Ⅰ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
担当教員	熊谷 洋子			
開講期	通年			
授業概要	☒アイオリン演奏の基礎技術を学ぶとともに音楽表現の幅を広げる。幼児教育の現場で実践力となるようなレパートリーを、ソロ、デュオなど様々な形態で経験しながら増やしていく。 位置づけ・水準 CE2160			
達成目標	①ヴァイオリンの基礎技術を学び、様々なジャンルの曲を習得できる。 ②幼児教育の場で実践に使えるようなレパートリーを増やすことができる。 ③人前での演奏回数を増やすことで自己表現力が高まる。 見演奏ができるようになる。 の最低基準：①から③までの内容の7割は理解し、授業や演奏発表で確認できること。④は必須ではない。 リシーとの関係：「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「問題解決能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現力」			
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース1年	成績評価 方法	実技試験90％、平常点10％	
教科書	コレリ作曲12のソナタより終曲 ヘンデル作曲ソナタ第4番作品1-13 カール・フレッシュ スケールシステム カイザー練習曲			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	日々積み重ねの必要な練習と曲に対しての音楽性を深めていくこと。初見力もつけていくこと。			
オフィスタイム	月曜日Ⅰ限 場所：芸術館3階 合奏室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	これまでの学習状況を確認。	練習曲の譜読み。	120
2	基礎技術の学習2	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の仕方をアドバイス。作曲家のプロフィールを知る。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の譜読み。	120
3	基礎技術の学習3	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の仕方をアドバイス。作曲家が生きた時代を知る。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の譜読み。	120
4	基礎技術の学習4	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の仕方をアドバイス。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の譜読み。	120
5	基礎技術の学習5	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の仕方をアドバイス。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の譜読み。	120
6	基礎技術の学習6	基本的譜面の理解を深める。それに必要な練習の仕方をアドバイス。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の譜読み。	120
7	演奏表現の学習1	曲への理解を深めアーティキュレーションに気を付ける。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の表現力を高める。	120
8	演奏表現の学習2	曲への理解を深めアーティキュレーションに気を付ける。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の表現力を高める。	120
9	演奏表現の学習3	曲への理解を深めアーティキュレーションに気を付ける。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の表現力を高める。	120
10	演奏表現の学習4	曲への理解を深めアーティキュレーションに気を付ける。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の表現力を高める。	120
11	演奏表現の学習5	曲への理解を深めアーティキュレーションに気を付ける。暗譜の重要性を学ぶ。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の表現力を高める。暗譜に挑戦。	120
12	演奏表現の学習6	曲への理解を深めアーティキュレーションに気を付ける。暗譜の重要性を学ぶ。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の表現力を高める。暗譜に挑戦。	120
13	演奏表現の学習7	曲への理解を深めアーティキュレーションに気を付ける。暗譜の重要性を学ぶ。	練習曲の譜読み。音階練習。曲の表現力を高める。暗譜に挑戦。	120
14	演奏表現の学習8	アンサンブルに必要なことを学ぶ。共演者とのディスカッションで解釈の共有。	アンサンブルの練習。	120
15	演奏表現のまとめ	アンサンブルに必要なことを学ぶ。試験に向けて本番と同じような状況で演奏してみる。	試験に向けてさらに音楽への理解を深める。	120
16	演奏技術の学習1	新しい曲で演奏表現の幅を広げるためのアドバイス。基礎練習へのアドバイス。作曲家のプロフィールを知る。	新曲の譜読み。基礎練習。	120
17	演奏技術の学習2	新しい曲で演奏表現の幅を広げるためのアドバイス。基礎練習へのアドバイス。	新曲の譜読み。基礎練習。	120
18	演奏技術の学習3	新しい曲で演奏表現の幅を広げるためのアドバイス。基礎練習へのアドバイス。作曲家の生きた時代を知る。	新曲の譜読み。基礎練習。	120
19	演奏技術の学習4	新しい曲で演奏表現の幅を広げるためのアドバイス。基礎練習へのアドバイス。	新曲の譜読み。基礎練習。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	演奏技術の学習 5	新しい曲で演奏表現の幅を広げるためのアドバイス。基礎練習へのアドバイス。	新曲の譜読み。基礎練習。	120
21	演奏技術の学習 6	新しい曲で演奏表現の幅を広げるためのアドバイス。基礎練習へのアドバイス。	新曲の譜読み。基礎練習。	120
22	演奏表現の学習 1	新しい曲で演奏表現の幅を広げるためのアドバイス。基礎練習へのアドバイス。	新曲の譜読み。基礎練習。	120
23	演奏表現の学習 2	新しい曲で演奏表現の幅を広げるためのアドバイス。基礎練習へのアドバイス。	暗譜に挑戦。さらに演奏表現を深めるための練習。	120
24	演奏表現の学習 3	新しい曲で演奏表現の幅を広げるためのアドバイス。基礎練習へのアドバイス。	暗譜に挑戦。さらに演奏表現を深めるための練習。	120
25	演奏表現の学習 4	暗譜のための練習。アーティキュレーションに気を付ける。	暗譜に挑戦。さらに演奏表現を深めるための練習。	120
26	演奏表現の学習 5	暗譜の必要性を学ぶ。アーティキュレーションに気を付ける。	暗譜に挑戦。さらに演奏表現を深めるための練習。	120
27	演奏表現の学習 6	さらに演奏表現を深めるための学習。	アンサンブルの練習。共演者との音楽の共有。	120
28	演奏表現の学習 7	さらに演奏表現を深めるための学習。	アンサンブルの練習。共演者との音楽の共有。	120
29	演奏表現の学習 8	アンサンブルに必要なことを学ぶ。共演者とのディスカッションでさらに曲への理解を深める。	アンサンブルの練習。共演者との音楽の共有。	120
30	演奏表現のまとめ	アンサンブルに必要なことを学ぶ。試験に向けて本番と同じような状況で演奏してみる。	試験に向けて演奏表現を深める。	120

科目名	器楽Ⅱ（主科）	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員	會田 瑞樹			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 器楽Ⅰで会得した音楽的技術を用いて、さらなる音楽表現の習得と音楽のある生活について思考する。☑ 〔授業全体の内容の概要〕 音楽表現とは何か、社会と音楽はどのように関わっていくべきか思考する。☑ 〔試験に対する評価伝達〕 試験後の授業において総評と当該曲の演奏を再び行いその習熟度を高める。☑ 〔実務経歴〕 独奏打楽器奏者として日本はもとより世界中での演奏経験を持つ。日本現代音楽協会主催第9回現代音楽演奏コンクール"競楽IX"第二位入賞と同時にデビューし、300作品以上の新作初演を手がける"初演魔"の異名を持つ。第十回JFC作曲賞入選を得て作曲家としても活動。2020年、ヴィブラフォンソロリサイタル in OSAKAの成果に際して令和二年度大阪文化祭奨励賞受賞。☑ ☑ チャイルドミュージックコース専門科目(CE2261)			
達成目標	打楽器を用いて様々な演奏活動ができるように応用力を備えた技芸の向上を目指す。作曲に関しても多彩な音楽に耳を傾けることで、幼児教育の現場で様々な応用ができるスタイルの確立を目指す。また、音楽と社会のこれからのあり方を提言できるよう模索する。			
受講資格	短大幼児教育学科チャイルドミュージックコース2年生	成績評価 方法	前後期における実技試験90% 出席10%	
教科書	オーケストラスタディ、J.S.Bachの諸作品(授業時に配布)			
参考書	沼野雄司著「現代音楽史-闘争しつづける芸術のゆくえ」(中公新書)☑ 石合力著「響きをみがくー音響設計家 豊田泰久の仕事」(朝日新聞出版)☑ 青柳いづみこ著「〈対談〉音楽で生きていく! 10人の音楽家と語るこれからのキャリアデザイン」(アルテスパブリッシング)			
学生への要望	日々の稽古を大切にしながら、将来どのような活動を行なっていくか自分自身の目標を常に持ち続けること。			
オフィスタイム	木曜日授業開始前、終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	器楽Ⅰの反省会と器楽Ⅱに向けた説明。	器楽Ⅰで学んだことの復習。	60
2	オーケストラ・スタディその1	オーケストラスタディを学ぶ意味と打楽器におけるレパートリー	譜面を読み込み、当該曲を事前に聞いておく。	60
3	オーケストラ・スタディその2	オーケストラスタディを学ぶ意味と打楽器におけるレパートリー。主にスネアドラムを中心に学ぶ。	譜面を読み込み、当該曲を事前に聞いておく。	60
4	オーケストラ・スタディその3	オーケストラスタディを学ぶ意味と打楽器におけるレパートリー。リムスキーコルサコフ「シェヘラザード」を中心に学ぶ。	譜面を読み込み、当該曲を事前に聞いておく。	60
5	オーケストラ・スタディその4	オーケストラスタディを学ぶ意味と打楽器におけるレパートリー。小物打楽器の可能性について学ぶ。	譜面を読み込み、当該曲を事前に聞いておく。	60
6	オーケストラ・スタディその5	オーケストラスタディを学ぶ意味と打楽器におけるレパートリー。シンバルの可能性について学ぶ。	譜面を読み込み、当該曲を事前に聞いておく。	60
7	バッハとマリンバ その1	J.S.バッハをマリンバで学ぶ意味とその重要性。	4本マレットの独立性を高める。	60
8	バッハとマリンバ その2	J.S.バッハをマリンバで学ぶ意味とその重要性。対位法をマリンバで奏でる。	声部を聞き取ることを忘れない。	60
9	バッハとマリンバ その3	J.S.バッハをマリンバで学ぶ意味とその重要性。素早いパッセージを正確に弾く。	速さととられることなく楽句を感じる。	60
10	バッハとヴィブラフォン その1	J.S.バッハをマリンバで学ぶ意味とその重要性。ペダルを用いたバッハ演奏。	響きを自分の耳で聞き、調和を心がける。	60
11	バッハとヴィブラフォン その2	J.S.バッハをマリンバで学ぶ意味とその重要性。サラバンド等のゆったりとした舞曲を奏でる。	当時の音楽形式を理解する。	60
12	バッハとヴィブラフォン その3	J.S.バッハをマリンバで学ぶ意味とその重要性。ヴィブラフォンでの対位法に挑む。	声部を理解しながらペダルを用いる。	60
13	バッハとヴィブラフォン、マリンバ まとめ	J.S.バッハをマリンバで学ぶ意味とその重要性。バッハの音楽の魅力について考える。	バッハのオルガン曲をはじめ、他の作品にも耳を傾ける。	60
14	試験に向けて その1	試験曲の稽古を中心に取り組む。	日々の稽古が鍵となる。	60
15	試験に向けて その2	試験曲の稽古を中心に取り組む。	日々の稽古と本番の空気感を楽しむ。	60
16	試験を終えて	試験曲を再び演奏し、改めて作品と向き合う。	自分自身の演奏の向上の手応えをつかむ。	60
17	絵本「あらしのよるに」と音楽 その1	ある物語に対して音楽をどのようにつけるか考えてみる。	自分自身の興味のある物語を探す。	60
18	絵本「あらしのよるに」と音楽 その2	ある物語に対して音楽をどのようにつけるか考え、実践してみる。	思いついたことを五線譜に記す習慣を作る。	60
19	マルチ・パーカッションとはにか その1	音源、楽譜を中心に打楽器を複数並べて演奏するマルチパーカッションの作品を学ぶ。	楽曲に対して自分自身の意見を持つこと。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	マルチ・パーカッションとはなにか その2	打楽器を複数並べて演奏するマルチパーカッションの作品を実際に演奏してみる。	演奏したい楽曲をいくつか調べる。	60
21	北爪道夫作曲《side by side》を学ぶ その1	リズムの変容を学ぶ。	特殊な記譜についての読解力を深める。	60
22	北爪道夫作曲《side by side》を学ぶ その2	複数のリズムが絡み合いながら完成する声部を浮き立たせる。	マルチパーカッション特有の運動性を学ぶ。	60
23	北爪道夫作曲《side by side》を学ぶ その3	楽曲としての演奏力を深める。	マルチパーカッションの演奏の味わいを知る。	60
24	打楽器とは何か その1	打楽器の魅力とその歴史を学ぶ。	自分自身の演奏スタイルを確立する。	60
25	打楽器とは何か その2	現代音楽、クラシック、ジャズ...多彩な分野に広がる打楽器の世界を知る。	自分自身の演奏におけるこだわりを見つめる。	60
26	打楽器とは何か その3	これからの打楽器音楽の展望を学ぶ。	自分自身の演奏に自信を持つ。	60
27	こどもとおんがく その1	こどもたちと音楽の出会いにどのようなものが考えられるか学ぶ。	音楽家として音楽をどのように伝えていくか考えを深める。	60
28	こどもとおんがく その2	こどもたちと音楽が会えることで生まれる多様性を考える。	音楽を通して子どもとの交流がどのようにできるか考える。	60
29	音楽と社会	音楽と社会の関わりを考える。これまでに学習して来た様々な作品や歴史から、未来の音楽がどのように進み、社会にどのような働きかけができるのかを考える。	音楽と社会そして自分自身のあり方を模索する。	60
30	音楽の未来への展望	器楽Ⅰ、器楽Ⅱを通して学んだことを演奏やこれからの社会生活にどのように生かすかを考える。	社会と音楽がどのように関わっていくかを模索する。	60

科目名	リトミック	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員	小林 郁子			
開講期	通年			
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 幼稚園・保育園においてリトミックの指導を行う技術と、実践する力を身に付ける。 〔授業全体の内容の概要〕 指導者になるためのリズム運動と、年齢別の具体的な指導法、指導に必要な演奏法を、実技を通して指導する。また、幼稚園で20年以上、リトミック指導を継続している経験を元に、実際の子どもの発達に即した音楽的指導や子どもの反応、園の状況に応じた実践方法を指導する。 〔実務経歴〕1997年より、東京都の栄光乃園幼稚園において年少、年中、年長の保育課内リトミック指導を行なっている。また1999年より、リトミック研究センター指導者養成校、月例研修会において、リトミック指導者養成クラスにて指導を行っている。 〔フィードバックの方法〕認定試験終了後にフィードバックを行います。			
達成目標	〔授業修了時の達成課題〕 ①幼稚園保育園において、リトミック指導を行なうことができる②リトミック研究センターが実施する、幼稚園・保育園のためのリトミック2級指導資格、1級指導資格を得る試験に合格する			
受講資格	短大幼児教育学科チャイルドミュージックコース2年生	成績評価 方法		
教科書	幼稚園、保育園のためのリトミック3歳児用、4歳児用、5歳児用（リトミック研究センター）			
参考書				
学生への要望	動きやすい服装で出席してください			
オフィスタイム	水曜日授業開始前、終了後			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	リズム-1	リトミックについて リトミック研究センターの紹介 リトミックの経験	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
2	リズム-2 ティーチング-1	基礎的な動き 基礎リズム ティーチング3歳児-1（1学期）	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
3	リズム-3 ティーチング-2	基礎的な動き 基礎リズム ステップ ティーチング3歳児-2（1学期）	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
4	リズム-4 ティーチング-3	基礎的な動き 基礎リズム ステップ ティーチング3歳児-3（1学期）	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
5	リズム-5 ティーチング-4	基礎リズム ステップ 複雑なリズム ティーチング3歳児-4（1学期）	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
6	リズム-6 ティーチング-5	基礎リズム ステップ 複雑なリズム ティーチング3歳児-5（2学期）	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
7	リズム-7 ティーチング-6	基礎リズム ステップ 拍子-1 ティーチング3歳児-6（2学期）	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
8	リズム-8 ティーチング-7	基礎リズム ステップ 拍子-2 ティーチング3歳児-7（2学期）	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
9	リズム-9 ティーチング-8	基礎リズム リズムフレーズ-1 ティーチング3歳児-8（2学期）	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
10	リズム-10 ティーチング-9	認定試験公示 試験課題練習 リズムフレーズ-2 ティーチング3歳児-9（3学期）	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
11	リズム-11 ティーチング-10	試験課題練習 リズムカノン-1 ティーチング3歳児-10（3学期）	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
12	リズム-12 ティーチング-11	試験課題練習 リズムカノン-2 ティーチング3歳児-11（3学期）	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
13	リズム-13 ティーチング-12	試験課題練習 J=ダルクローズについて-1 ティーチング3歳児-12（3学期）	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
14	リズム-14 ティーチング-13	試験課題練習 ティーチング3歳児-13（年間を通してのまとめ）	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
15	資格認定試験	リトミック研究センター 幼稚園保育園のためのリトミック2級 資格認定試験	指導書4歳児の課題曲を練習する	120
16	リズム-15 ティーチング-14	リズムフレーズ-3 ティーチング4歳児-1（1学期）	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
17	リズム-16 ティーチング-15	リズムフレーズ-4 ティーチング4歳児-2（1学期）	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
18	リズム-17 ティーチング-16	リズムフレーズ-5 ティーチング4歳児-3（2学期）	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
19	リズム-18 ティーチング-17	リズムカノン-3 ティーチング4歳児-4（2学期）	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	リズム-19 ティーチング-18	リズムカノン-4 ティーチング4 歳児-5 (3学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
21	リズム-20 ティーチング-19	リズムカノン-5 ティーチング4 歳児-6 (3学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
22	リズム-21 ティーチング-20	リズムカノン-6 ティーチング4 歳児-7 (年間を通してのまとめ)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
23	リズム-22 ティーチング-21	複リズム-1 ティーチング5 歳児-1 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
24	リズム-23 ティーチング-22	複リズム-2 ティーチング5 歳児-2 (1学期)	自分の課題曲を練習 リズム運動の復習	120
25	リズム-24 ティーチング-23	試験公示 複リズム-3 ティーチング5 歳児-3 (2学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
26	リズム-25 ティーチング-24	試験課題練習 複リズム-4 ティーチング5 歳児-4 (2学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
27	リズム-26 ティーチング-25	試験課題練習 ティーチング5 歳児-5 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
28	リズム-27 ティーチング-26	試験課題練習 ティーチング5 歳児-6 (3学期)	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
29	リズム-28 ティーチング-27	試験課題練習 ティーチング5 歳児-7 (年間を通してのまとめ) J=ダルクローズについて-2	自分の課題曲を練習 試験課題練習	120
30	資格認定試験	リトミック研究センター 幼稚園保育園のためのリトミック1級 資格認定試験		0

科目名	ハンドベル演習	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択	
担当教員	横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	ハンドベル（イングリッシュ・ハンドベル）は様々な演奏法により多彩な音楽表現ができる楽器である。ハンドベルの多様な奏法の基礎的な知識や技術を身につけ、美しい音の響きで表現するための演奏法を学ぶ。また、アンサンブルを通して音楽表現力を高め、個人の責任と他との協調を大切にする態度を養い、コミュニケーション能力を身につけることをねらいとする。授業では音楽表現についてディスカッションをしながら曲を創り上げることで、問題解決能力も養う。また、地域貢献活動など学外での演奏を通して子どもたちと交流し、総合的な実践力を身につける。 ☒ 演奏発表後や最終授業で、フィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準 CE2263			
達成目標	目標は ①ハンドベルの基本的な取り扱い方や奏法、音楽的知識を身につけている。☒ ②美しい響きや表現を目指すために、豊かな感性や想像力を持って積極的に演奏に取り組むことができる。☒ ③個人の責任を果たし、他と協調しながらコミュニケーション能力を高めることができる。☒ ④保育現場でも役立つような音楽創りの力を身につけていることが確認できる。☒ 単位認定の最低基準：①～④の内容の7割を理解し、授業や演奏において確認できること。☒ ディプロマ・ポリシーとの関係：「保育の方法と技術力」「表現とコミュニケーション能力」「問題解決能力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」			
受講資格	幼児教育学科チャイルド・ミュージックコース2年	成績評価 方法	平常点50％、成果発表30％、課題提出20％	
教科書	進度に合わせて、その都度指示。			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	手袋・筆記用具・楽譜を必ず持参する。ハンドベルに適した服装にし、長い髪の毛は後ろで結ぶこと。欠席・遅刻をしないようにすること。			
オフィスタイム	水曜日Ⅳ限 金曜日Ⅲ限 場所：芸術館3F No.1 幼児教育学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	基礎技術の学習1	ハンドベルの基本的な扱い方と、基礎的な技術の習得を図る。	楽譜の読み方やリズムへの理解を深めておく。	30
2	基礎技術の学習2	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。	30
3	基礎技術の学習3	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。	30
4	基礎技術の学習4	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。	30
5	基礎技術の学習5	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。	30
6	基礎技術の学習6	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。	30
7	基礎技術の学習7	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	30
8	基礎技術の学習8	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	30
9	基礎技術の学習9	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習	30
10	基礎技術の学習10	曲を用いて基礎的な技術や奏法の習得を図る。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	30
11	演奏表現の学習1	演奏発表に向け、アンサンブル力を高める。アサインメント（ベルの割り振り）を考え、実践する。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	30
12	演奏表現の学習2	演奏発表に向け、音楽創りのためのディスカッションをしながら練習する。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	30
13	演奏表現の学習3	演奏発表に向け、音楽創りのためのディスカッションをしながら練習する。	楽譜を整え、必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	30
14	演奏表現の学習4	演奏発表に向け、音楽創りのためのディスカッションをしながら練習する。	演奏発表にむけた練習。	60
15	演奏表現の学習とまとめ	演奏発表を行う。その演奏に対するフィードバックやディスカッションを行い、学外発表に向けて更なる演奏表現の向上を目指した練習を行う。	必要な点をノートに整理しておく。譜読みの復習。	60
16	器楽合奏の学習1	学内外での演奏発表に向けた練習。保育現場で使用する楽器や他の楽器とのアンサンブルの実践と創作。	保育現場で使用する楽器を使って幼児曲のアレンジを考える。保育現場での指導法を考える。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
17	器楽合奏の学習 2	学内外での演奏発表に向けた練習。保育現場で使用する楽器や他の楽器とのアンサンブルの実践と創作。	保育現場で使用する楽器を使って幼児曲のアレンジを考える。保育現場での指導法を考える。	30
18	器楽合奏の学習 3	学内外での演奏発表に向けた練習。保育現場で使用する楽器や他の楽器とのアンサンブルの実践と創作。	保育現場で使用する楽器を使って幼児曲のアレンジを考える。保育現場での指導法を考える。	30
19	器楽合奏の学習 4	学内外での演奏発表に向けた練習。保育現場で使用する楽器や他の楽器とのアンサンブルの実践と創作のまとめ。	授業のまとめを行い、保育現場での指導法を考える。	30
20	演奏技術の学習 1	学内外での演奏発表に向けた練習。トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
21	演奏技術の学習 2	学内外での演奏発表に向けた練習。トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
22	演奏技術の学習 3	学内外での演奏発表に向けた練習。トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上を目指し練習を行う。授業での課題を、次週までにできるようにする。	30
23	演奏技術の学習 4	学内外での演奏発表に向けた練習。トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
24	演奏技術の学習 5	学内外での演奏発表に向けた練習。トーンチャイムの基本的奏法の習得。	譜読みをしっかりと行い、基礎的な技術の向上に向け練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
25	演奏表現の学習 1	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
26	演奏表現の学習 2	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、基礎的な技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
27	演奏表現の学習 3	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
28	演奏表現の学習 4	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	30
29	演奏表現の学習 5	学内外での演奏発表に向けた練習。演奏表現の向上に向け、ディスカッションをしながら表現を創意工夫する。	楽曲への理解を深め、演奏技術と表現力の更なる向上を目指し練習を行う。授業での課題を次週までにできるようにする。	60
30	演奏表現の学習 6 とまとめ	演奏発表を行う。ディスカッションを通じて演奏を振り返り、1年間の学習のまとめとしてのフィードバックを行う。	演奏発表に向けた練習を行う。	60

科目名	ダンスパフォーマンスⅠ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
担当教員	朝日 雅宏			
開講期	Ⅱ			
授業概要	幼児教育の場で応用できるダンスの要素を盛り込んだ遊びや指導を実践を目指し、ストレッチ運動やステップ、バレエの要素、コンビネーションなどを学び、自身の身体を操る基礎的な能力を体得していきます。			
達成目標	ダンスの基礎的な技法を学び、ダンス表現における基本的な技術を身につける。			
受講資格	幼児教育学科 チャイルド・ミュージックコース 1年	成績評価 方法	授業への参加姿勢、理解度、上達度、表現力で50点、課題発表を50点とし、総合的に評価	
教科書	なし			
参考書	随時参考資料プリントを配布			
学生への要望	授業は初歩的なことから行っていくしますので、初心者でも心配ありません。失敗を恐れずにダンスの魅力を楽しんでください。 レッスンに際しバレエシューズやジャズダンスシューズを用意して下さい（ダンスショップやインターネット通販で数1,000円程度から購入できます）。服装は動きやすいものを着用すること。その他注意事項については初回講義の際に説明します。			
オフィスタイム	毎回のレッスン前後の時間。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方の説明。評価方法の説明。受講学生のダンス経験等の調査。授業内容等の質疑応答		0
2	ストレッチ（柔軟体操） バーレッスン フロアレッスン コンビネーションダンス	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得 バーレッスンによるダンスでの基礎的な体の使い方の習得 フロアレッスンによる 自身の体でしか支えることのできない状況での各種パ（型）の習得 各種パ（型）の組み合わせによる簡単な振付の習得		0
3	ストレッチ（柔軟体操） バーレッスン フロアレッスン コンビネーションダンス	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得 バーレッスンによるダンスでの基礎的な体の使い方の習得 フロアレッスンによる 自身の体でしか支えることのできない状況での各種パ（型）の習得 各種パ（型）の組み合わせによる簡単な振付の習得		0
4	ストレッチ（柔軟体操） バーレッスン フロアレッスン コンビネーションダンス	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得 バーレッスンによるダンスでの基礎的な体の使い方の習得 フロアレッスンによる 自身の体でしか支えることのできない状況での各種パ（型）の習得 各種パ（型）の組み合わせによる簡単な振付の習得		0
5	ストレッチ（柔軟体操） バーレッスン フロアレッスン コンビネーションダンス	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得 バーレッスンによるダンスでの基礎的な体の使い方の習得 フロアレッスンによる 自身の体でしか支えることのできない状況での各種パ（型）の習得 各種パ（型）の組み合わせによる簡単な振付の習得		0
6	ダンス課題①-1	5回目までのストレッチ、筋トレ、バー/フロアレッスン を、基礎技術強化のために短めに行う 5回目までの基礎力習得の成果を踏まえ、課題ダンス①を 習得（振付はユニゾン。全体の約3分の1の振付を習得）。		0
7	ダンス課題①-2	引き続き、ストレッチ、筋トレ、バー/フロアレッスン を、基礎技術強化のために短めに行う 課題ダンス①を習得（続きの約3分の1の振付を習得）		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	ダンス課題①-3	引き続き、ストレッチ、筋トレ、バー/フロアレッスンを、基礎技術強化のために短めに行う 課題ダンス①を習得（残りの約3分の1の振付を習得、振付完成）		0
9	ダンス課題①-4	引き続き、ストレッチ、筋トレ、バー/フロアレッスンを、基礎技術強化のために短めに行う 課題ダンス①を習得（習熟）		0
10	ダンス課題②-1	引き続き、ストレッチ、筋トレ、バー/フロアレッスンを、基礎技術強化のために短めに行う 課題ダンス②を習得（振付はユニゾン。全体の約3分の1の振付を習得）		0
11	ダンス課題②-2	引き続き、ストレッチ、筋トレ、バー/フロアレッスンを、基礎技術強化のために短めに行う 課題ダンス②を習得（続きの約3分の1の振付を習得）		0
12	ダンス課題②-3	引き続き、ストレッチ、筋トレ、バー/フロアレッスンを、基礎技術強化のために短めに行う 課題ダンス②を習得（残りの約3分の1の振付を習得、振付完成）		0
13	ダンス課題②-4	引き続き、ストレッチ、筋トレ、バー/フロアレッスンを、基礎技術強化のために短めに行う 課題ダンス②を習得（習熟）		0
14	ダンス課題①②	引き続き、ストレッチ、筋トレ、バー/フロアレッスンを、基礎技術強化のために短めに行う 課題ダンス①②習熟の強化		0
15	各種基礎技術習得の発表 課題ダンス①②の発表	各種基礎技術習得の度合いを一人ずつ発表 課題ダンス①②のグループ発表		0

科目名	ダンスパフォーマンスⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員	朝日 雅宏			
開講期	Ⅲ			
授業概要	ダンスパフォーマンスⅠで習得した ステップ、バレエの要素、コンビネーションなど自身の身体を操る基礎的な能力を基に振り付け構成等幅広い要素を学ぶ。			
達成目標	ダンスの基礎的な技法の習得を強化しダンス表現における応用的技術を身につける。 柔軟性、体力、技術の向上。質的内容の熟練度を上げる。 ダンスの振り付け、ステップなど幼児にも教えられるスキルを身につける。 初歩的な振り付けや構成ができるような力を養う。			
受講資格	幼児教育学科 チャイルド・ミュージックコース 2年	成績評価 方法	授業への参加姿勢、理解度、上達度、表現力で50点、課題発表を50点とし、総合的に評価	
教科書	なし			
参考書	随時参考資料プリントを配布			
学生への要望	ダンスパフォーマンスⅠの発展、応用です。楽しみながら技術を習得してください。 毎授業振り付けを行います。その週に学んだことを忘れないように練習しましょう。			
オフィスタイム	毎回の授業前後の時間。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方の説明。評価方法の説明。授業内容等の質疑応答、ダンスパフォーマンスⅠのフィードバック	その週に学んだ技術を反復練習する。	0
2	ストレッチ（柔軟体操） 筋力アップトレーニング フロアレッスン コンビネーションダンス	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得 ターンやバトマンなど技術的科目の練習 フロアレッスンによる自身の体でしか支えることのできない状況での各種ﾊﾞｰ（型）の習得 各種ﾊﾞｰ（型）の組み合わせによる簡単な振付の習得	その週に学んだ技術を反復練習する。	0
3	ストレッチ（柔軟体操） 筋力アップトレーニング フロアレッスン コンビネーションダンス	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得 ターンやバトマンなど技術的科目の練習 フロアレッスンによる自身の体でしか支えることのできない状況での各種ﾊﾞｰ（型）の習得 各種ﾊﾞｰ（型）の組み合わせによる簡単な振付の習得	その週に学んだ技術を反復練習する。	0
4	ストレッチ（柔軟体操） 筋力アップトレーニング フロアレッスン コンビネーションダンス	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得 ターンやバトマンなど技術的科目の練習 フロアレッスンによる自身の体でしか支えることのできない状況での各種ﾊﾞｰ（型）の習得 各種ﾊﾞｰ（型）の組み合わせによる簡単な振付の習得	その週に学んだ技術を反復練習する。	0
5	ストレッチ（柔軟体操） フロアレッスン コンビネーションダンス	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得 ターンやバトマンなど技術的科目の練習 振り付け 1	その週に学んだ技術を反復練習する。	0
6	ストレッチ（柔軟体操） フロアレッスン コンビネーションダンス 振り付け	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得 ターンやバトマンなど技術的科目の練習 振り付け 2	その週に学んだ技術を反復練習する。	0
7	ストレッチ（柔軟体操） フロアレッスン コンビネーションダンス 振り付け	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得 ターンやバトマンなど技術的科目の練習 振り付け 3	その週に学んだ技術を反復練習する。	0
8	ストレッチ（柔軟体操） フロアレッスン コンビネーションダンス 振り付け	柔軟性強化のためのストレッチや各種筋トレの仕方の習得 ターンやバトマンなど技術的科目の練習 振り付け 4	その週に学んだ技術を反復練習する。	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	ストレッチ フロアレッシン 筋力アップトレーニング ダンス課題①	ストレッチ、筋トレ、フロアレッシンを技術強化のために短めに行う 課題ダンス①を習得（残りの約3分の2の振付を習得、振付完成）	その週に学んだ技術を反復練習する。	0
10	ストレッチ フロアレッシン 筋力アップトレーニング ダンス課題②	ストレッチ、筋トレ、フロアレッシンを技術強化のために短めに行う 課題ダンス③を習得（残りの約3分の3の振付を習得、振付完成）	その週に学んだ技術を反復練習する。	0
11	ストレッチ フロアレッシン 筋力アップトレーニング ダンス課題③	ストレッチ、筋トレ、フロアレッシンを技術強化のために短めに行う 課題ダンス③を習得（続きの約3分の1の振付を習得、振付完成）	その週に学んだ技術を反復練習する。	0
12	ストレッチ フロアレッシン 筋力アップトレーニング 卒研の振り付けと調整	ストレッチ、筋トレ、フロアレッシンを技術強化のために短めに行う 卒業研究の振り付けとの調整	その週に学んだ技術を反復練習する。	0
13	ストレッチ フロアレッシン 筋力アップトレーニング 卒研の振り付けと調整	ストレッチ、筋トレ、フロアレッシンを技術強化のために短めに行う 卒業研究の振り付けとの調整	その週に学んだ技術を反復練習する。	0
14	ストレッチ フロアレッシン 筋力アップトレーニング 卒研の振り付けと調整	ストレッチ、筋トレ、フロアレッシンを技術強化のために短めに行う 卒業研究の振り付けとの調整	その週に学んだ技術を反復練習する。	0
15	各種応用技術取得の発表 課題ダンス①②の発表	各種応用技術習得の度合いを一人ずつ発表 課題ダンス①②のグループ発表	その週に学んだ技術を反復練習する。	0

科目名	ミュージカル表現Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	廣瀬 純		
開講期	Ⅱ		
授業概要	幼児教育の現場においても応用できる舞台表現方法を、ミュージカルの手法を通じ自らの企画や演技を通して学ぶ。		
達成目標	次年度行われる卒業制作公演に向けての企画内容、作業分担などの準備スケジュールを整える。		
受講資格		成績評価 方法	毎回の講義において求める200字程度のコメント（70％）と最終講義後に提出する800字～1200字のレポート（30％）の合計を総合して評価する。
教科書	特になし。		
参考書	授業の中で必要に応じて紹介する場合がある。		
学生への要望	疑問点が生じた場合、授業のなかや毎回提出するコメントの文中で積極的な質問をしていただくことを希望します。		
オフィスタイム	毎回授業終了直後、同一教室内にて行う。また希望に応じ授業直前の時間帯にも設ける。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	本講座の目的とオーバービュー、達成目標の説明。授業の進め方に関する説明。		0
2	ミュージカル表現概論 1	簡単なミュージカル史の解説、代表的なミュージカル作曲家や作品の紹介など。		0
3	ミュージカル表現概論 2	英国の演劇学校などで行われている手法を用いた身体と声のワークショップ。少し動きやすい服装で。		0
4	演劇ワークショップⅠ	英国の演劇学校などで行われている手法を用いた身体と声のワークショップ。少し動きやすい服装で。		0
5	演劇ワークショップⅡ	前回授業に追加するワークショップ。言葉以外でのコミュニケーション能力を体験する。		0
6	テキスト音読Ⅰ	日本語の「音」を正しく発音する演習。		0
7	テキスト音読Ⅱ	日本語の言葉や文章の「意味」を相手に伝える演習。		0
8	舞台・制作用語の基礎知識	舞台上や舞台作品制作のなかで使用される用語解説と、使用事例の紹介。		0
9	ダイレクション・スキル1	演劇的な面白さ、美学的な考察。（映像資料などを用いて）		0
10	ダイレクション・スキル2	演出とは何かについて、ディスカッションを交えながら考察。		0
11	ダイレクション・スキル3	演出演習として、簡単なスキットを実践。		0
12	キャストイングと台詞入れ	脚本に登場するキャラクター研究と台詞の実践。		0
13	演技演習 1	演技に関する分析と実践による研究。		0
14	演技演習 2	演技に関する分析と実践による研究。		0
15	演技演習 3	演技に関する分析と実践による研究。		0

科目名	ミュージカル表現Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 必修
担当教員	廣瀬 純		
開講期	Ⅲ		
授業概要	2年間の成果発表としての舞台公演を想定し、オリジナリティを育みながら児童にも伝わりやすい音楽的かつ演劇的表現を学ぶ。		
達成目標	自分たちの手でミュージカル作品の企画、制作し上演する、もしくは成果物（音源制作や動画制作）を作成する。		
受講資格		成績評価 方法	毎回の講義において求める200字程度のコメント（70％）と授業内での発表完成度（30％）の合計を総合して評価する。
教科書	特になし。		
参考書	授業の中で必要に応じて紹介する場合がある。		
学生への要望	疑問点が生じた場合、授業のなかや毎回提出するコメントの文中で積極的な質問をしていただくことを希望する。		
オフィスタイム	毎回授業終了直後、同一教室内にて行う。また希望に応じ授業直前の時間帯にも設ける。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	演劇プロデュース研究 1	舞台作品の上演に必要な衣装や道具、印刷物などについての考察と立案、役割分担。	ミュージカル表現Ⅰで学んだことをまとめておく	0.3
2	演劇プロデュース研究 2	ステージの規模や対象に応じたバブリシティや観客動員についての事例研究と計画。	観客の必要性と重要性について考察しまとめておく	0.3
3	演劇プロデュース研究 3	市民ミュージカル公演制作を例にリスクマネジメント及び問題解決の手法を学ぶ。	「リスクマネジメント」の意味について調べておく	0.25
4	舞台表現研究 1	上演作品の音楽構成や、それにもなう作曲、ダンス構成などの連携確認作業。	成果物となる音源（または動画）の全体像を学生同士で共有しておく	0.3
5	舞台表現研究 2	制作予定作品研究（戯曲又は歌詞の研究）	前回の講義を受けて、さらに表現内容について吟味する	3
6	舞台表現研究 3	役割分担者との連携による作品研究と実践準備。	前回の講義を受けて、さらに表現内容について吟味し、当初議論した「完成度」を高めるための実践を行う	0.3
7	舞台作品制作演習 1	上演日程立案と、各人の役割分担と作業進捗状況の確認し音楽（歌）、ダンス、芝居の完成度を上げるプラン立案。	作品のデモ版制作を開始し、発生する問題点を整理する。	0.25
8	舞台作品制作演習 2	作品分析と台詞表現の研究。	前回講義でまとめた問題点の整理と解決を試みる。	0.25
9	舞台作品制作演習 3	制作分担毎の脚本分析と台詞、音楽、ダンス、芝居の研究と実践。	前回講義でまとめた問題点の整理と解決を試みる。	0.25
10	舞台作品表現実践 1	実際にステージで発表することを想定した実践演習、問題点の発見。	講義で想定された内容に基づいて、自分の役割を時系列でまとめておく。	0.25
11	舞台作品表現実践 2	ステージ制作演習で立てたプランに則った録音実践、問題点の解決。	講義で示された録音（録画）の工程を確認しておく	0.25
12	舞台作品表現実践 3	実践演習まとめとディスカッション。	実践演習3回の振り返りをノートにまとめる	0.5
13	舞台表現のまとめと音源制作 1	各人の役割分担と連携による成果物（録音物または録画物）の発表と補足修正ディスカッション パート 1	ディスカッションの内容をまとめて次の授業準備につなげる	0.25
14	舞台表現のまとめと音源制作 2	各人の役割分担と連携による成果物（録音物または録画物）の発表と補足修正ディスカッション パート 2	前回授業を受け、完成度を高める策を講じる	0.25
15	舞台表現のまとめと音源制作 3	発表に基づく各人の分析をまとめ卒業制作へ役立てる準備を整える。	完成した成果物を制作者同士が共有し学内外へ示す手立てをとる。	0.5

科目名	ミュージカル演習	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択	
担当教員	横溝 聡子			
開講期	Ⅳ			
授業概要	本科目では卒業研究と連動させた科目であり、音楽、歌、踊り、芝居を融合させた総合舞台表現であるミュージカル制作を行う。卒業研究での振り返りを基に、キャスト・スタッフの課題解決をねらいとする。授業では卒業研究のキャストの身体表現、音楽表現の考察、スタッフの舞台製作、キャスト、スタッフの共同ディスカッションで互いの問題を解決しながら、ミュージカル作品を作り上げていく。毎時間の学修ポートフォリオによるフィードバック、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2268			
達成目標	目標は ①キャストの身体表現、音楽表現、スタッフの造形的表現の基礎技術が身につけていることが確認できる。☑ ②キャスト・スタッフの共同作業において、問題解決能力を身につけていることが確認できる。☑ ③幼児を対象にした音楽的表現、造形的表現が身につけていることが確認できる。☑ 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、授業や研究発表において確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の方法と技術力」「表現力とコミュニケーション能力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」「音楽表現能力」である。			
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	平常点（興味・関心、意欲、態度、創意工夫、協調性）80％、学修ポートフォリオ20％	
教科書	ミュージカル演目が決定後指定する。			
参考書	ミュージカル制作に関する書籍			
学生への要望	研究倫理を十分に理解し、ルールを決めて協調性を持って共同作業を行うこと。			
オフィスタイム	横溝・深谷：水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅲ限 No.1幼児教育学研究室 朝日：金曜日昼休み、放課後 No.1幼児教育学研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス 横溝・深谷・朝日	授業計画、授業内容、評価内容、授業への心構え、教科書について説明を行う。	シラバスを見て、授業内容、評価内容、スケジュールを把握しておくこと。	60
2	通し稽古・舞台製作 1 横溝・深谷・朝日	もみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
3	通し稽古・舞台製作 2 横溝・深谷・朝日	もみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
4	もみじ会発表振り返り 横溝・深谷・朝日	もみじ会発表についてディスカッションを行う。	もみじ会発表の振り返りをする。	60
5	音楽・身体表現稽古・舞台製作 1 横溝・深谷・朝日	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を確認しキャストは音楽・身体表現稽古、スタッフは舞台製作に取り組む。	修正点について考察する。	60
6	音楽・身体表現稽古・舞台製作 2 横溝・深谷・朝日	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を確認しキャストは音楽・身体表現稽古、スタッフは舞台製作に取り組む。	修正点について考察する。	60
7	音響機器研究 1 横溝・深谷・朝日	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を基に、音響・照明のシミュレーションを考察する。	音響・照明機器について情報を収集する	60
8	音響機器研究 2 横溝・深谷・朝日	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を基に、音響・照明のシミュレーションを考察する。	音響・照明機器についてのプランを考える。	60
9	立ち稽古・舞台製作 1 横溝・深谷・朝日	修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
10	立ち稽古・舞台製作 2 横溝・深谷・朝日	修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
11	立ち稽古・舞台製作 3 横溝・深谷・朝日	修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
12	通し稽古・舞台製作 1 横溝・深谷・朝日	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	60
13	通し稽古・舞台製作 2 横溝・深谷・朝日	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	60
14	通し稽古・舞台製作 3 横溝・深谷・朝日	卒研リハーサルを振り返り修正を行う。	振り返りを基に完成度をチェックする。	60
15	まとめ、通し稽古・舞台製作 4 横溝・深谷・朝日	ミュージカルの全体的な最終点検を行う。	振り返りを基に最終点検を行う。	60

科目名	音響・舞台照明技術研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択	
担当教員	草薙 潤一			
開講期	Ⅱ			
授業概要	舞台制作において、舞台上の表現者を支える音楽、舞台、音響や照明等の基礎知識を学び習得する。☑ 特に、音楽制作ソフトウェアを用いた音楽制作の基礎的な操作を習得し、DTMでの作曲の基礎を学ぶ。			
達成目標	舞台の音響・照明に関する基礎的な知識を習得し、舞台づくりに必要な知識を習得する。☑ また、音楽ソフトウェアを使った簡単な音声・音楽編集や作曲を行うことができる。			
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価 方法	授業への出席(60点)および課題の提出(40点)により評価を行う。	
教科書	特にありません。			
参考書	事前に準備する必要はありません。			
学生への要望	日常的に創作舞台や表現への関心を持って授業に取り組んでほしい。☑ 授業時間以外にも積極的に舞台や音楽、PCに触れる時間を持つことを望みます。また、ミュージカル演習と関連する科目になるため、ミュージカル演習を受講希望の学生は、この科目を受けることが望ましい。			
オフィスタイム	授業前後の休み時間を利用して、該当教室にて実施。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	授業の概要についての説明	授業内容を確認しノートにまとめる。	30
2	舞台の基礎知識	音響・照明・舞台装置の基礎知識	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
3	DTMの基礎知識	D T Mの基礎知識（M I D I など）、音楽制作ソフトウェアについて	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
4	DTMの基本操作	音楽制作ソフトウェア（Cubase）、の基本的な操作	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
5	DTM操作演習（編集）1	オーディオデータの録音と編集	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
6	DTM操作演習（編集）2	オーディオデータの録音と編集、加工、書き出し	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
7	DTM操作演習（編集）3	オーディオデータの編集課題	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
8	DTM操作演習（打込）1	打ち込み音楽制作の基礎（V S Tインストゥルメント、M I D I など）	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
9	DTM操作演習（打込）2	打ち込み音楽作成時の基本操作	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
10	DTM操作演習（打込）3	外部機器を使ったM I D I データの入力、クオンタイズなどの操作	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
11	DTM作曲演習 1	課題に沿ったD T M作曲の演習（「ミュージカル演習」との連携確認）	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
12	DTM作曲演習 2	課題に沿ったD T M作曲の演習	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
13	DTM作曲演習3	課題に沿ったD T M作曲の演習	授業内容を確認しノートにまとめる。	60
14	DTM作曲演習 4	課題に沿ったD T M作曲の演習	授業内容を確認しノートにまとめる。☑ 成果発表の準備をする。	60
15	成果発表、クロージング	成果発表、講評	授業内容のまとめをおこないノートにまとめる。	60

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員	一柳 智子			
開講期	通年			
授業概要	建学の精神である「尊敬・責任・自由」の理念を追求し、グループ活動での協調性を大切にし、各人が積極的に表現運動に関わる活動すること。作品制作に関しては、お互いのアイディアを出し合い、発表会や論文の提出に向け、共同作業での実践力を身に付ける。☑ 5月と10月に、第一回論文の書き方指導、第二回論文の書き方指導を1コマずつ行うこと。☑ 第一回目（5月）の論文の書き方指導の内容に、研究倫理について学ぶこと。☑ 位置づけ・水準 CE2270			
達成目標	1. 保育者に必要な協調性およびグループをまとめる能力の養成。☑ 2. 幼児教育における身体表現の開発を目的とした運動経験の指導力の養成。☑ 3. 自己の心身の健康を意識すること及び幼児の心身の健康育成の指導のための知識と経験を得る。☑ 単位認定の基準は：内容の7割を理解していること。☑ ディプロマ・ポリシーとの関係：総合的計画力、人間性と規範意識、問題解決力			
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	平常点60点（取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの貢献度、担当の係）☑ 成果40点（研究発表、本文、『保育研究』原稿）	
教科書	特になし			
参考書	適宜紹介する			
学生への要望	熱心に授業に取り組むことはもちろんのこと、グループ活動では主体的に関わりながら、協調性をもって積極的に活動することが重要である。☑ ①先行研究の検討☑ ②題材、テーマ、ストーリーの創作☑ ③振付創作、曲の選択☑ ④実技活動（自学自習としてストレッチ等を怠らない）☑ ⑤発表会の運営と実践☑ ⑥卒業論文の作成と「保育研究」冊子の原稿作成と提出			
オフィスタイム	木曜日 III限目（12：50～14：20）☑ IV限目（14：30～16：00）☑ 825研究室（一柳）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	幼児用のダンスまたはダンス作品を制作するにあたってのガイダンス。☑ 「自己確認シート」を通して自己評価をする。	ストレッチ	30
2	授業ガイダンス	幼児用のダンスまたはダンス作品を制作するにあたっての先行資料研究。	ストレッチ	30
3	研究テーマの構想と1年間の研究の流れについて	幼児用のダンスまたはダンス作品を制作するにあたっての先行資料研究。リーダー等の諸係を選出する。係が決まったら、リーダー・サブリーダーを中心に作品創作に向けて、相互に討論を行う。☑ 本授業は、基本的に全員の分担によるグループワークである。☑ もみじ会の発表は中間発表的位置づけをする。それを土台として、講堂大ホールにおける卒業研究発表会への準備・修正を行う。	ストレッチ	30
4	研究テーマの構想について	幼児用のダンスまたはダンス作品制作するにあたっての先行資料研究。研究テーマ、ストーリーなど構想を練る。☑ グループ分けをする。	ストレッチ	30
5	ダンス作品コンセプトの決定	幼児用のダンスまたはダンス作品制作☑相互に出た案を基に一つのストーリーの概略を創り上げる。	ストレッチ	30
6	ダンス作品コンセプトの決定	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。☑ 相互に出た案を基に一つのストーリーの概略を創り上げる。	ストレッチ	30
7	ダンス作品コンセプトの完成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 出来上がったストーリーの場面構成と感情抽出を行い、キャストをどうするか相談する。	ストレッチ	30
8	ダンス作品コンセプトの完成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。☑ 出来上がったストーリーの場面構成と感情抽出を行い、キャストをどうするか相談する。	ストレッチ	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	役割分担、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 選曲をどうするかを絞る。	ストレッチ	30
10	役割分担、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。☒ 選曲をどうするかを絞る。	ストレッチ	30
11	リズムカルな身体作りの実践	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。☒ ステップワーク、リズムカルな身体作りと身体表現の基礎運動を実施する。	ストレッチ	30
12	リズムカルな身体作りの実践	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 ステップワーク、リズムカルな身体作りと身体表現の基礎運動を実施する。	ストレッチ	30
13	即興表現、振り付け、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 即興表現と振り付けによる創作活動を行う。	ストレッチ	30
14	即興表現、振り付け、選曲	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 即興表現と振り付けによる創作活動を行う。	ストレッチ	30
15	創作活動	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。☒ 共通のキャスト同士で振付を創作する。☒ 第1グループが子どもたちとの実践活動を行う。	ストレッチ	30
16	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品☒作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
17	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作☒ 選曲したものに振付を創作する。☒ 第2グループが、子どもたちとの実践活動を実施する。	ストレッチ	30
18	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作☒ 選曲したものに振付を創作する。	ストレッチ	30
19	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作☒ 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
20	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作☒ 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
21	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
22	創作活動・脚本作成・衣装考案	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
23	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、大道具考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
24	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 衣装考案、大道具考案、振り付け創作を進める。	ストレッチ	30
25	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 前回と同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ	30
26	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 前回と同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ	30
27	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作 前回同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ	30
28	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 前回同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。	ストレッチ	30
29	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 前回同様に進める。照明や舞台装置の工夫をする。	ストレッチ	30
30	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 前回同様に進める。照明や舞台装置の工夫をする。	ストレッチ	30
31	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表	もみじ会中間発表と反省会。	ストレッチ	30
32	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表	もみじ会中間発表と反省会。	ストレッチ	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
33	卒業研究機材説明会	記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	ストレッチ	30
34	卒業研究機材説明会	記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	ストレッチ	30
35	卒業論文の準備・発表会の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業論文の準備と役割を分担する。卒業研究発表会に向けての準備をする。	ストレッチ	30
36	卒業論文の準備・発表会の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業論文の準備と役割を分担する。卒業研究発表会に向けての準備をする。	ストレッチ	30
37	卒業研究発表会に向けての準備・卒業論文作成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。☑ 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。	ストレッチ	30
38	卒業研究発表会に向けての準備・卒業論文作成	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。☑ 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。	ストレッチ	30
39	卒業研究発表会に向けての準備・練習	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。	ストレッチ	30
40	卒業研究発表会に向けての準備・練習	幼児用のダンスまたはダンス作品制作。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。	ストレッチ	30
41	卒業研究発表会に向けての準備・VTR制作	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。	ストレッチ	30
42	卒業研究発表会に向けての準備・VTR制作	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。	ストレッチ	30
43	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	ストレッチ	30
44	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	ストレッチ	30
45	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	ストレッチ	30
46	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	幼児用のダンスまたはダンス作品 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。	ストレッチ	30
47	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ	30
48	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ	30
49	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。☑ 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ	30
50	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。	ストレッチ	30
51	保育研究冊子原稿の作成・卒業研究発表会に向けての踊り込み	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 保育研究冊子原稿の作成と、一致協力して発表会に向けての踊り込みを進める。	ストレッチ	30
52	保育研究冊子原稿の作成・卒業研究発表会に向けての踊り込み	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 保育研究冊子原稿の作成と、一致協力して発表会に向けての踊り込みを進める。	ストレッチ	30
53	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み1回目リハーサル	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備・踊り込みを徹底する。	ストレッチ	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
54	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み2回目リハーサル	幼児用のダンスまたはダンス作品踊りこみ。 卒業研究発表会に向けての準備・踊り込みを徹底する。	ストレッチ	30
55	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み2回目リハーサル、卒業論文・保育研究冊子の原稿作成	幼児用のダンスまたはダンス作品完成。 前回同様に進め、完成度を高める。卒業論文・保育研究冊子の原稿作成も同時に進める。	ストレッチ	30
56	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み3回目リハーサル、卒業論文・保育研究冊子の原稿作成	幼児用のダンスまたはダンス作品完成。 前回同様に進め、完成度を高める。卒業論文・保育研究冊子の原稿作成も同時に進める。	ストレッチ	30
57	卒業研究発表会・反省会	幼児用のダンスまたはダンス作品発表。 卒業研究の発表会に全精力を傾注し堂々とする。反省会を行い、論文に反映させる。	ストレッチ	30
58	卒業研究発表会・反省会	幼児用のダンスまたはダンス作品発表。 卒業研究の発表会に全精力を傾注し堂々とする。反省会を行い、論文に反映させる。	ストレッチ	30
59	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成させ、提出する。「劇とあそびのつどい」に向けて練習する。	ストレッチ	30
60	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成させ、提出する。「劇とあそびのつどい」に向けて練習する。☒ 「自己確認シート」を通して自己評価を行う。	ストレッチ	30

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員	早川 仁			
開講期	通年			
授業概要	・この卒業研究では子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会や児童文化などを含め、教育と文化の両面から学生自身が最も興味関心の深い課題を設定し、それらが子どもの成長発達にどのような意義を持っているかなどについて研究する。☑ ・シナリオ・制作・演技・演出等課題ごと指導者及び学生間で常に評価し合うフィードバックを行いながら内容を深めていく。演技に関しては担当者のアドバイス及び記録ビデオを用いて学生間で客観的に確認していく。☑ 位置づけ、水準 CE2270			
達成目標	1、発達に関わる造形遊びの製作などを行なう。☑ ディプロマポリシーとの関連；問題解決能力☑ 2、研究の成果を幼稚園や保育所での実習、又は地域社会のボランティア体験・学内行事発表会などで実践し、それらを通して子ども理解と保育者としての資質を向上させる。☑ ディプロマポリシーとの関連；総合的計画力☑ 3、研究活動を通して本学建学の精神「尊敬・責任・自由」を体现する。又、グループ活動によりコミュニケーション能力を高める。☑ ディプロマポリシーとの関連；規範意識☑ ・単位認定の最低基準；☑ 規定授業数の3分の2以上出席していること。☑ 中間発表会、卒業研究発表会、に参加発表し、論文を提出していること。			
受講資格	幼児教育学科 2年生	成績評価 方法	・平常点（取り組み姿勢、意欲、他との協力、チームへの貢献など）60点。☑ ・成果（研究発表、本文、「保育研究」原稿）40点	
教科書	特になし			
参考書	担当教員より必要に応じて指示			
学生への要望	・自己課題の解決に向けて積極的に取り組むこと。☑ ・活動後に毎回清掃を行うこと。			
オフィスタイム	水曜日・木曜日 15：00～17：00☑ 826研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業オリエンテーション☑	・オリエンテーション・シラバイ説明（人形劇指導趣旨及び活動日程説明。）☑ ・自己紹介☑ ・自己確認シート記録☑	シナリオ原作の選定	30
2	授業オリエンテーション	・シナリオ（既成のお話）～シナリオ原作の決定 ・人形形態について（棒使い人形）	人形形態を調べる	30
3	過去の作品鑑賞	・先輩の作品鑑賞を通して研究意欲を高める。人形劇にたいするを理解を深める	人形劇について自由に調べる	30
4	役割組織づくり	・チームの役割組織をつくり互いの責任を明確にすると共にチームワークを高める。	人形劇について自由に調べる	30
5	シナリオ検討	・作品選定	役割組織担当毎に年間計画案を立てる	30
6	登場キャラクター検討	・人形デザイン決定。	人形デザインの考案	30
7	シナリオ再検討	・シナリオ原案を全員で検討する	作品から台本案を起す	30
8	シナリオ修正	・人形劇の演出効果を考慮したシナリオ修正をする。	台本の下読みをする	30
9	人形製作	・論文指導－研究倫理について学ぶ。 ・もみじ会用人形制作（12月卒研発表会、講堂発表の試作品として制作）	研究の狙いを各自で立てる	30
10	人形製作☑	・人形の構造を研究・検討する	作品素材の検討と準備	30
11	人形制作	・人形制作構造の研究	作品素材の検討と準備	30
12	人形制作	・人形制作構造の研究	作品素材の検討と準備	30
13	人形制作	・人形完成作品の完成。	作品素材の検討と準備	30
14	人形制作	・人形完成作品の完成。	作品素材の検討と準備	30
15	人形操作練習	・操作練習 棒使い人形の操作について研究する。	棒使い人形の下調べをする	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
16	立ち稽古（行動線の確認）	・人形を用いて演じるときの動作一連の流れを稽古する。 ・行動線確認。 ・発声練習。 ☒ ☒	台本を読み込む	30
17	立ち稽古（音の表現）	・人形を用いて演じるときの動作一連の流れを稽古する。 ・行動線確認。	台本を読み込む	30
18	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。	舞台演出を検討する	30
19	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。	舞台演出を検討する	30
20	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。	作品素材の検討と準備	30
21	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。	作品素材の検討と準備	30
22	立ち稽古 大小道具・背景制作	立ち稽古	演者の行動線を検討する	30
23	立ち稽古 大小道具・背景制作	大小道具・背景制作	作品素材の検討と準備	30
24	後期オリエンテーション	後期授業内容、卒研行事等の確認。論文作成（前期活動経過）作成。	前期授業内容まとめ	30
25	後期オリエンテーション	論文作成（前期活動経過）作成。	「もみじ会」の舞台演出を検討しておく	30
26	もみじ会中間発表準備 1	・卒業研究中間発表としての「もみじ会」に向け、発表準備をする。	「もみじ会」の舞台演出を検討しておく	30
27	もみじ会中間発表準備 2	・「もみじ会」の発表会場舞台構造により大小道具準備又は、演出機材等の操作練習をする。	「もみじ会」の舞台演出を検討しておく	30
28	もみじ会中間発表準備 3	・「もみじ会」の発表における幕間の内容も含めて準備、練習する。	音楽・効果音素材を検討・準備しておく	30
29	もみじ会中間発表準備 4	・「もみじ会」の発表における幕間の内容も含めて準備、練習する。	音楽・効果音素材を検討・準備しておく	30
30	もみじ会中間発表練習	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	各、準備担当作業の不備を補う	30
31	もみじ会中間発表練習	・発表会場舞台等の設営	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
32	中間発表準備・練習	・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
33	中間発表準備・練習	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
34	中間発表準備・練習～もみじ会発表	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
35	中間発表準備・練習～もみじ会発表	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
36	もみじ会反省会	・「もみじ会」発表記録ビデオから客観的に自分たちの演技を確認する。 ・来場者の感想アンケートなどを基にして作品内容、演技内容等、活動全般の反省をする。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
37	棒遣い人形劇計画	・卒研発表に向けたシナリオ及び人形の制作計画。	新たな作品シナリオを検討する	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
38	中間発表準備・練習～もみじ会発表	・論文指導－研究倫理について学ぶ。 ・発表会場舞台等の設営・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。 ・発表会場舞台等の設営・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる	新たな作品の研究・狙いテーマを検討しておく	30
39	中間発表準備・練習～もみじ会発表	・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
40	シナリオ・人形の手直し	・卒業研究発表会に向けて、「もみじ会」中間発表反省。	演技・演出担当毎に各自練習を積む	60
41	シナリオ・人形の手直し	・卒業研究発表会に向けて、人形、シナリオの手直しをする	新たな作品シナリオを検討する	30
42	卒研発表練習	・記念講堂の舞台を生かしたシナリオ手直しをする。	新たな作品シナリオを検討する	30
43	卒研発表練習	・記念講堂の舞台を生かした演出の手直しをする。	新たな作品シナリオを検討する	30
44	卒研発表練習	・次回の記念講堂機材担当者の決定と説明会で学ぶ内容の確認をする。	舞台演出を検討する	30
45	機材操作説明会	・記念講堂機材説明会で演出機材の操作内容を学ぶ。 ・機材演出を作品に活かす工夫を研究する。	舞台演出を検討する	30
46	機材操作説明会	・記念講堂機材説明会で演出機材の操作内容を学ぶ。 ・機材演出を作品に活かす工夫を研究する。	舞台演出を検討する	30
47	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
48	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
49	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
50	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
51	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
52	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
53	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
54	ステージ発表練習	・ステージ発表練習（演技・機材による演出）。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
55	卒研発表リハーサル①	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
56	卒研発表リハーサル②	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
57	卒研発表リハーサル③	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
58	卒研発表リハーサル④	・卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
59	卒研発表会（論文発表）		各自練習を積む・研究論文をまとめる	60
60	卒研発表会（舞台発表）	・卒研発表会（舞台発表）を上演する。 ・論文・冊子原稿提出 ・卒研反省～劇と遊びのつどい準備	各自練習を積む・研究論文をまとめる	60

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員	草野 葉子			
開講期	通年			
授業概要	玩具や絵本その他の児童文化財や子どもの描画・造形活動と保育の関係について制作を中心とした研究を行う。表現方法や素材活用の実験研究を通して、児童文化財や保育環境について作品制作過程から理解を深めるとともに新たな提案をめざす。研究は個人またはグループで行い、研究経過報告の機会を持ち相互に高め合う。 研究のフィードバック：研究過程における報告会や中間発表において、助言や講評によるフィードバックを行います。 位置づけ・水準：CE2270			
達成目標	①テーマに基づき資料収集や制作実験に意欲的に取り組むことができる。 ②保育の視点に立ち、表現方法や素材に関する知識を深め、表現技術を向上させることができる。 ③独自の視点から研究テーマをとらえ、新たな取り組みを盛り込み研究を進化させることができる。 ④研究倫理を踏まえた上で、研究過程や成果を分かりやすくまとめて発表することができる。 単位認定の最低基準：上記 4 項目の内容について 6 割以上を満たしていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：保育内容の理解と総合的計画力・問題解決力・豊かな人間性と規範意識			
受講資格	幼児教育学科 2 年生。	成績評価 方法	研究成果40点（作品・論文） 平常点60点（研究姿勢・意欲・貢献）	
教科書	教科書は使用せず、必要に応じて資料等を印刷し配布する。			
参考書	研究内容に応じて指示する。			
学生への要望	自ら課題をもって意欲的に取り組む。☑ 資料収集、実験研究等について課外の時間を積極的に活用する。			
オフィスタイム	火曜から木曜 15：00～17：00☑ 83年館2階823研究室。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究課題を決めるⅠ－①	関心ある研究テーマについて発表し、学生相互に意識を高めあうと共に学生自身の考えを明確にしていく。☑ 学生自身の現状と研究目標を「振り返りシート（start）」に記載し明確にする。	学生各自のテーマに関連する資料を収集する。	30
2	研究課題を決めるⅠ－②	関心ある研究テーマについて発表し、学生相互に意識を高めあうと共に学生自身の考えを明確にしていく。☑	1回と同様の活動。	30
3	研究課題を決めるⅡ－①	資料や参考作品の収集－その1 資料等を紹介し、情報交換すると共に相互に刺激しあう。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題の焦点をより明確にしていく。	情報交換により得た新たな視点をもとに、資料収集を継続する。	30
4	研究課題を決めるⅡ－②	資料や参考作品の収集－その1 資料等を紹介し、情報交換すると共に相互に刺激しあう。各自の関心を視覚的にとらえることにより、研究課題の焦点をより明確にしていく。	3回と同様の活動。	30
5	研究課題を決めるⅢ－①	資料や参考作品の収集－その2☑ 前回より深化させた資料や参考作品を持ち寄り、研究テーマを決める。☑	研究テーマに基づき、実験研究に参考となる具体的な資料を収集する。	30
6	研究課題を決めるⅢ－②	資料や参考作品の収集－その2☑ 前回より深化させた資料や参考作品を持ち寄り、研究テーマを決める。☑	5回と同様の活動。	30
7	研究活動の計画①	基礎研究・制作実験・中間発表（実践）・本制作を柱に活動計画を立てる。テーマに基づいた基礎研究を行う。	基礎研究体験をもとに、深化のための資料収集を行う。	30
8	研究活動の計画②	基礎研究・制作実験・中間発表（実践）・本制作を柱に活動計画を立てる。テーマに基づいた基礎研究を行う。	7回と同様の活動。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	論文書き方指導Ⅰ	論文の書き方指導Ⅰ ◎研究の基本的進め方と論文の基本的構成について。 ◎研究論理について。	前回の活動計画と卒業論文の構成を比較し、研究活動の方向性について確認検討する。	30
10	基礎研究Ⅰ	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集一その1 ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。 ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。	基礎研究としてここで計画した表現実験の内容を実現させる。また関係する資料等を収集する。	60
11	基礎研究Ⅱ－①	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集一その2 ☒ ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。☒ ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。	ここで計画した表現実験の内容を実現させる。また関係する資料等の収集を継続して行う。	30
12	基礎研究Ⅱ－②	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集一その2 ☒ ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。☒ ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。	11回と同様の活動。	30
13	基礎研究Ⅲ－①	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集一その3 ☒ ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。☒ ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。☒ ◎各自の研究課題を軸に基礎研究をまとめる。	基礎研究の結果として得たものをまとめあげ、次回の視覚化に向けて使用素材を準備する。	30
14	基礎研究Ⅲ－②	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集一その3 ☒ ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。☒ ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。☒ ◎各自の研究課題を軸に基礎研究をまとめる。	13回と同様の活動。	30
15	制作実験Ⅰ－①	課題を具体化する一その1 基礎研究をもとに研究課題の構想を具体化し制作実験する。	この回で実験目標とした内容を実現させる。	30
16	制作実験Ⅰ－②	課題を具体化する一その1 基礎研究をもとに研究課題の構想を具体化し制作実験する。	15回と同様の内容。	30
17	制作実験Ⅱ－①	課題を具体化する一その2 ☒ 制作実験の継続。	15回と同様の内容。	30
18	制作実験Ⅱ－②	課題を具体化する一その2 ☒ 制作実験の継続。	15回と同様の内容。	30
19	制作実験Ⅲ－①	課題を具体化する一その3 ☒ 制作実験の継続。	15回と同様の内容。	30
20	制作実験Ⅲ－②	課題を具体化する一その3 ☒ 制作実験の継続。	15回と同様の内容。	30
21	制作実験Ⅳ－①	課題を具体化する一その4 ☒ 研究経過報告会に向けて制作実験結果をまとめる。	基礎研究で取組んだ内容を発表できるよう完成させる。	30
22	制作実験Ⅳ－②	課題を具体化する一その4 ☒ 研究経過報告会に向けて制作実験結果をまとめる。	21回と同様の活動。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	制作実験Ⅴ－①	課題を視覚化する－その⑤「研究経過報告会」☒ 制作実験結果を相互に発表し講評しあう。	講評を参考に実験結果を見直し、中間発表できるようにまとめる。	30
24	制作実験Ⅴ－②	課題を視覚化する－その⑤「研究経過報告会」☒ 制作実験結果を相互に発表し講評しあう。	23回と同様の内容。	30
25	中間発表Ⅰ－①	研究成果の中間発表の実施計画。☒ ◎「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。☒ ◎中間発表の方法について具体化し、準備を行う。☒ ☒	計画に基づき、中間発表の環境設定等準備を完了させる。	30
26	中間発表Ⅰ－②	研究成果の中間発表の実施計画。☒ ◎「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。☒ ◎中間発表の方法について具体化し、準備を行う。☒ ☒	25回と同様の活動。	30
27	中間発表Ⅱ－①	研究中間発表を行う。☒ ◎研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。☒ ◎中間発表目的に基づき結果を記録する。	中間発表の記録を次回の結果報告に向けて整理する。	30
28	中間発表Ⅱ－②	研究中間発表を行う。☒ ◎研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。☒ ◎中間発表目的に基づき結果を記録する。	27回と同様の活動。	30
29	中間発表Ⅲ－①	中間発表の結果と考察。☒ 中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。☒	中間発表の結果と考察をもとに、本研究に向けた関連資料の収集と実験材料の準備。	30
30	中間発表Ⅲ－②	中間発表の結果と考察。☒ 中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。☒	29回と同様の活動。	30
31	制作Ⅰ－①	中間発表の検討考察をもとに本制作の構想を具体化する。☒ 本制作の構想を発表し相互に講評を行い、研究内容をより充実させる。	中間発表の結果と考察から得た、本研究構想に関する資料の収集と実験材料の準備。	30
32	制作Ⅰ－②	中間発表の検討考察をもとに本制作の構想を具体化する。☒ 本制作の構想を発表し相互に講評を行い、研究内容をより充実させる。	31回と同様の活動。	30
33	制作Ⅱ－①	本制作構想に基づき各自制作する。	ここで計画した内容を実現させる。参考となる資料と素材を収集する。	30
34	制作Ⅱ－②	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
35	制作Ⅲ－①	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
36	制作Ⅲ－②	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
37	制作Ⅳ－①	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
38	制作Ⅳ－②	本制作構想に基づき各自制作する。	33回と同様の活動。	30
39	制作Ⅴ－①	本制作構想に基づき各自制作する。	完成予定を見据えて計画した段階までを実現させる。	30
40	制作Ⅴ－②	本制作構想に基づき各自制作する。	39回と同様の活動。	30
41	制作Ⅵ－①	本制作構想に基づき各自制作する。	39回と同様の活動。	30
42	制作Ⅵ－②	本制作構想に基づき各自制作する。	39回と同様の活動。	30
43	制作Ⅶ－①	作品を完成させる。	不十分な点を確実に完成させる。	30
44	制作Ⅶ－②	作品を完成させる。	43回と同様の活動。	30
45	制作Ⅷ－①	完成作品の相互発表をする。☒ 作品を相互に発表し、異なる視点からの助言を通して作品を見直す。☒	助言をもとに具体的な対策と方法を検討する。必要に応じて素材を準備する。	30
46	制作Ⅷ－②	完成作品の相互発表をする。☒ 作品を相互に発表し、異なる視点からの助言を通して作品を見直す。☒	45回と同様の内容。	30
47	制作Ⅸ－①	相互発表を受け作品の手直しと最終確認をする。	作品を完成させる。	30
48	制作Ⅸ－②	相互発表を受け作品の手直しと最終確認をする。	47回と同様の活動。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
49	論文書き方指導Ⅱ	論文の書き方指導Ⅱ ◎本文、「保育研究」の原稿の書き方指導。 ◎研究題目等の調査及び提出用USB配布。	論文に必要な研究資料や情報を確認し準備する。	30
50	研究まとめⅠ	書き方指導を基に発表原稿を作成する。☒ ◎研究経過及び成果をわかりやすく順序だてて整理する。☒ ◎資料写真の確認と撮影。☒	発表に必要な資料等を整える	60
51	研究まとめⅡ－①	卒業研究発表の準備及び発表練習。☒ 研究結果をパワーポイントにまとめ、発表原稿とあわせて練習を行う。☒ ☒	作品の発表方法とパワーポイント内容の手直しをする。	30
52	研究まとめⅡ－②	卒業研究発表の準備及び発表練習。☒ 研究結果をパワーポイントにまとめ、発表原稿とあわせて練習を行う。☒ ☒	51回と同様の活動。	30
53	研究まとめⅢ－①	卒業研究発表会☒ 研究成果を作品と共に発表する。	発表を振り返り、反省や他者からの学びをまとめる。	30
54	研究まとめⅢ－②	卒業研究発表会☒ 研究成果を作品と共に発表する。	53回と同様の活動。	30
55	研究まとめⅣ－①	卒業研究結果のまとめ－その①☒ 研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。	この回で計画したことを確実に言い終了させる。	30
56	研究まとめⅣ－②	卒業研究結果のまとめ－その①☒ 研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。	56回と同様の活動。	30
57	研究まとめⅤ－①	卒業研究結果のまとめ－その②☒ ◎研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。☒ ◎研究論文を基に、卒業研究要旨集「保育研究」の原稿を指定書式により作成する。	56回と同様の活動。	30
58	研究まとめⅤ－②	卒業研究結果のまとめ－その②☒ ◎研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。☒ ◎研究論文を基に、卒業研究要旨集「保育研究」の原稿を指定書式により作成する。	56回と同様の活動。	30
59	研究まとめⅥ－①	研究論文と卒業研究要旨集「保育研究」の最終確認。 ◎論文内容及び書式の最終確認をする。 ◎研究論文は配布のUSBメモリへ入れ、「保育研究」は印刷して提出。	この回で計画したことを確実に言い終了させる。	30
60	研究まとめⅥ－②	研究論文と卒業研究要旨集「保育研究」の最終確認。 ◎論文内容及び書式の最終確認をする。 ◎研究論文は配布のUSBメモリへ入れ、「保育研究」は印刷して提出。 ◎「振り返りシート(end)」により研究活動の振り返りと自己評価を行う。	卒業研究の本文・保育研究の内容確認を行い、所定の時間に遅れず提出する。	30

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員	山上 裕子			
開講期	通年			
授業概要	保育活動で使用するさまざまな「モノ」（絵本、玩具、遊具等）を手がかりにして、保育の世界を探究する。例えば、「モノ」の誕生の背景やその後の歴史、使用することによる保育のねらいや注意点など、多様なテーマが考えられる。文献だけでなく実際幼稚園を訪れて、実地調査もおこないたい。テーマの設定の仕方、探究の方法、記録の取り方、文章の書き方、そして研究を進める上での研究倫理など、研究方法の基礎も合わせて指導する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 ☒ ☒ 位置づけ・水準 CE2270			
達成目標	本科目は、・ディプロマ・ポリシーの「保育の内容理解と総合的計画力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」に対応している。 ☒ ①保育に関する課題を自ら設定し、年間を通して課題と向き合う。☒ ②課題を解決するための方法を、7割以上身に付ける。その際、研究倫理について学ぶ。☒ ③保育の世界を広げるとともに、保育への理解を深める。			
受講資格	幼児教育学科2学年	成績評価 方法	平常点（60点）、研究成果（40点：研究発表、本文、『保育研究』原稿）	
教科書	特に指定はしない。			
参考書	適時、紹介する。			
学生への要望	どんな小さなことでもよいので、疑問に思ったことをメモとること。			
オフィスタイム	木曜日：14：30～16：00 ☒ 金曜日：14：30～16：00（Ⅲ期） ☒ 12：50～14：20（Ⅳ期） ☒ 場所：833研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	授業の内容、進め方、評価について説明を聞く。何を研究したいのかを出し合う。「自己確認シート」の記入をする。	自身が研究したいことを確認する。	30
2	研究の模索 1	過去の研究冊子『保育研究』を調査し、自身の興味の方向を定めていく。	自身の興味関心のある情報を探す。	30
3	研究の模索 2	図書館で資料を検索し、自身の興味の方向を定めていく。研究ノートの記載の仕方を知る。	自身の興味関心のある情報を探す。	30
4	研究の模索 3	図書館で資料を検索し、研究ノートに記載していく。	自身の興味関心のある情報を探す。	30
5	研究の模索 4	自身のテーマの方向性をまとめる。	自身の研究の方向性のまとめを進める。	30
6	研究の確認 ☒ その1	これまでの資料収集の結果を報告する。☒	報告資料をそろえ、研究の方向を調整する。	30
7	研究の方法 1	書誌情報の整理の仕方、インターネット情報の検索結果の整理の方法を知る。	自己の興味関心のある情報を探す。	30
8	研究の方法 2	研究ノートに整理をしていく。	研究ノート整理をする。	30
9	研究を進める 1	研究ノートをもとに、これからの研究計画を立てる。	研究ノート整理をする。	30
10	研究を進める 2	研究計画について発表する。	計画を練る。	30
11	研究を進める 3	資料の整理を引き続き行う。	自己の興味関心のある情報を探す。	30
12	研究を進める 4	資料の整理を引き続き行い、ノートに整理する。	自己の興味関心のある情報を探す。	30
13	研究の確認 その2	研究の進捗状況を確認し合う。	研究ノート整理をする。	30
14	研究を進める 5	報告をとおして、研究の方向性を修正していく。	報告資料をそろえ、研究の方向を調整する。	30
15	テーマの決定 1	研究の仮テーマを考える。	研究の方向を調整する。	30
16	テーマの決定と計画の修正	研究テーマに沿った計画に修正する。	研究ノート整理をする。	30
17	研究を進める 6	文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
18	研究を進める 7	文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
19	研究を進める 8	引き続き、文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
20	研究を進める 9	引き続き、文献を読み進める。	テーマに沿った情報を収集する。	30
21	研究を進める 10	文献の整理をする。	テーマに沿った情報を収集する。	30
22	研究を進める 11	文献の整理をする。	テーマに沿った情報を収集する。	30
23	研究の確認 その3	これまでの研究の進捗を報告し、研究内容を確認する。☒	研究の方向を調整する。	30
24	研究を進める 12	研究内容の充実のための計画を練り直す。	研究の方向を調整する。	30
25	研究を進める 13	研究テーマを絞りこむ。	テーマに沿った情報を収集する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
26	テーマの確認	テーマを確認すると同時に、新たな課題を確認する。	テーマに沿った情報を収集する。	30
27	中間発表の計画 1	卒業研究の中間発表の場である、もみじ会に向けた準備を考える。	研究ノート整理をする。	30
28	中間発表の計画 2	もみじ会に向けた準備の計画をたてる。	もみじ会の準備を進める。	30
29	中間発表の準備 1	もみじ会の準備を始める。	もみじ会の準備を進める。	30
30	中間発表の準備 2	もみじ会の準備を始める。	もみじ会の準備を進める。	30
31	中間発表の準備 3	もみじ会の準備を進める。	もみじ会の準備を進める。	30
32	中間発表の準備 4	もみじ会の準備を進める。	もみじ会の準備を進める。	30
33	研究を進める 1 4	収集した資料の内容を整理する。	研究ノートを振り返る。	30
34	研究を進める 1 5	収集した資料の内容をまとめていく。	研究の方向を調整する。	30
35	論文の執筆 1	研究発表会、本文、『保育研究』のフォーマットを知り、論文作成の準備を始める。☒	執筆の計画を考える。	30
36	論文の執筆 2	研究発表会、本文、『保育研究』の提出に関して知り、今後の計画を立てる。☒	執筆の計画を考える。	30
37	論文の執筆 3	論文の執筆を始める。	執筆する。	30
38	論文の執筆 4	論文の執筆を始め、適宜指導を受ける。	執筆する。	30
39	論文の執筆 5	論文の執筆を進める。	執筆する。	30
40	論文の執筆 6	論文の執筆を進める。	執筆する。	30
41	論文の執筆 7	進捗状況を確認し、指導を受ける。	執筆する。	30
42	論文の執筆 8	指導に応じた執筆をする。	執筆する。	30
43	論文の執筆 9	引き続き、論文を執筆する。	執筆する。	30
44	論文の執筆 1 0	引き続き、論文を執筆する。	執筆する。	30
45	論文の執筆 1 1	よりよいものになるように、写真や図などを効果的に取り入れていく。	執筆する。	30
46	論文の執筆 1 2	写真や図などを効果的に取り入れて行く。	執筆する。	30
47	論文の執筆 1 3	本文、『保育研究』の原稿の仕上げをしていく。	執筆する。	30
48	論文の執筆 1 4	本文、『保育研究』の原稿の仕上げをしていく。	執筆する。	30
49	卒業研究発表会の準備 1	発表用のパワーポイントの原稿を作成する。	パワーポイントの作成をする。	60
50	卒業研究発表会の準備 2	パワーポイントの原稿を作成する。	パワーポイントの作成をする。	60
51	卒業研究発表会の準備 3	研究発表会の準備を進める。	パワーポイントの作成をする。	60
52	卒業研究発表会の準備 4	原稿を読み上げ、声の出し方、読む速度など確認する。	発表の練習をする。	60
53	卒業研究発表会リハーサル 1	機材を実際に操作し、不備がないか確かめる。☒ 他の研究分野と協力して、よりよい発表会にするための準備を行う。	発表の練習をする。	60
54	卒業研究発表会リハーサル 2	よりよい発表会にするための準備を行う。	発表の練習をする。	60
55	卒業研究発表会 1	卒業研究のこれまでの成果をプレゼンテーションする。	発表の準備をし、振り返る。	30
56	卒業研究発表会 2	卒業研究のこれまでの成果をプレゼンテーションする。	発表の準備をし、振り返る。	30
57	卒業研究発表会 3	他の分野の研究成果を聴き、学ぶ。	自身の発表と比較する。	30
58	卒業研究発表会 4	他の分野の研究成果を聴き、学ぶ。	自身の発表と比較する。	30
59	まとめ 1	提出に向けて、本文と『保育研究』の原稿を仕上げる。	原稿を。よりよいものに仕上げる。	30
60	まとめ 2	「自己確認シート」の記入をとおして、これまでの卒業研究で学んだことを確認する。	原稿を。よりよいものに仕上げる。自身の成長を確かめる。	30

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	折笠 国康		
開講期	通年		
授業概要	実際に保育や幼稚園教育の現場に出たときに求められる、児童の好ましい成長を支える態度や知見を習得することを目標とする。また、自他の尊重と幸福の追求の態度を身につけ、実践する基礎力を身につけることも目標とする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。☒ 位置づけ・水準 CE2270		
達成目標	①実際に保育や幼稚園教育の現場に出たときに求められる、児童の好ましい成長を支える態度や知見を☒ 習得することを目標とする。☒ ②自他の尊重と幸福の追求の態度を身につけ、実践する基礎力を身につけることも目標とする。☒ 単位認定の最低基準は、：「内容の8割を理解していること」☒ ディプロマ・ポリシーとの関連：保育の内容理解と総合的計画力、問題解決力、豊かな人間性と規範意識		
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 2年	成績評価 方法	平常点60点、研究成果を40点として評価する。
教科書	教科書は使わず、プリントを配布する。		
参考書	参考書は授業ごとに指示する。		
学生への要望	自他のためになる知的活動の時間として捉えてほしい。		
オフィスタイム	金曜 2限 835研究室☒ 3限 835研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究の基礎 オリエンテーショ ン	心理学の研究の基礎的な説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
2	研究の基礎 オリエンテーショ ン	心理学の研究の基礎的な説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
3	研究の基礎	心理学の研究調査の方法の説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
4	研究の基礎	心理学の研究調査の方法の説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
5	研究の概念形成	研究のテーマについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
6	研究の概念形成	研究のテーマについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
7	研究の概念形成	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
8	研究の概念形成	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
9	研究調査の手順	研究調査の手順についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
10	研究調査の手順	研究調査の手順についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
11	調査用紙作成 1	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
12	調査用紙作成2	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
13	調査用紙作成3	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
14	調査用紙作成4	調査用紙作成についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
15	調査の分析 1	質問紙についての説明☒	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
16	調査の分析2	質問紙についての説明☒	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
17	調査の分析3	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
18	調査の分析4	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
19	調査の分析5	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60
20	調査の分析6	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考 文献にあたる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
21	調査の分析7	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
22	調査の分析8	統計処理についての概説	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	0
23	調査のまとめ1	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
24	調査のまとめ2	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
25	調査のまとめ3	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
26	調査のまとめ4	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
27	調査のまとめ5	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
28	調査のまとめ6	分析結果のまとめについての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
29	調査のまとめ7	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
30	調査のまとめ8	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
31	調査のまとめ9	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
32	調査のまとめ10	分析結果の考察についての話し合い	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
33	研究発表の準備1	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
34	研究発表の準備2	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
35	研究発表の準備3	追加の調査用紙の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
36	研究発表の準備4	追加の調査用紙の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
37	研究発表の準備5	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
38	研究発表の準備6	研究発表の準備作業	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
39	中間発表1	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
40	中間発表2	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
41	中間発表3	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
42	中間発表4	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
43	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
44	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
45	卒業研究のまとめ1	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
46	卒業研究のまとめ2	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
47	卒業研究のまとめ3	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
48	卒業研究のまとめ4	考察を検討する 全員で検討する	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
49	卒業研究発表準備1	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
50	卒業研究発表準備2	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
51	卒業研究発表準備3	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
52	卒業研究発表準備4	発表のリハーサル	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
53	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
54	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
55	論文作成 1	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
56	論文作成 2	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
57	論文作成3	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
58	論文作成4	論文の作成	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
59	論文提出のための準備1	論文の最終確認、印刷、製本	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
60	論文提出のための準備2	論文の最終確認、印刷、製本	授業内容についてまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員	永瀬 悦子			
開講期	通年			
授業概要	現在の子どものたちの生活実態から健康課題を見出しその解決に向けた健康教育を学修する。健康増進活動の実践については、栄養・食生活、運動・身体活動等の行動変容を地域における生活環境の視点から学修をする。具体的には、健康問題に関する情報収集・分析・アセスメントをし、その結果から問題解決に向けた効果的なアプローチを立案・実施・評価といった一連の過程を学修する。☒ ① 初回と最終回に、「自己確認シート」をととした自己評価を行うこと。②5月と10月に、第一回論文の書き方指導、第二回論文の書き方指導を1コマずつ行うこと。③第一回目の論文の書き方指導の内容に、研究倫理について学ぶこと。☒ [授業の目的・ねらい]☒ 教育の専門職として課題を捉え、その課題を研究的視点で追及する。【位置づけ・水準】 CE2270			
達成目標	1) 図書の意義を説明できる☒ 2) 子どもの健康を維持・増進するための健康教育の方法を実践できる☒ 3) 健康教育の実践過程において積極的に参加できる☒ これらのことを7割達成すれば単位認定とする。			
受講資格	幼児教育学科学生2年生	成績評価 方法	平常点60点、研究成果40点	
教科書	宗像恒次著『行動科学からみた健康と病気』 メディカルフレンド社 2000年			
参考書	全国保育園保健師看護師連絡会『保育のなかの健康教育』2018年			
学生への要望	主体的な問題解決能力、思考力、表現力等が求められます。講義以外の時間を費やすことが多いと思いますが、課題を追求するため、熱意と積極的姿勢で参加して下さい。			
オフィスタイム	火曜日 V時限（16：10～17：40）832研究室☒ 木曜日 I時限（8：50～10：20） 832研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	卒業研究の概要1	卒業研究の進め方、メンバーの紹介等。☒ 研究とは何か、について理解する☒	現在の子どもの健康課題について書籍・新聞等を通して調べる	60
2	卒業研究の概要2	研究の進め方について	具体的な教育方法について書籍等を通し考える	60
3	研究課題について1	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する	教材研究	60
4	研究課題について2	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する	教材研究	60
5	研究課題の明確化と概念枠組み1	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する	教材研究	60
6	研究課題の明確化と概念枠組み2	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する	教材研究	60
7	研究方法と研究デザインの選定1	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する	教材研究	60
8	研究方法と研究デザインの選定2	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する	教材研究	60
9	研究方法のデータ収集と分析1	研究方法のデータ収集と分析を理解する	教材研究	60
10	研究方法のデータ収集と分析2	研究方法のデータ収集と分析を理解する	教材研究	60
11	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際1	研究結果とその分析について理解する☒ 研究課題の絞り込みをする	教材研究	60
12	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際2	研究結果とその分析について理解する☒ 研究課題の絞り込みをする	教材研究	60
13	倫理的配慮について1	研究における倫理的配慮について	教材研究	60
14	倫理的配慮について2	研究における倫理的配慮について	教材研究	60
15	文献検索のプロセス1	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する	教材研究	60
16	文献検索のプロセス2	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する	教材研究	60
17	研究計画書の作成1	研究計画書の作成	教材研究	60
18	研究計画書の作成2	研究計画書の作成	教材研究	60
19	研究の実際①	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
20	研究の実際②	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
21	研究の実際③	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
22	研究の実際④	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
23	研究の実際⑤	健康教育の教材作成をする	教材研究	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	研究の実際⑥	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
25	研究の実際⑦	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
26	研究の実際⑧	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
27	研究の実際⑨	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
28	研究の実際⑩	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
29	研究の実際⑪	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
30	研究の実際⑫	健康教育の教材作成をする	教材研究	60
31	中間発表の準備①	中間発表の「もみじ会」の準備をする	教材研究	60
32	中間発表の準備②	中間発表の「もみじ会」の準備をする	教材研究	60
33	中間発表①	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する	教材研究	60
34	中間発表②	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する	教材研究	60
35	研究成果の振り返り①	「もみじ会」の発表の反省をもとにして、研究内容を検討する	教材研究	60
36	研究成果の振り返り②	「もみじ会」の発表の反省をもとにして、研究内容を検討する	教材研究	60
37	研究成果の振り返り③	研究成果を振り返り、今後の成果を検討する	教材研究	60
38	研究成果の振り返り④	研究成果を振り返り、今後の成果を検討する	教材研究	60
39	フィールドワークの準備①	フィールドワークの準備をする	教材研究	60
40	フィールドワークの準備②	フィールドワークの準備をする	教材研究	60
41	フィールドワークの実際③	保育園・幼稚園等で実際に健康教育を実践する	実践の振り返りをする	60
42	フィールドワークの実際④	保育園・幼稚園等で実際に健康教育を実践する	実践の振り返りをする	60
43	研究論文の執筆準備①	研究テーマ、研究論文の構成を考える	論文作成	60
44	研究論文の執筆準備②	研究テーマ、研究論文の構成を考える	論文作成	60
45	研究論文の執筆活動①	研究論文の執筆	論文作成	60
46	研究論文の執筆活動②	研究論文の執筆	論文作成	60
47	研究論文の執筆活動③	研究論文の執筆と発表（プレゼンテーション）の準備	論文作成	60
48	研究論文の執筆活動④	研究論文の執筆と発表（プレゼンテーション）の準備	論文作成	60
49	研究論文の執筆活動⑤	研究論文の原稿を仕上げ、指導教員に提出し指導を受ける	論文作成	60
50	研究論文の執筆活動⑥	研究論文の原稿を仕上げ、指導教員に提出し指導を受ける	論文作成	60
51	研究発表の練習①	発表原稿を作成し、発表の練習をする	発表原稿及びパワーポイント作成	60
52	研究発表の練習②	発表原稿を作成し、発表の練習をする	発表原稿及びパワーポイント作成	60
53	研究発表①	研究の成果をわかりやすく発表する	発表の振り返り	60
54	研究発表②	研究の成果をわかりやすく発表する	発表の振り返り	60
55	研究のまとめ①	研究の論文規定に従い執筆する。	論文作成	60
56	研究のまとめ②	研究の論文規定に従い執筆する。	論文作成	60
57	研究のまとめ③	「卒業研究の論文規定」に従い執筆する。	論文作成	60
58	研究のまとめ④	「卒業研究の論文規定」に従い執筆する。	論文作成	60
59	論文提出と今後の課題①	「卒業研究論文」原稿と「保育研究」原稿を提出する	論文作成	60
60	論文提出と今後の課題②	「卒業研究論文」原稿と「保育研究」原稿を提出する	論文作成	60

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	ポール パーナミィ,柳沼 真美子		
開講期	通年		
授業概要	PREREQUISITES FOR THIS CLASS: ☒ Students will have completed 総合英語コミュニケーション. Students should have a strong curiosity in becoming proficient in computers and software. Students should have high-level art skills which they would like to develop into computer production. Students should be able to understand and follow instructions for completing tasks on time and as a team. Students should be able to lead other students by example. ☒ ☒ ①保育に関する課題を自ら設定し、年間を通して課題と向き合う。 ☒ ②課題を解決するための方法を身に付ける。その際、研究倫理について学ぶ。 ☒ ③保育の世界を広げるとともに、保育への理解を深める。☒ A. The number of this subject is CE2270.☒ B. The instructor has taught English for more than 20 years.☒ C. The instructor has used computers for more than 35 years.☒ FEEDBACK: I will frequently give constructive feedback to students on their participation, leadership, creativity, computer skills, and software growth.		
達成目標	GOALS OF THIS CLASS: ☒ 1. The main focus will be to improve computer skills, enhance presentation ability and gain confidence. ☒ 2. Moreover, required material and homework will include communication tasks ☒ to establish and develop an overall practical ability. ☒ 3. Students will research topics through oral, visual and final paper submission. ☒ 4. The teacher will use demonstrations of steps involved to achieve optimized results. We will use Active Learning, students will then complete tasks together and on their own to demonstrate understanding and follow through of concepts.☒ ・ The minimum standard to receive 2 credits for this subject is to achieve 60% or higher on the overall average of these main criteria, attitude, quizzes, and the final projects.☒ ・ The “Diploma Policy” (DP) for this subject stipulates “Problem Solving Skills” and “Gaining Abundant Knowledge.”		
受講資格	幼児教育学科 2年生	成績評価 方法	授業態度、意欲などを60点、発表の成果を40点として評価する。
教科書	なし		
参考書	適宜推薦		
学生への要望	Don’t miss class. Be attentive. ☒ Use your computer for assignments.☒ Use 120 minutes of homework drawing each class.☒ Review the supplements provided for this class.☒ ☒ ○グループで学びあうルールやマナーを守る。☒ ○他の卒研グループとも互いに尊重し合い、体験を共有する。 ☒ ○時間割上の時間だけでなく、時間外活動を有効に使う。		
オフィスタイム	Room 837: Monday, 14:30～16:30 ☒ Friday, 9:00～10:30☒ 時間：月曜日, 14:30～16:30 時限 ☒ 時間：金曜日, 9:30～10:30 時限 ☒ 83年館 3F 837研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション Orientation	○メンバーの顔合わせと自己紹介☒ ○1年間の日程確認☒ Introductions. Talk of schedule and goals of class. Inform students of tools, use of computers, available material and other features such as music, games and internships. Talk about options and expectations. Give files containing visual references. Explain active learning and the use of feedback, show how we will use these methods in situations in and out of class. Students will need their computer for each class.	Familiarize yourself with the PDF booklet, and review the software ideas we will be using. Use the PDF booklet to do your assignments. Review the PDF booklet of samples. Review the PDF booklet of how to do gradations.	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
2	オリエンテーション Orientation	○メンバーの顔合わせと自己紹介☑ ○1年間の日程確認☑ We will watch demonstration and begin use of software. Students will use Microsoft Word along with instruction to begin first assignment while in class. We will talk about the skill set needed and encourage through active learning.	Review the software ideas we will be using. Use booklet to do assignments.	120
3	研究課題について Research Discussion	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する Demonstrate available tools and methods for optimal research. Give examples of research and discuss how we might use our research in a practical class situation. Consider time variables, age, total classes, methods of presentation, time of year, and any feature worth considering for further research.☑	Review the software ideas we will be using. Demonstrate to others and begin drawing on your own.	120
4	研究課題の明確化と概念枠組み Clarification of Research	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する ☑ Define and narrow search. Demonstrate software and how to use for presenting information. Utilize sound, video and pictures in a simple, but clear format for discussion. Assign activity which utilizes tools we just used. Class will demonstrate their use in class situation.☑	Review the software ideas we will be using. Use booklet to do assignments. Start a sample from the booklet as a challenge.	120
5	研究課題の明確化と概念枠組み Clarification of Research	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する ☑ Demonstrate software and how to use for presenting information. Utilize sound, video and pictures in an animation. Assign activity which utilizes tools we just used. Class will demonstrate their use in class situation.☑	Review the software ideas we will be using. Use booklet to do assignments. Start a sample from the booklet as a challenge.	120
6	研究方法と研究デザインの選定 Research Topic Selection	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する ☑ Research selection comprehension, explain the point of the research. Class will demonstrate their use in class situation.☑ ☑ ☑	Review the software ideas we will be using. Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile.	120
7	研究方法と研究デザインの選定 Research Topic Selection	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する Class will demonstrate their use in class situation. We will talk about selection of first video. We will prepare materials for video. We will edit material.☑ ☑ ☑	Review the software ideas we will be using. Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile.	120
8	研究方法のデータ収集と分析 Methods of Collection and Analysis	研究方法のデータ収集と分析を理解する ☑ Analyze material. Analyze material through activity, demonstrate their understanding of collected material. Continuse editing material. ☑	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile.	120
9	研究方法のデータ収集と分析 Methods of Collection and Analysis	研究方法のデータ収集と分析を理解する ☑ Analyze material. Analyze material through activity, demonstrate their understanding of collected material. Use feedback to consider the process.☑ ☑	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile.	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際 Analysis Refinement	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする ☑ Refine and edit material.☑ Discussion of ideas for poster.	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile.	120
11	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際 Analysis Refinement	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする ☑ Refine and edit material.☑ Discussion of ideas for Momijikai.	Choose elements for mobile design. Draw items for the mobile.	120
12	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際 Analysis Refinement	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする ☑ Refine and edit material.☑ Build 3-d art from research material. Mobile art construction.	Choose elements for animation design. Draw items for the animation.	120
13	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際 Analysis Refinement	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする ☑ Refine and edit material.☑ Continue building 3-d art from research material. Mobile art construction.	Choose elements for animation design. Draw items for the animation.	120
14	倫理的配慮について Considerations	研究における倫理的配慮について ☑ Considering ethics while researching.☑ Give examples of acceptable and unacceptable use of outside sources. Mobile art construction.	Choose elements for animation design. Draw items for the animation.	120
15	倫理的配慮について Considerations	研究における倫理的配慮について ☑ Considering ethics while researching.☑ Demonstrate understanding of acceptable and unacceptable outside sources.Mobile art construction.	Choose elements for animation design. Draw items for the animation.	120
16	文献検索のプロセス Search and Review Protocol	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する ☑ Research protocol and review.☑ ☑	Choose elements for animation design. Draw items for the animation.	120
17	文献検索のプロセス Search and Review Protocol	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する ☑ Research protocol and review.☑ ☑ster concepts discussed.	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster. Draw items for the poster.	120
18	制作・練習 Production and Practice	研究計画書の作成 ☑ Beginning to assemble research. Poster concepts discussed.☑	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster. Draw items for the poster.	120
19	制作・練習 Production and Practice	研究計画書の作成 ☑ Beginning to assemble research. Poster concepts discussed.☑	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster. Draw items for the poster.	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
20	制作・練習 Production and Practice	研究計画書の作成 ☒ Beginning to assemble research. Poster concepts discussed.☒	Review the software ideas we will be using. Choose elements for the poster. Draw items for the poster.	120
21	研究の実際① Research	教材作成をする. ☒ Research continues.☒	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
22	研究の実際① Research	教材作成をする. ☒ Research continues.☒	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
23	研究の実際① Research	教材作成をする. ☒ Research continues.☒	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
24	研究の実際① Research	教材作成をする. ☒ Research continues.☒ Duties related to Momijikai are clarified.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
25	研究の実際① Research	教材作成をする. ☒ Research continues.☒ Design elements ready for production.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
26	研究の実際② Research	教材作成をする. ☒ Research continues. Design elements ready for production.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
27	研究の実際② Research	教材作成をする. ☒ 中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. Animation edited.	Choose elements for Momijikai design. Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
28	研究の実際② Research	教材作成をする. ☒ 中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues. Animation edited.	Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
29	研究の実際② Research	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする ☒ Research continues. Animation edited.	Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120
30	研究の実際② Research	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする ☒ Research continues. Animation edited.	Draw items for the wall designs. Contstuct models for Momijikai.	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
31	研究の実際② Research	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする Research continues.	Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai.	120
32	研究の実際③ Research	教材作成をする. 中間発表の「もみじ会」の準備をする ☒ Research continues.	Draw items for the wall designs. Construct models for Momijikai.	120
33	研究の実際③ Research	教材作成をする. ☒ Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations.	120
34	研究の実際③ Research	教材作成をする. ☒ Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations.	120
35	研究の実際③ Research	教材作成をする. ☒ Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations.	120
36	研究の実際③ Research	教材作成をする. ☒ Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations.	120
37	研究の実際④ Research	教材作成をする. ☒ Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations.	120
38	研究の実際④ Research	教材作成をする. ☒ Research continues.	We are filming animation designs. We are editing movies and animations.	120
39	研究の実際④ Research	教材作成をする. ☒ Research continues.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations.	120
40	研究の実際⑤ Research	教材作成をする. ☒ Research continues.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations.	120
41	研究の実際⑥ Research	教材作成をする. ☒ Research continues.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations.	120
42	研究の実際⑥ ResearchIntermediate Presentation Activity	教材作成をする. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
43	研究の実際⑥ Research Demonstration	教材作成をする。 Demonstrate activity for group. Talk about changes or additions to activity. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
44	研究を進める Research Advancement	読み込んだ資料の内容をまとめていく。 Discuss thoughts on improvements to research. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
45	研究を進める Research Advancement	読み込んだ資料の内容をまとめていく。 Discuss thoughts on improvements to research. Poster samples edited. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
46	研究を進める Research Advancement	必要に応じて、足りない資料の収集をする。 Continue to add and demonstrate changes to research. Poster samples edited. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
47	研究を進める Research Advancement	本文、『保育研究』のフォーマットを知り、論文作成の準備を始める。 Continue to add and format changes to research. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
48	論文の執筆 Writing Paper	論文の執筆を進めていく。 Writing is demonstrated. PowerPoint concepts and editing.	We are working on poster designs. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
49	論文の執筆 Writing Paper	論文の執筆を進めていく。 Writing is demonstrated. PowerPoint concepts and editing.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
50	卒業研究のまとめ 1 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する。 Outline is summarized to convey research. PowerPoint presentaion editing.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
51	卒業研究のまとめ 1 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する。 Outline is summarized to convey research. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
52	卒業研究のまとめ 1 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する。 Outline is summarized to convey research. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
53	卒業研究のまとめ 2 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する Outline is summarized to convey research. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are working on writing reports. We are editing movies and animations. We are working on PowerPoint designs.	120
54	卒業研究発表準備 1 Research Editing	発表のリハーサル Editing is continuous. Demonstration is continuous. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are editing reports. We are timing animations. We are practicing PowerPoint presentation.	120
55	卒業研究発表準備 2 Research Editing 2	発表のリハーサル Editing is continuous. Demonstration is continuous. PowerPoint presentaion editing. Animation edited.	We are editing reports. We are timing animations. We are giving PowerPoint presentation.	120
56	卒業研究発表 Research Announcement	卒業研究の発表プレゼンテーション Editing is being completed, demonstration is being completed. Animation edited.	We are editing reports. We are timing animations. We are giving PowerPoint presentation.	120
57	論文作成 1 Editing Finalizing 1	論文の作成 Writing is being finalized. Animation edited.	We are editing reports. We are editing designs for final presentation. We have designs for wall art.	120
58	論文作成 2 Editing Finalizing 2	論文の作成 Writing is being finalized. Animation edited.	We are editing reports. We are editing designs for final presentation. We have designs for wall art.	120
59	論文提出のための準備 Final Submission	論文の最終確認、印刷、製本 Submission of final material, writing and computer data.	We are editing final reports.	120
60	論文提出のための準備 Final Submission	論文の最終確認、印刷、製本 Submission of final material, writing and computer data.	We are editing final reports.	120

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修	
担当教員	柴田 卓			
開講期	通年			
授業概要	本授業は、メンバー同士で研究計画を作成し、主体的に取り組み、相互に学びあいながら研究を進め、発育発達に応じた保育内容を計画・展開・評価できる実践力の向上を目指す。具体的には、幼児体育・森のようちえんについて、事例や教材を調べ、フィールドワークを多数実施しながら理解を深める。フィールドワーク後は各自でドキュメンテーションを作成してふりかえり、その内容についてディスカッションを行いながら考察を行うなど、アクティブ・ラーニングにより学びを深め、2年間の集大成としてまとめる。☑ ※各ドキュメンテーションの発表後と最終授業において、フィードバックを行う。☑ ※フィールドワークの日程及び回数は、大きく変更する可能性があることを理解しておくこと。☑ ☑ 位置づけ・水準CE2270			
達成目標	本授業における達成目標の観点は、以下の3点である。☑ ①研究に向き合い、課題や問題を発見し改善・解決する力を習得することができたか。☑ ②先行研究や教材研究を行い、幼児体育・森のようちえんの理解を深めることができたか。☑ ③フィールドワークを通して、運動遊びや自然保育を展開する実践力を習得することができたか。☑ ☑ ※単位認定の最低基準は、内容の理解および実践力の習得に関して7割以上であること。☑ ※ディプロマ・ポリシーとの関連：保育の内容理解と総合的計画力、問題解決力、豊かな人間性規範意識			
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	平常点60点(振り返りシート 3 0 点含む) 研究成果 4 0 点(研究発表・論文原稿)	
教科書	必要に応じて資料配布			
参考書	柴田卓 石森真由子編著,運動遊びのすすめ ポートフォリオを活用した保育実践力の探求,みらい,2017☑ 西浦和樹編訳 柴田他訳,科学する心を育てるアウトドア事例集, 北大路書房, 2019			
学生への要望	1. 事前準備や予習を進め、当事者意識を持ち、主体的かつ積極的に研究を進めること☑ 2. 計画的に研究を進めること☑ 3. 教材研究等は予習・復習とし、授業内はメンバーとの議論の場とすること☑ 4. 2年間の集大成として、納得できる研究成果をあげること			
オフィスタイム	木曜日の13時～16時、金曜日の13時～16時 場所：83年館824研究室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション(教室)	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。☑ 自己確認シートの記入☑ ☑	事後学習として、ドキュメンテーションの作成方法について理解する。	60
2	オリエンテーション(教室)	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。 研究倫理について理解を深め、データの収集方法・活用方法を確認する。☑ ☑	事後学習として、ドキュメンテーションの作成方法を修得する。	60
3	研究テーマの構想(教室)	先行研究から研究テーマ、内容について話し合い構想を練る。☑ ●論文の書き方 指導1 ☑ ・研究の基本的な進め方、論文の基本構成☑ ・研究倫理	事前学習として、先行研究を収集する。	60
4	研究テーマの構想(教室)	先行研究から研究テーマ、内容について話し合い構想を練る。☑	事前学習として、先行研究を収集する。	60
5	研究テーマ・グループの決定(教室)	文献およびVTR鑑賞等から研究テーマ・グループ・役割分担(指導・撮影等)を決める。	事後学習として、先行研究を分析する。	60
6	研究テーマ・グループの決定(教室)	文献およびVTR鑑賞等から研究テーマ・グループ・役割分担(指導・撮影等)を決める。	事後学習として、先行研究を分析する。	60
7	フィールドワーク①(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	フィールドワーク①(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
9	リフレクション①(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、計画に応じた準備物を整理・確認する。	60
10	リフレクション①(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、計画に応じた準備物を整理・確認する。	60
11	フィールドワーク②(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
12	フィールドワーク②(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
13	リフレクション②(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
14	リフレクション②(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
15	フィールドワーク③(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
16	フィールドワーク③(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
17	リフレクション③(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
18	リフレクション③(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
19	フィールドワーク④(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
20	フィールドワーク④(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
21	リフレクション④(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
22	リフレクション④(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
23	もみじ会準備	もみじ会準備 ☒	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	もみじ会準備	もみじ会準備 ☒	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	60
25	もみじ会準備	もみじ会準備 ☒	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	60
26	もみじ会準備	もみじ会準備 ☒	事後学習として、準備が終わらなかった点を補う。	60
27	フィールドワーク⑤(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
28	フィールドワーク⑤(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
29	リフレクション⑤(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
30	リフレクション⑤(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
31	フィールドワーク⑥(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
32	フィールドワーク⑥(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
33	リフレクション⑥(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
34	リフレクション⑥(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
35	フィールドワーク⑦(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
36	フィールドワーク⑦(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
37	リフレクション⑦(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
38	リフレクション⑦(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
39	フィールドワーク⑧(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
40	フィールドワーク⑧(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
41	リフレクション⑧(教室)	調査結果のデータ入力・分析	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
42	リフレクション⑧(教室)	調査結果の発表・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
43	フィールドワーク⑨(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
44	フィールドワーク⑨(現地)	下記フィールドより選択して調査を実施 (国見町・小野町・三春町・裏磐梯小野川湖・那須甲子青少年交流の家・磐梯青少年交流の家・福島県民の森、私立幼稚園協会イベント、その他保育施設) 参加学生：本授業受講生 引率教員：授業担当者	事後学習として、ドキュメンテーションを作成しながらふりかえる。	60
45	リフレクション⑨(教室)	調査結果のデータ入力・分析・シェアリング	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
46	卒業研究の書き方指導	●論文の書き方指導 2 ・本文および『保育研究』原稿の書き方と提出方法 ・卒業研究発表会の題目等の確認	事後学習として、リフレクションでの学びを考察としてまとめる。	60
47	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成① ※ゼミ合宿予定	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。☑ (会場：青根マトカまたは郡山自然の家予定)	事前学習として、まとめた考察を整理・分類化する。	60
48	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成① ※ゼミ合宿予定	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。☑ (会場：青根マトカまたは郡山自然の家予定)	事前学習として、まとめた考察を整理・分類化する。	60
49	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成② ※ゼミ合宿予定	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。☑ (会場：青根マトカまたは郡山自然の家予定)	事後学習として、論文を完成させる。	60
50	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成② ※ゼミ合宿予定	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。☑ (会場：青根マトカまたは郡山自然の家予定)	事後学習として、論文を完成させる。	60
51	1回目リハーサル	卒業研究発表会に向けての準備を行う。☑ 記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	事後学習として、論文を完成させる。	60
52	1回目リハーサル	卒業研究発表会に向けての準備を行う。☑ 記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。	事後学習として、論文を完成させる。	60
53	2回目リハーサル	前回同様に進め、完成度を高める。保育研究冊子原稿を校正する。卒業論文の完成に向けて努力する。☑	事後学習として、論文・パワーポイントを完成させる。	60
54	2回目リハーサル	前回同様に進め、完成度を高める。保育研究冊子原稿を校正する。卒業論文の完成に向けて努力する。☑	事後学習として、論文・パワーポイントを完成させる。	60
55	卒業研究発表会・反省会	卒業研究の成果を発表する。反省会を行い、論文に反映させる。☑	事後学習として、発表について振り返り、課題・改善策等を整理する。	60
56	卒業研究発表会・反省会	卒業研究の成果を発表する。反省会を行い、論文に反映させる。☑	事後学習として、発表について振り返り、課題・改善策等を整理する。	60
57	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	60
58	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	60
59	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。	事後学習として、本論と抄録を完成させる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
60	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。 自己確認シートの記入	卒業研究および2年間の学びをふりかえる。	60

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	横溝 聡子,磯部 哲夫,深谷 悠里絵, 草薙 潤一,廣瀬 純,朝日 雅宏			
開講期	通年			
授業概要	子どもの表現活動は遊びや生活経験をイメージした総合的な体験から発せられる。本科目では音楽、歌、踊り、芝居を融合させた総合舞台表現であるミュージカル制作を通し、保育者として企画・構成力、音楽的表現力、造形的表現力、豊かな人間性を磨いていくことをねらいとする。授業では、幼児のための題材を取り上げ、キャスト、スタッフの共同作業で台本を作成し、台詞のメロディー化、振り付け、小・大道具作製を行い、ディスカッションを重ねながらミュージカル作品を作り上げ発表する。中間発表でコメントによるフィードバック、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。位置づけ・水準 CE2270			
達成目標	①キャスト・スタッフの共同作業で、計画的に舞台製作することができる。☑ ②キャスト・スタッフの共同作業において、問題解決能力を身につけていることが確認できる。☑ ③幼児を対象にした音楽的表現、造形的表現が身につけていることが確認できる。☑ 単位認定の最低基準は①～③の内容の7割を理解し、授業や研究発表において確認できること。ディプロマ・ポリシーとの関係は、「保育の内容理解と総合的計画力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」である。			
受講資格	幼児教育学科 2年生	成績評価 方法	平常点（興味・関心・意欲・態度・創意工夫・協調性）60％、ミュージカルによる研究成果（論文含む）40％	
教科書	研究題材が決定後指定する。			
参考書	ミュージカル制作に関する書籍。			
学生への要望	研究倫理を十分に理解し、ルールを決めて協調性を持って共同作業を行うこと。			
オフィスタイム	磯部哲夫：火曜日Ⅱ限、水曜日Ⅳ限 841研究室 横溝聡子・深谷悠里絵：水曜日Ⅳ限、金曜日Ⅲ限 No.1幼児教育学研究室☑			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション1 部・横溝・深谷	磯シラバスを用いたオリエンテーション。「自己確認シート」を記入する。自己紹介をする。	シラバスを事前に読む。	30
2	オリエンテーション2 部・横溝・深谷	磯研究倫理・著作権について理解を深める。ミュージカル制作におけるスタッフの役割について学ぶ。題材について収集した資料を基に、題材選定に向けてディスカッションを行う。	シラバスを事前に読む。	30
3	研究題材の選定 磯部・横溝・深谷	題材について収集した資料を基に、題材選定に向けてディスカッションを行い、題材を決定する。	事前に題材についての資料を収集する。	30
4	役割分担、台本・脚本作成1 磯部・横溝・深谷	ミュージカル制作に向けて台詞・歌詞制作等の役割分担を決め、脚本作成を行う。あらすじ、登場人物、場面設定の明確化を行う。	事前に題材についての資料を収集する。	30
5	台本・脚本作成2 磯部・横溝・深谷	作成した台本に基づき、ディスカッションを重ねて作品への理解を深め、台本を完成させる。	台詞・歌詞についてグループでまとめる。	30
6	台本・脚本作成3 研究倫理指導 磯部・横溝・深谷	作成した台本に基づき、ディスカッションを重ねて作品への理解を深め、台本を完成させる。研究倫理について学ぶ。	台詞・歌詞についてグループでまとめる。	30
7	身体表現1 磯部・横溝・深谷	演劇のエチュードを通して、周囲の言動に敏感に反応して状況を把握する力を養い、身体表現の基礎を学ぶ。	台詞・歌詞についてグループでまとめる。	60
8	身体表現2 磯部・横溝・深谷	演劇のエチュードを通して、周囲の言動に敏感に反応して状況を把握する力を養い、身体表現の基礎を学ぶ。作成した台本に基づいて、音楽について考える。	台詞・歌詞・音楽についてグループでまとめる。	30
9	発声基礎1 磯部・横溝・深谷	発声の基礎を学び、音楽表現力を身につける。	台詞・歌詞・音楽についてグループでまとめる。	30
10	発声基礎2 磯部・横溝・深谷	発声の基礎を学び、音楽表現力を身につける。	台詞・歌詞・音楽についてグループでまとめる。	30
11	キャストイング1 磯部・横溝・深谷	自薦、他薦、オーディション等でキャストイングを行う。	歌唱・台詞の練習をする。	30
12	キャストイング2 磯部・横溝・深谷	自薦、他薦、オーディション等でキャストイングを行う。	歌唱・台詞の練習をする。	30
13	音楽稽古・舞台製作1 部・横溝・深谷	キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大道具の製作について考察する。	キャストは音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
14	音楽稽古・舞台製作2 部・横溝・深谷	キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大道具の製作について考察する。	キャストは音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	音楽稽古・舞台製作 3 部・横溝・深谷	磯キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大道具の製作について考察する。	キャストは音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
16	音楽稽古・舞台製作 4 部・横溝・深谷	磯キャストは歌唱・器楽の音楽レッスン、スタッフは小・大道具の製作について考察する。	キャストは音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
17	立ち稽古・舞台製作 1 部・横溝・深谷	磯キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
18	立ち稽古・舞台製作 2 部・横溝・深谷	磯キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
19	立ち稽古・舞台製作 3 部・横溝・深谷	磯キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
20	立ち稽古・舞台製作 4 部・横溝・深谷	磯キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
21	立ち稽古・舞台製作 5 部・横溝・深谷	磯キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
22	立ち稽古・舞台製作 6 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
23	立ち稽古・舞台製作 7 部・横溝・深谷	磯キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
24	立ち稽古・舞台製作 8 部・横溝・深谷	磯キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
25	立ち稽古・舞台製作 9 部・横溝・深谷	磯キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
26	立ち稽古・舞台製作 10 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
27	立ち稽古・舞台製作 11 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
28	立ち稽古・舞台製作 12 磯部・横溝・深谷	キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
29	立ち稽古・舞台製作 13 部・横溝・深谷	磯キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
30	立ち稽古・舞台製作 14 部・横溝・深谷	磯キャストは動作、表情をつけながらのレッスン、スタッフは小・大道具の製作を行う。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
31	中間発表準備 1 部・横溝・深谷	磯中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
32	中間発表準備 2 部・横溝・深谷	磯中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
33	中間発表準備 3 磯部・横溝・深谷・草薙	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
34	中間発表準備 4 磯部・横溝・深谷・草薙	中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
35	中間発表リハーサル 1 部・横溝・深谷・朝日	磯中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
36	中間発表リハーサル 2 部・横溝・深谷・朝日	磯中間発表であるもみじ会に向けて、キャストは身体・音楽表現、スタッフは造形的表現の最終確認を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	60
37	中間発表 1 磯部・横溝・深谷・草薙	もみじ会において、これまでの研究成果の中間発表を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
38	中間発表 2 磯部・横溝・深谷・草薙	もみじ会において、これまでの研究成果の中間発表を行う。	中間発表に向けキャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
39	卒業論文指導 磯部・横溝・深谷	『本文』『保育研究』の書き方と提出方法について学ぶ。	中間発表の振り返りをする。	30
40	中間発表振り返り 磯部・横溝・深谷	もみじ会の中間発表についてディスカッションを行う。	中間発表の振り返りをする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
41	音楽稽古・舞台製作1 磯部・横溝・深谷・朝日	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を行う。	修正点について考察する。	30
42	音楽稽古・舞台製作2 磯部・横溝・深谷・朝日	中間発表の振り返りを踏まえ、キャスト、スタッフそれぞれの修正を行う。	修正点について考察する。	30
43	音響機器研究1 磯部・横溝・深谷・草薨	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を行う。	音響機器について情報を収集する。	30
44	音響機器研究2 磯部・横溝・深谷・草薨	建学記念講堂の音響機器について操作方法等の説明を行う。	音響機器について情報を収集する。	30
45	立ち稽古・舞台製作1 磯部・横溝・深谷・朝日	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
46	立ち稽古・舞台製作2 磯部・横溝・深谷・朝日	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
47	立ち稽古・舞台製作3 磯部・横溝・深谷・草薨	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
48	立ち稽古・舞台製作4 磯部・横溝・深谷・草薨	中間発表の修正点を踏まえ、身体的表現、音楽的表現、造形的表現を考察する。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
49	通し稽古・舞台製作1 磯部・横溝・深谷・朝日	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
50	通し稽古・舞台製作2 磯部・横溝・深谷・朝日	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	キャストは振り付け、音楽練習、スタッフは舞台製作の準備をする。	30
51	通し稽古・舞台製作3 磯部・横溝・深谷・草薨	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30
52	通し稽古・舞台製作4 磯部・横溝・深谷・草薨	身体的表現、音楽的表現、造形的表現の最終確認を行い、研究発表に向け総合舞台表現の完成度をチェックする。	総合舞台表現の完成度をチェックする。	30
53	まとめ、舞台リハーサル1 磯部・横溝・深谷・朝日・廣瀬	建学記念講堂の舞台上で、立ち位置、動き、小・小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	振り返りを基に研究発表の準備をする。	60
54	まとめ、舞台リハーサル2 磯部・横溝・深谷・朝日・廣瀬	建学記念講堂の舞台上で、立ち位置、動き、小・小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	振り返りを基に研究発表の準備をする。	60
55	まとめ、舞台リハーサル3 磯部・横溝・深谷・朝日・草薨・廣瀬	建学記念講堂の舞台上で、立ち位置、動き、小・小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	振り返りを基に研究発表の準備をする。	60
56	まとめ、舞台リハーサル4 磯部・横溝・深谷・朝日・草薨・廣瀬	建学記念講堂の舞台上で、立ち位置、動き、小・小道具、舞台美術、音響、照明の確認を行う。	振り返りを基に研究発表の準備をする。	60
57	卒業研究発表会 磯部・横溝・深谷・朝日・草薨・廣瀬	建学記念講堂で舞台発表を行う。	振り返りを基に研究発表の最終点検を行う。	60
58	卒業研究発表会 磯部・横溝・深谷・朝日・草薨・廣瀬	建学記念講堂で舞台発表を行う。	振り返りを基に研究発表の最終点検を行う。	60
59	『本文』『保育研究』のまとめ 磯部・横溝・深谷	『本文』『保育研究』をまとめ、提出できるよう準備を行う。	卒業論文をまとめる。	60
60	『本文』『保育研究』のまとめ と自己評価 磯部・横溝・深谷	『本文』『保育研究』をまとめ、提出できるよう準備を行う。「自己確認シート」で自己評価を行う。「劇とあそびのつどい」への準備を行う。	卒業論文をまとめる。	60

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	安部 高太郎		
開講期	通年		
授業概要	本科目では、子どもを育てることに関わる具体的な社会環境を、その場に行ってみて実態を体感しながら、望ましい子育て環境とはどのようなものであるか、フィールドワーク等のアクティヴ・ラーニングの手法を使って探究する。今年は、特に郡山市を主たるフィールドとして定め、参加学生の希望に即しながら、市内の子育てに関わる施設や場所を訪れる。フィールドノートをつけながら、最終的な成果は『保育研究』に文章として残す。☒ 各自の研究テーマの設定、具体的な研究の手法の例示、研究倫理について指導、卒業研究の成果をまとめる『保育研究』に記載する文章の指導等を本科目の時間で行う。最終授業回で、一年間の学びに対して、本授業受講生それぞれに対して担当教員から総合的なフィードバックをするが、平常時にはフィールドノート提出時に担当教員からコメントを付して返すことでフィードバックを行う。☒ ○位置づけ・水準 CE2270		
達成目標	本科目は、ディプロマ・ポリシーのうち「保育の内容理解と総合的計画力」・「問題解決力」・「豊かな人間性と規範意識」に対応している。☒ 具体的な達成目標は次のとおりである。☒ （１） 子育てに関わる自分なりの研究テーマを設定し、『保育研究』に最終的に文章で成果をまとめることを意識し、計画的に研究を進めることができる。☒ （２） 自ら設定した研究テーマ、核となる問いを練りあげ、その問いに対してどのように向き合うことができるかを自分の頭を使って考え、フィールドノートに記すことができる。☒ （３） 子どもを育てることに関わる具体的な社会環境を見聞するにあたって、人権の尊重、研究倫理上の作法等を身につける。☒ 単位認定は、目標の7割以上の達成を基準とする。		
受講資格	幼児教育学科2学年	成績評価 方法	・平常点（フィールドノートへの記載等からみる卒業研究への取り組みの状況）：60点。☒ ・研究成果（卒研発表会での口頭発表、本文、『保育研究』の原稿）：40点。☒ 以上の合計100点満点で評価する。
教科書	特にないが、各自、以下の参考に基づいて、一年間使えるフィールドノートを用意すること。☒ (参考)：コクヨ ノート ソフトリング クリア 方眼ドット罫 B6 80枚 透明 ス-SV548WT-T（およそ500円程度で購入可能）。		
参考書	・仙田満 (2018)『こどもを育む環境、蝕む環境』朝日新聞出版。☒ ・山田ズーニー (2001)『伝わる・揺さぶる! 文章を書く』PHP研究所。☒ ・戸田山和久 (2012)『新版 論文の教室』NHK出版。☒ ※必要に応じて適宜該当箇所等をコピーして受講学生に提示するため、購入の必要はない。☒ ※その他、研究の方向性に即して適宜参考文献を提示する。		
学生への要望	本科目を受講する学生には、以下の点を求める。☒ ・疑問を持ったことに対して、調べようと努力すること。☒ ・他の参加学生と協力し合って、研究を深めようとする。☒ ・(各自で用意する)フィールドノートに気づいたことを書き留めること。		
オフィスタイム	・火曜日Ⅳ限 (14：30～16：00) ・火曜日Ⅴ限 (16：10～17：40) ☒ いずれも、83年館2階の安部研究室 (821研究室) とする。そのほかの時間帯を希望する場合は、予め、安部 (k-abe@koriyama-kgc.ac.jp) までメールで連絡を入れること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	本科目の進め方に関する説明を聞く。本授業受講生の自己紹介及び研究関心を共有する。	自分なりの問題関心を1分程度で紹介できるように、自己紹介及び研究関心についてというテーマで作文をしておく。	30
2	子育て環境をめぐる情報収集	郡山市の子ども・子育てに関わる計画や新聞等での報道、子育てにかかわる施設のHP等から情報を収集し、ゼミメンバー同士で共有し、ディスカッションをする。	郡山市のHPから子ども・子育て支援に関する計画をダウンロードし、内容を少しずつでよいので読んでおく。昨年度の卒業研究について『保育研究』から把握しておく。	30
3	研究倫理に関するレクチャー	サイニー等の論文検索エンジンを使用しながら、文献を調べる方法を伝えと共に、引用や情報の真偽に関する判断の仕方など具体的な研究上倫理的に配慮すべきことを伝える。	本科目の参考書である、『新版 論文の教室』（戸田山, 2012）を参照し、特に第1章第3節の剽窃に関する部分を熟読する。	30
4	研究倫理を踏まえた研究計画の策定	各自の研究計画について、共同的に検討し、計画を練り上げる。	自分自身の研究テーマに即して、どのような題材で何を調べるのか、問いの形で言明できるように紙に記しておく。	30
5	研究倫理を踏まえた研究計画の完成	各自の研究計画について、共同的に検討し、計画を練り上げる。	他者の研究計画に対して、建設的な意見を出せるように、他のメンバーの研究関心に即した情報を得るようにする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	研究計画に即したフィールドワークに向けた事前準備	フィールドワークで行く場所を決定し、フィールドワークを行う日程を組む。	他者の研究計画に対して、建設的な意見を出せるように、他のメンバーの研究関心に即した情報を得るようにする。	30
7	研究計画に即したフィールドワーク①	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド (ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定) ・参加学生：本授業受講学生。 ・引率者：本授業担当教員。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
8	研究計画に即したフィールドワーク①	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド (ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定) ・参加学生：本授業受講学生。 ・引率者：本授業担当教員。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	60
9	研究計画に即したフィールドワーク②	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド (ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定) ・参加学生：本授業受講学生。 ・引率者：本授業担当教員。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
10	研究計画に即したフィールドワーク②	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド (ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定) ・参加学生：本授業受講学生。 ・引率者：本授業担当教員。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	フィールドワーク①・②についての振り返り	前回までのフィールドワークについて授業参加学生同士のディスカッションを通じて振り返る。	各自で以下のことを行うこと。 ・フィールドノートにフィールドワークを通じて気づいたことを記入しておく。 ・フィールドワークにおいて行った施設等の写真をデータ上で整理しておく。	30
12	フィールドワーク①・②についてのフィールドノートの作成	フィールドノートに整理した形で調べたことを記載しておく。	学生同士のディスカッションの内容をフィールドノートにメモしておき、調べた内容を自分なりに整理しておく。	30
13	フィールドノートに基づく卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
14	フィールドノートに基づく卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
15	研究計画に即したフィールドワーク③	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド（ニコニコ子ども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定） ・参加学生：本授業受講学生。 ・引率者：本授業担当教員。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
16	研究計画に即したフィールドワーク③	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド（ニコニコ子ども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定） ・参加学生：本授業受講学生。 ・引率者：本授業担当教員。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
17	研究計画に即したフィールドワーク④	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド（ニコニコ子ども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定） ・参加学生：本授業受講学生。 ・引率者：本授業担当教員。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
18	研究計画に即したフィールドワーク④	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド（ニコニコ子ども館、郡山カルチャーパーク、石筵ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定） ・参加学生：本授業受講学生。 ・引率者：本授業担当教員。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
19	フィールドワーク③・④についての振り返り	前回までのフィールドワークについて授業参加学生同士のディスカッションを通じて振り返る。	各自で以下のことを行うこと。 ・フィールドノートにフィールドワークを通じて気づいたことを記入しておく。 ・フィールドワークにおいて行った施設等の写真をデータ上で整理しておく。	30
20	フィールドワーク③・④についてのフィールドノートの作成	フィールドノートに整理した形で調べたことを記載しておく。	学生同士のディスカッションの内容をフィールドノートにメモしておき、調べた内容を自分なりに整理しておく。	30
21	フィールドノートに基づく卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
22	フィールドノートに基づく卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
23	フィールドノートに基づく卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
24	フィールドノートに基づく卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
25	前期のフィールドワーク(第1ターム)のまとめ			30
26	後期のフィールドワーク(第2ターム)に向けた研究計画の見直し・修正			30
27	フィールドノートに基づく卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
28	フィールドノートに基づく卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
29	フィールドノートに基づく卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
30	フィールドノートに基づく卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
31	研究計画に即したフィールドワーク⑤	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド（ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石籐ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定） ・参加学生：本授業受講学生。 ・引率者：本授業担当教員。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
32	研究計画に即したフィールドワーク⑤	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド（ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石籐ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定） ・参加学生：本授業受講学生。 ・引率者：本授業担当教員。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
33	研究計画に即したフィールドワーク⑥	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド（ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石籐ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定） ・参加学生：本授業受講学生。 ・引率者：本授業担当教員。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30
34	研究計画に即したフィールドワーク⑥	学生の研究計画に即して、以下の想定している子ども・子育て環境に関するフィールドにフィールドワークを行う。 具体的な子ども・子育て環境について、実際にその場に行ってみてわかったことや気付いたことをフィールドノートに記入する。 ・想定している子ども・子育て環境に関するフィールド（ニコニコこども館、郡山カルチャーパーク、石籐ふれあい牧場、郡山市ふれあい科学館スペースパーク、開成山公園・21世紀記念公園等の近隣の公園、その他[学生の希望による子ども・子育て環境に関わる施設等]以上から計画に基づいて決定） ・参加学生：本授業受講学生。 ・引率者：本授業担当教員。	施設の予約やインタビューなどを行う際には、事前のアポイントメントの取り方、研究倫理上の配慮などをレクチャーしたうえで、学生自ら電話等でやり取りを行い、研究活動を進められるように準備する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
35	フィールドワーク⑤・⑥についての振り返り	前回までのフィールドワークについて授業参加学生同士のディスカッションを通じて振り返る。	各自で以下のことを行うこと。 ・フィールドノートにフィールドワークを通じて気づいたことを記入しておく。 ・フィールドワークにおいて行った施設等の写真をデータ上で整理しておく。	30
36	フィールドワーク⑤・⑥についてのフィールドノートの作成	フィールドノートに整理した形で調べたことを記載しておく。	学生同士のディスカッションの内容をフィールドノートにメモしておき、調べた内容を自分なりに整理しておく。	30
37	フィールドノートに基づく卒業研究中間発表会用のスライド・『保育研究』の原稿作成	中間発表に向けてスライドをつくり、併せて『保育研究』の本文執筆を進める。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基に、文章を執筆しておく。	30
38	卒業研究中間発表リハーサル	中間発表に向けたリハーサルを行う。	発表担当箇所について音読してくる。	30
39	卒業研究中間発表	中間発表用のスライドに基づき、卒業研究の中間発表を行う。	発表担当箇所について音読すると共に、想定される質問への答えを用意してくる。	30
40	卒業研究中間発表	中間発表用のスライドに基づき、卒業研究の中間発表を行う。	発表担当箇所について音読すると共に、想定される質問への答えを用意してくる。	30
41	卒業研究中間発表	中間発表用のスライドに基づき、卒業研究の中間発表を行う。	発表担当箇所について音読すると共に、想定される質問への答えを用意してくる。	30
42	卒業研究中間発表	中間発表用のスライドに基づき、卒業研究の中間発表を行う。	発表担当箇所について音読すると共に、想定される質問への答えを用意してくる。	30
43	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
44	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
45	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
46	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
47	『保育研究』の論文作成	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	各自の研究テーマに即して、少しずつでもいいので文章を記してくる。	60
48	『保育研究』の論文作成(完成)	『保育研究』の論文締切に間に合うように、計画的に執筆を進め、必要に応じて途中検討を加えながら、完成にこぎつける。	本文を基にした、『保育研究』用の抜粋原稿をつくっておく。	60
49	卒研発表会用のスライド及び発表原稿作成	卒業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。	60
50	卒研発表会用のスライド及び発表原稿作成	卒業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。	60
51	卒研発表会用のスライド及び発表原稿作成	卒業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。	60
52	卒研発表会用のスライド及び発表原稿作成	卒業研究発表会用のスライド及び発表原稿をつくる。	各自貸与PCでWordを開き、所定の書式に即して、フィールドノートに整理した情報を基にスライド及び原稿を作成しておく。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
53	卒業研究発表会リハーサル	卒業研究発表会の発表用スライドを用いてリハーサルを行う。	発表担当箇所について音読してくる。	60
54	卒業研究発表会リハーサル	卒業研究発表会の発表用スライドを用いてリハーサルを行う。	発表担当箇所について音読してくる。	60
55	卒業研究発表会	卒業研究の発表をスライドを用いて行うと共に、他の卒業研究について知る。	発表担当箇所について音読すると共に、想定される質問への答えを用意してくる。	60
56	卒業研究発表会	卒業研究の発表をスライドを用いて行うと共に、他の卒業研究について知る。	発表担当箇所について音読すると共に、想定される質問への答えを用意してくる。	60
57	卒業研究発表会	卒業研究の発表をスライドを用いて行うと共に、他の卒業研究について知る。	発表担当箇所について音読すると共に、想定される質問への答えを用意してくる。	60
58	卒業研究発表会	卒業研究の発表をスライドを用いて行うと共に、他の卒業研究について知る。	発表担当箇所について音読すると共に、想定される質問への答えを用意してくる。	60
59	相互フィードバック	ディスカッション形式で各自でそれぞれの研究成果に対してフィードバックを行う。	できあがった論文原稿を見返しておく。	30
60	最終フィードバック	担当教員から学生個々に対して、フィードバックを行う。	できあがった論文原稿を見返しておく。	30

科目名	卒業研究	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	宇治 和子		
開講期	通年		
授業概要	ここは臨床心理学の卒業研究です。基本的にはメンバーがやりたいテーマ（子どもに関するもの）を選び、心理学や保育学系の参考資料や文献にあたり、作業や調査を行って研究を深め、1年かけて完成を目指します。全体としては、最初に研究倫理について学び、途中には中間報告、年度末には卒業発表と論文作成という流れです。この授業は、子ども家庭福祉の現場で臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます（CE2270）。		
達成目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・子どもを対象とした研究のデザインと組み立てがわかる。 ・保育や幼稚園の現場で科学的な視点を取り入れた子ども理解ができるようになる。 なおこの科目は、本学科DPの「保育の内容理解と総合的計画力」「問題解決力」「豊かな人間性と規範意識」に関連しています。		
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	平常点（60点：出席、取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの貢献度など）、研究成果（40点：研究発表、本文、『保育研究』原稿）により評価します。
教科書	教科書は使わず、資料を配布します。		
参考書	授業の中で、随時紹介します。		
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。		
オフィスタイム	授業開始前・終了後：宇治研究室（８３６）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	研究の基礎 1	・ 授業内容、評価方法について説明する ・ 関心のあるテーマについてのディスカッション	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
2	研究の基礎 2	・ 関心のあるテーマについてのディスカッション ・ 資料集め・「自己確認シート」の記入	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
3	研究の基礎 3	・ 関心のあるテーマについてのディスカッション ・ 資料集め	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
4	研究の基礎 4	・ 関心のあるテーマについてのディスカッション ・ 資料集め	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
5	研究の基礎 5	・ 関心のあるテーマについてのディスカッション ・ 発表準備	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
6	研究の基礎 6	・ 関心のあるテーマについてのディスカッション ・ 発表準備	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
7	研究の基礎 7	・ 関心のあるテーマについての発表 ・ テーマ・研究グループの決定	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
8	研究の基礎 8	・ 関心のあるテーマについての発表 ・ テーマ・研究グループの決定	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
9	研究の展開 1	・ 研究グループごとに研究の組み立てを考える （検査対象・調査方法・報告準備）	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
10	研究の展開 2	・ 研究グループごとに研究の組み立てを考える （検査対象・調査方法・報告準備）	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
11	研究の展開 3	・ 研究グループごとに研究の組み立てを考える （検査対象・調査方法・報告準備）	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
12	研究の展開 4	・ 研究グループごとに研究の組み立てを考える （検査対象・調査方法・報告準備）	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
13	研究の展開 5	・ 研究グループごとに研究の組み立てを考える （検査対象・調査方法・報告準備）	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	研究の展開 6	・研究グループごとに研究の組み立てを考える (検査対象・調査方法・報告準備)	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
15	研究の展開 7	・研究グループごとに研究の組み立てを報告 (調査準備)	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
16	研究の展開 8	・研究グループごとに研究の組み立てを報告 (調査準備)	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
17	パイロット調査 1	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
18	パイロット調査 2	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
19	パイロット調査 3	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
20	パイロット調査 4	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
21	パイロット調査 5	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
22	パイロット調査 6	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
23	パイロット調査 7	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
24	パイロット調査8	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
25	パイロット調査9	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
26	パイロット調査10	・各研究グループ合同でパイロット調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
27	中間報告の準備と発表1	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
28	中間報告の準備と発表2	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
29	中間報告の準備と発表3	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
30	中間報告の準備と発表4	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
31	中間報告の準備と発表5	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
32	中間報告の準備と発表6	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
33	中間報告の準備と発表7	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
34	中間報告の準備と発表8	・PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
35	本調査1	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
36	本調査2	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施 ・近距離で研究協力してくださる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
37	本調査 3	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施 ・近距離で研究協力して下さる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
38	本調査 4	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施 ・近距離で研究協力して下さる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
39	本調査 5	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施 ・近距離で研究協力して下さる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
40	本調査 6	・各研究グループ合同で本調査の準備と実施 ・近距離で研究協力して下さる園を募り、イベント形式で実際にお邪魔して調査させていただく計画 ・参加学生：本授業受講学生・引率者：本授業担当教員	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
41	論文の執筆 1	・各グループに分かれて結果を整理する ・整理したものを質的に検討する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
42	論文の執筆 2	・各グループに分かれて結果を整理する ・整理したものを質的に検討する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
43	論文の執筆 3	・各グループに分かれて結果を整理する ・整理したものを質的に検討する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
44	論文の執筆 4	・各グループに分かれて結果を整理する ・整理したものを質的に検討する	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
45	論文の執筆 5	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
46	論文の執筆 6	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
47	論文の執筆 7	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
48	論文の執筆 8	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
49	論文の執筆 9	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
50	論文の執筆 1 0	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
51	論文の執筆 1 1	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
52	論文の執筆 1 2	・各グループに分かれて結果を整理する ・検討したものを文章にまとめる	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
53	卒業研究の準備と発表 1	・ PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・ これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
54	卒業研究の準備と発表 2	・ PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・ これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
55	卒業研究の準備と発表 3	・ PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・ これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
56	卒業研究の準備と発表 4	・ PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・ これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
57	卒業研究の準備と発表 5	・ PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・ これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
58	卒業研究の準備と発表 6	・ PowerPointを使用し、発表資料を作成する ・ これまでの活動の振り返り	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
59	まとめ 1	・ 提出に向けて、本文と『保育研究』の原稿を仕上げる ・ 「自己確認シート」の記入	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60
60	まとめ 2	・ 提出に向けて、本文と『保育研究』の原稿を仕上げる ・ 卒業研究のまとめ	テーマに関するニュースや新聞記事、資料などをよく読みこんで、知見を広げる	60